

# 本土復帰から50年、 沖縄はどのような道を歩んできたのか

— NHKの世論調査からみる沖縄の50年 —

世論調査部 中川 和明

## 要約

2022年5月15日、沖縄が本土復帰してから50年を迎えた。NHKは、本土復帰前の1970年から沖縄に関して継続的に世論調査を実施してきた。本稿は、1970年から2022年までNHKが行った世論調査の結果をもとに、沖縄の人々が本土復帰からこれまで、どのような思いを持ってきたのか、本土復帰からの50年間、沖縄はどんな道を歩んできたのかを振り返った。

復帰の2年前に、85%にのぼる人が歓迎した本土復帰だったが、本土復帰の翌年に行われた世論調査では、本土復帰を評価しない人が半数以上を占めた。その後も、復帰を評価しない人が多数を占める状況が続いたが、それは物価高によって苦しい生活が続いたことや、本土復帰によって撤去や縮小されることを期待していたアメリカ軍基地がほとんどそのまま残ることになったことなど、思い描いた姿とは違う本土復帰になったことなどがあった。

その後、政府による沖縄振興策や旅行者の増加などによって、経済が発展し、人々の生活が豊かになっていったことにもなって、本土復帰に対する評価が変わり、1980年代の後半以降、本土復帰を『よかった』と評価する人が8割程度を占める状況が続いている。

一方、復帰後も沖縄に残ったアメリカ軍基地に対しては、長年にわたって、否定的な意見が多数を占めた。基地の存在が既成事実化していったことに加え、同時多発テロ事件や、中国や北朝鮮の脅威など、日本を取り巻く安全保障環境の変化にともない、2000年代に入って、初めてアメリカ軍基地を肯定・容認する人が多数を占めるようになった。基地が残りに残る現実を受け入れざるを得ない一方で、事件や事故、騒音問題など、基地をめぐるさまざまな問題に悩まされ、本音では、アメリカ軍基地が本土並みに少なくなっしてほしいと願う沖縄の人々の変わらぬ思いもようやく知ることができた。

経済的に発展し、観光リゾート地として、全国や海外からも大勢の人が訪れるようになった沖縄であるが、2022年の調査で、今後取り組むべき重要な課題として多くの人が挙げたのが「貧困や格差の解消」だった。全国に比べて所得が低いことなどが背景にあるが、特に子どもたちの貧困が問題となっていて、親とともに子どもたちの貧困に、どう向き合っていくかが新たな課題として浮かび上がっている。

## 目次

はじめに	162	V 復帰40年 振り回された県民の思い	197
I 本土復帰前後の沖縄の人々の思い	163	V-1 本土復帰「評価」は安定	
I-1 復帰前の意識		V-2 変わる安全保障の意識	
I-2 復帰直後の意識		V-3 第V章まとめ	
I-3 復帰3年目と5年目の意識		VI 復帰50年 沖縄の人々の思いは	208
I-4 第I章まとめ		VI-1 本土復帰を「評価」が8割超	
II 復帰10年 変わり始めた県民の意識	176	VI-2 基地と沖縄の経済	
II-1 本土復帰の評価が改善傾向に		VI-3 第VI章まとめ	
II-2 経済発展が続く沖縄		VII テーマ分析（時系列、年層別の変化、 沖縄戦の継承と今後の沖縄）	216
II-3 第II章まとめ		VII-1 時系列比較による分析	
III 復帰20年 経済的に発展した沖縄	184	VII-2 年層別回答推移分析	
III-1 本土復帰を「評価」が多数占める		VII-3 年層間の意識の違い	
III-2 開発が進む裏側で		VII-4 沖縄戦をどう継承するか	
III-3 進まぬ米軍基地への理解		VII-5 沖縄の現状と今後	
III-4 第III章まとめ		おわりに	234
IV 復帰30年 大きく揺れ動いた沖縄	189	調査の質問と回答（単純集計結果）	238
IV-1 本土復帰「評価」多数も暮らし向きが一部で悪化			
IV-2 変わり始めた米軍への意識			
IV-3 第IV章まとめ			

## はじめに

2022年5月15日、沖縄が本土に復帰してから50年を迎えた。NHK放送文化研究所（以下、文研）・世論調査部<sup>1)</sup>は、本土復帰50年に合わせて、2022年2月から3月にかけて沖縄と全国で、本土復帰などに関する世論調査を実施した。調査結果は、文研が刊行している『放送研究と調査』（2022年8月号<sup>2)</sup>に掲載し、今の沖縄の人々の思いを明らかにしてきた。NHKは、今回の調査に限らず、本土復帰前の1970年から沖縄に関して継続的に世論調査を実施してきた。沖縄の本土復帰や基地問題などについて質問を行った調査は合わせて18にのぼり、それらの調査は、本土復帰からの50年間、沖縄の人々がどのような思いを持ってき

たのかを知る上で貴重な手がかりとなるものと考えている（表1）。

太平洋戦争の末期、激しい地上戦が行われ、多くの住民が犠牲となった沖縄。戦後、沖縄にやってきたのはアメリカ軍であり、1945年から1972年までの27年にわたって、アメリカによる統治下に置かれた。アメリカ統治下の沖縄では、アメリカ軍兵士による事件や事故が後を絶たず、中には殺人や強姦などの凶悪な事件も数多く含まれていた<sup>3)</sup>。自分たちの思いのままにならない現状から少しでも脱したい。アメリカの統治下から日本に復帰することで、何とかこの状況を改善したい。そうした沖縄の人々の思いを受けて、1972年に本土復帰が実現した。しかし、本土復帰によって、沖縄の人々の願いはどれだけ叶えられたのだろうか。

表1 沖縄に関する世論調査一覧（NHK）

調査年	調査時期	調査名	調査方法	調査対象		調査相手			
				地域	対象者	相手数 (人)	有効数 (人)	有効率 (%)	
1970年	昭和45年	11月5日～11月8日	沖縄国政参加選挙調査	面接法	沖縄	有権者	1,200	768	64.0
1972年	昭和47年	5月2日～5月4日	沖縄住民意識調査	面接法	沖縄	有権者	1,000	657	65.7
1973年	昭和48年	4月14日～4月16日	沖縄住民意識調査	面接法	沖縄	有権者	1,000	677	67.7
1975年	昭和50年	4月19日～4月20日	沖縄住民意識調査	面接法	沖縄	有権者	900	552	61.3
1976年	昭和51年	6月10日～6月11日	「沖縄県知事選挙」調査	面接法	沖縄	有権者	900	607	67.4
1977年	昭和52年	3月12日～3月13日	沖縄住民意識調査	面接法	沖縄	有権者	750	537	71.6
1978年	昭和53年	12月2日～12月3日	「沖縄県知事選挙」調査	面接法	沖縄	有権者	900	656	72.9
1982年	昭和57年	2月20日～2月21日	「本土復帰10年の沖縄」調査	面接法	沖縄	20歳以上	900	650	72.2
1987年	昭和62年	1月31日～2月2日	「本土復帰15年の沖縄」調査	面接法	沖縄	20歳以上	900	618	68.7
1992年	平成4年	3月7日～3月8日	「本土復帰20年の沖縄」調査	面接法	沖縄	20歳以上	900	706	78.4
			日本人と憲法	面接法	全国	16歳以上	3,600	2,522	70.1
1995年	平成7年	5月12日～5月15日	戦後50年調査（沖縄）	面接法	沖縄	20歳以上	900	683	75.9
2002年	平成14年	3月2日～3月10日	「復帰30年の沖縄」調査	面接法	沖縄	20歳以上	900	587	65.2
			3月2日～3月4日	日本人と憲法	面接法	全国	16歳以上	3,600	2,336
2012年	平成24年	2月18日～3月4日	「復帰40年の沖縄」調査	面接法	沖縄	20歳以上	1,800	1,123	62.4
			2月18日～2月26日	「安全保障意識」調査	面接法	全国	20歳以上	1,800	1,117
2017年	平成29年	4月21日～4月23日	「復帰45年の沖縄」調査	電話法 (RDD)	沖縄	20歳以上	2,729	1,514	55.5
					全国	20歳以上	1,624	1,003	61.8
2022年	令和4年	2月2日～3月25日	復帰50年の沖縄に関する意識調査	郵送法	沖縄	18歳以上	1,800	812	45.1
					全国	18歳以上	1,800	1,115	61.9

本稿では、1970年から2022年までNHKが沖縄の本土復帰に関連して行った世論調査の結果をもとに、沖縄の人々が本土復帰からこれまで、どのような思いを持ってきたのか、本土復帰からの50年間、沖縄はどんな道を歩んできたのかを振り返っていくこととしたい。

なお、第I章から第VI章までは、それぞれの質問に対する回答結果をもとに、沖縄の人々の意識の変遷をみていくことを主体とし、年層別の分析などは第VII章にまとめて行うこととする。

# I

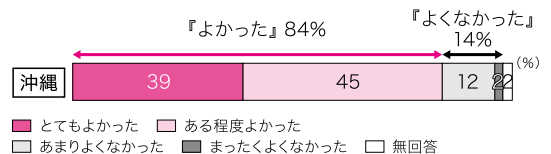
## 本土復帰前後の 沖縄の人々の思い

### I-1 復帰前の意識

#### I-1-1) 50年目の本土復帰の評価

2022年、沖縄が本土に復帰してから50年を迎えるのに合わせて、NHKは沖縄と全国で世論調査を行い、本土復帰についての評価を尋ねた(図1)。このうち、沖縄では、本土復帰について、「とてもよかった」と「ある程度よかった」を合わせた『よかった』<sup>4,5)</sup>と答えた人は84%、「あまりよくなかった」と「まったくよくなかった」を合わせた『よくなかった』と答えた人は14%で、『よかった』が『よくなかった』を大きく上回り、8割以上を占めた。『よかった』と答えた人は、男女、各年層のいずれにおいても8割ほどを占めた。

図1 沖縄の本土復帰の評価(2022年)



このように、沖縄の多くの人々が『よかった』と評価している沖縄の本土復帰であるが、50年前の復帰前後からずっと同じだったのだろうか。それを知るため、復帰前後の1970年代にさかのぼって、当時の人々の意識をみていくことから始めることとしよう。

#### I-1-2) 復帰2年前の沖縄の人々の意識

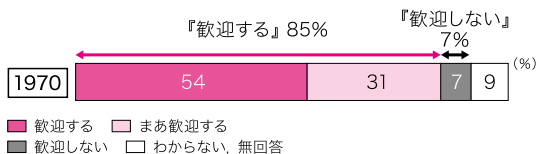
NHKが沖縄の本土復帰に関して1970年代

に行った調査は、復帰2年前の1970年、復帰の年の1972年、復帰翌年の1973年、その2年後ごとに行った1975年と1977年の調査である。さらに1976年と1978年の知事選挙の際に行われた調査も合わせると、7つの調査が行われた。いずれも沖縄県内の調査で、これらの調査をもとに、復帰前後の沖縄の人々がどのような思いを持っていたのかをみていきたい。なお、1980年代までは沖縄県内でのみ調査を行い、1992年以降全国（沖縄県も含む）でも調査を行うようになったが、特にことわりなく、結果を紹介した場合は、沖縄県内の調査であることをご承知おきいただきたい。また、調査結果について、ことわりがない場合は、1つだけ回答を選んでもらったことを表し、複数回答の際は、その旨を表記することとする。

### (1) 復帰に寄せる期待

沖縄の本土復帰に関連してNHKが最初に行った調査が1970年の「沖縄国政参加選挙調査」<sup>6)</sup>である。本土復帰の2年前に行われた調査であるが、日本に復帰するにあたって行われた衆議院と参議院の国政選挙について尋ねるとともに、2年後に迫った本土復帰に対する意識などを調査したものである。この調査で、沖縄が本土<sup>7)</sup>へ復帰することをどう思うかを尋ねたところ、「歓迎する」が54%、「まあ歓迎する」が31%、「歓迎しない」は7%で、「歓迎する」と「まあ歓迎する」を合わせた『歓迎する』は85%にのぼった(図2)。復帰を2年後に控え、沖縄の多くの人が本土復帰を歓迎し、大

図2 本土復帰することをどう思うか (1970年)



きな期待を寄せていたことがわかる。

では、本土復帰に不安はなかったのだろうか。本土復帰後の暮らしに不安を感じるかを尋ねた質問をみでみる。結果は、『不安だ(大いに+少し)』が59%。『不安はない(あまり+まったく)』が33%で、6割近くの人が『不安だ』と答えていた(図3)。

『不安だ』と答えた人に、どういう点が最も不安かを尋ねたところ、「物価」が43%、「収入」が23%、「職業」が20%などと、生活に関わることが上位を占めた(図4)。

不安な点として、「物価」を挙げる人が多かったが、さらに次の質問をみでみる。本土復帰が実現すると、アメリカ関係の収入が減って、沖縄経済が苦しくなるという意見があることについて、どう思うかを尋ねたものである(図5)。「そのとおりだと思う」が55%、「そうは思わない」が29%で、半数以上の人本土復帰によって、アメリカに関係する仕事なくなり、経済的に苦しくなるのではないかと思っていた

図3 本土復帰後の暮らしへの不安 (1970年)

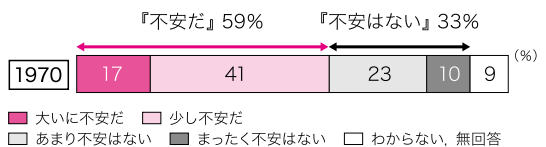


図4 どういう点に不安を感じるか (1970年)  
【該当者：1つだけ回答】

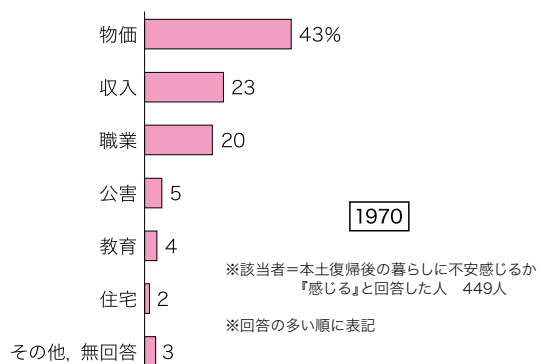
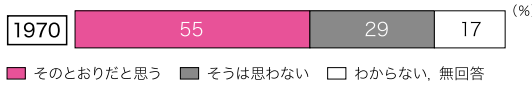


図5 復帰後 経済苦しくなると思うか (1970年)



のだ。

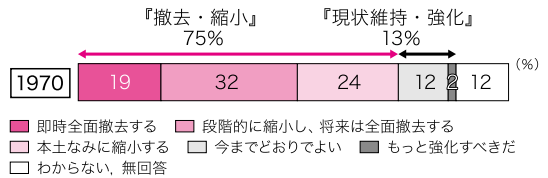
では、当時の沖縄はどのような状況にあったのだろうか。復帰前の沖縄は、アメリカの統治下で戦後の荒廃から立ち直ってはいたが、産業的基盤は脆弱で、アメリカ軍の影響を大きく受けていた。1950年代の朝鮮戦争、1960年代のベトナム戦争では、軍関係の需要が伸びて沖縄の経済を押し上げるようになったが、特にアメリカがベトナム戦争に深く関与することになった1966年から68年にかけては20%近い成長率を記録し、物価が大きく上昇していた<sup>8)</sup>。これを那覇市の消費者物価指数でみると、1965年を100としたとき、1970年は129.8で、5年間で30ポイント近く物価が上昇した<sup>9)</sup>。こうしたことが世論調査における人々の意識にも表れたと考えられる。また、復帰前の沖縄では、ピーク時に4万人から5万人ほどの人たちがアメリカ軍基地で働き、失業率も全国を下回る状況が続いていた。しかし、1969年の返還決定後、1972年の本土復帰までに、アメリカ軍は基地で働く従業員を7,000人ほど解雇しており<sup>10)</sup>、沖縄の人々にとって、本土復帰が実現すると、さらに基地で働く従業員の解雇が進み、雇用状況が悪化するのではないかと不安が増していたことが推察される。

このように、本土復帰前の沖縄では、復帰に期待を寄せる一方で、アメリカの統治下から離れることで経済的に苦しくなるのではないかとといった不安を抱える人も多く、復帰への期待と不安が入り混じった状態だったと考えられる。

## (2) 米軍基地に対する意識

次に、アメリカ統治下の沖縄で大きな存在を占めていたアメリカ軍基地についてみていく。復帰前の沖縄では、沖縄本島の面積の27%ほどをアメリカ軍基地が占めており、軍関係者による事件・事故が後を絶たなかった<sup>11)</sup>。人々の生活に大きな影響を与える存在となっていたアメリカ軍基地について、復帰後どうしたらよいと思うかを尋ねた(図6)。

図6 復帰後の米軍基地をどうしたらよいか (1970年)



「即時全面撤去する」が19%、「段階的に縮小、将来は全面撤去する」が32%、「本土なみに縮小する」が24%、「今までどおりでよい」が12%、「もっと強化すべきだ」が2%で、基地の『撤去・縮小』を望む人は合わせて75%にのぼり、多くの人々がアメリカ軍基地はなくなってほしいと望んでいたのである。アメリカ軍基地が沖縄からなくなり、基地のない平和な島を取り戻したい。これは、沖縄の人々が本土復帰を望む原動力となったものであり、本土復帰前に行った世論調査にも、そのことが表れていた。

### 1-1-3) 本土復帰直前の人々の意識

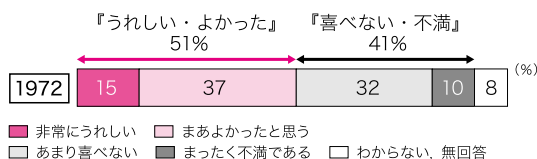
#### (1) 揺れ動く復帰への思い

次に、1972年5月15日の本土復帰直前に行った「沖縄住民意識調査」<sup>12)</sup>をみていこう。

沖縄の本土復帰にあたって、どんな気持ちかを尋ねたところ、「非常にうれしい」が15%、「まあよかった」が37%、「あまり喜べない」が

32%、「まったく不満である」が10%で、「非常にうれしい」と「まあよかった」を合わせた復帰に肯定的な回答が51%、「あまり喜べない」と「まったく不満である」を合わせた復帰に否定的な回答は41%となった(図7)。復帰に肯定的な回答が否定的な回答を上回っているとはいえ、4割ほどの人が否定的な回答をするなど、本土復帰に対して、大多数の人が手放しで喜んでいただけではなかった。

図7 復帰に対する感情(1972年)

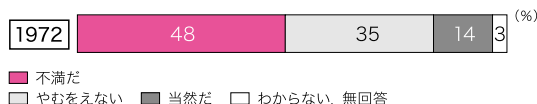


復帰2年前の1970年の調査では、8割以上の人が本土復帰を歓迎していたのに、本土復帰を直前に控えたこの時期に、復帰に否定的な人が一定数にのぼった背景には何があったのだろうか。それを分析するために、次の2つの質問をみていく。

## (2) 人々を悩ます物価高

アメリカ統治下の沖縄では、日常生活にドルが使われていたが、日本に復帰することによって、ドルから円に通貨が切り替わることになった。これについて、どう思うかを尋ねた。「不満だ」が48%、「やむをえない」が35%、「当然だ」が14%で、「不満だ」と答えた人が半数近くを占めた(図8)。

図8 円切り替えへの不満(1972年)



また、復帰によって、今後の暮らし向きがど

うなると思うかを尋ねたところ、『楽になるだろう(「少し楽になるだろう」を含む)』が12%、『苦しくなるだろう(「少し苦しくなるだろう」を含む)』が60%、「変わらないだろう」は15%だった(図9)。

『苦しくなるだろう』と答えた人に、そう思う理由を1つだけ挙げてもらったところ、「物価が高くなるから」が68%と最も多く、「沖縄が不景気になり、失業するおそれがあるから」が11%などと、物価が高くなることや景気が悪くなることに懸念を持つ人が多かった(図10)。

こうした不安は、次の質問にも表れている。政府にどんなことを望むかを1つだけ挙げてもらったところ、「物価を安定させる」が40%、「社会保障を充実させる」が14%、「失業の心配をなくす」が9%となるなど、物価対策を求める回答が最も多くなった(図11)。

図9 今後の暮らし向き(1972年)

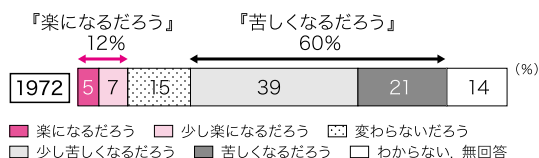


図10 暮らし向き『悪くなる』と思う理由(1972年)【該当者：1つだけ回答】

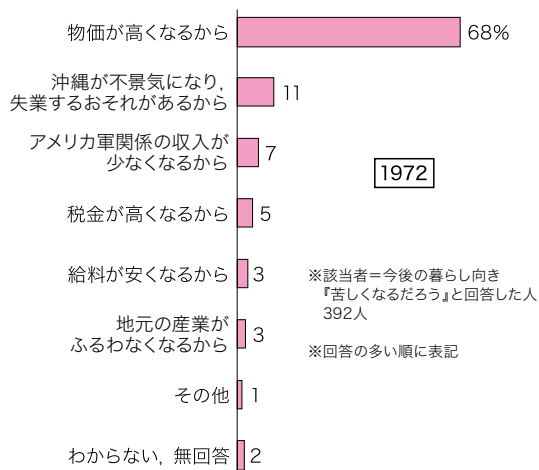
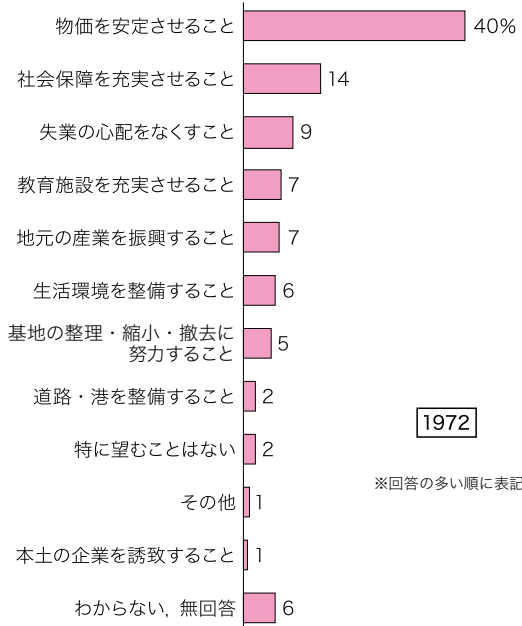


図11 政府に望むこと（1972年）【1つだけ回答】



### (3) ニクソン・ショックと物価高

すでに物価が上がり始めていたことは紹介した通りだが、本土復帰1年前の1971年にニクソン大統領によるドルと金との交換停止、いわゆる「ニクソン・ショック」が発表された。その後、円の切り上げが行われ、ドルで生活していた沖縄の人々にも大きな影響を及ぼした。当時の沖縄は、生活物資の8割ほどを日本から購入していて、円の切り上げによって、円高ドル安になると、日本から購入する物の値段が上がり、それが物価高につながったからである。那覇市の消費者物価指数でも、1965年を100としたときに、ニクソン大統領による政策転換が発表される前の1971年7月時点で137.5だった指数が、ニクソン・ショックから4か月後の12月には144.8と、わずか5か月ほどの間に5ポイント以上も上昇していた<sup>13)</sup>。

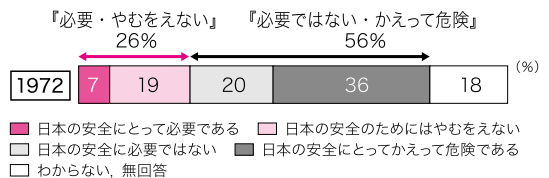
こうした急激な物価上昇は、本土復帰前から人々に不安を抱かせることとなり、復帰が実現すると、さらに物価が上がって生活が苦しく

なるのではないかと、多くの人が考えていたことがわかる。

### (4) 米軍基地への思いは変わらず

復帰を間近に控え、アメリカ軍に対する考えはどうだったのだろうか。本土復帰によってアメリカ軍基地がなくなることを願っていた沖縄の人々であったが、復帰が近づくにつれて、基地のほとんどがそのまま残ることが明らかになっていった。こうした中、復帰後も沖縄にアメリカ軍基地が残ることについて、どう思うかを尋ねた。「日本の安全にとって必要である」が7%、「日本の安全のためにはやむをえない」が19%、「日本の安全に必要ではない」が20%、「日本の安全にとってかえって危険である」が36%となった。日本の安全にとって「必要ではない」と「かえって危険である」を合わせたアメリカ軍基地に否定的な回答が56%と半数以上を占めた(図12)。

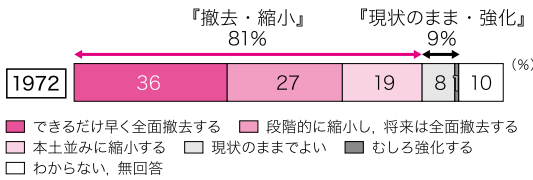
図12 沖縄の米軍基地をどう思うか（1972年）



撤去や縮小が叶わなかったアメリカ軍基地であるが、復帰後、どのようにしたらよいと思うかを尋ねた(図13)。「できるだけ早く全面撤去する」が36%、「段階的に縮小し、将来は全面撤去する」が27%、「本土並みに縮小する」が19%、「現状のままでよい」が8%、「むしろ強化する」が1%だった。基地の撤去と縮小を望む回答は合わせて81%にのぼり、アメリカ軍基地が残ることが決まっても、最終的に基地はなくなってほしいと、沖縄の多くの人た

ちが望んでいたのである。

図13 沖縄の米軍基地どうしたらよいか (1972年)



### (5) 自衛隊の配備「反対」が多数

一方、自衛隊に対する考えはどうだったのだろうか。復帰後、沖縄に自衛隊が配備されることになっていたが、自衛隊配備への賛否を尋ねたところ、「どちらかといえば、賛成」も合わせた『賛成』が28%、「どちらかといえば、反対」も合わせた『反対』が60%と、『反対』が『賛成』を大きく上回った(図14)。「前の戦争のながい経験があるから」が42%で最も多く、「自衛隊の存在そのものに疑問を感じるから」が25%、「アメリカ軍の肩代わりをするから」が25%、「アメリカ軍の肩代わりをす

図14 沖縄への自衛隊の配備 (1972年)

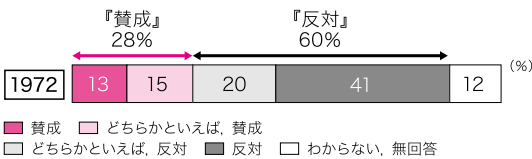
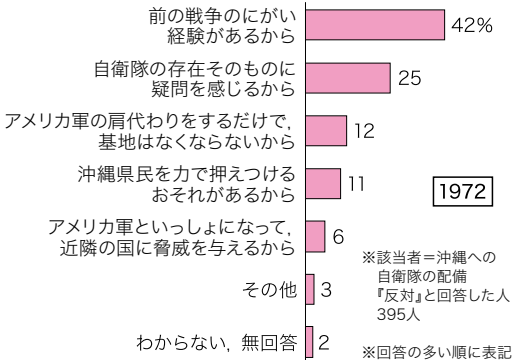


図15 自衛隊配備『反対』の理由 (1972年) 【該当者：1つだけ回答】



るだけで、基地はなくなるから」が12%、「沖縄県民を力で押えつけるおそれがあるから」が11%などとなった(図15)。

太平洋戦争末期に激しい地上戦が行われた沖縄では、住民の犠牲者を含め、20万人以上が亡くなった。旧日本軍が住民を守ってくれず、むしろ、アメリカ軍のスパイとみられたり、アメリカ軍に居場所を知られたりするなどとして、多くの住民が犠牲になった<sup>14)</sup>こともあり、沖縄の人々にとって、つらい記憶として残っていた。そのような旧日本軍と自衛隊とを重ね合わせる人も多く、自衛隊の配備に対する抵抗感は根強かったと言える。

ここまで、復帰前までの沖縄の人々の意識をみてきたが、実際に本土復帰が行われたあとの県民の意識に変化はあったのだろうか。

## 1-2 復帰直後の意識

### 復帰翌年の県民の思いは

#### (1) 本土復帰への不満高まる

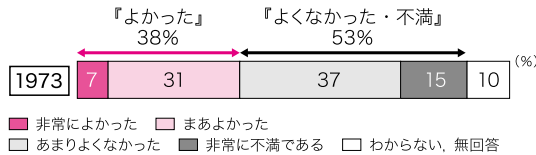
復帰翌年の1973年に行われた「沖縄住民意識調査<sup>15)</sup>」をみていく。

沖縄の本土復帰から1年を振り返ったときの気持ちを尋ねたところ、「非常によかった」が7%、「まあよかった」が31%、「あまりよくなかった」が37%、「非常に不満である」が15%で、本土復帰に否定的な回答(53%)が半数を占めた(図16)。復帰の2年前に行った調査では、本土復帰を歓迎する回答が8割を超え、その2年後の1972年の復帰直前に行った調査でも、復帰に肯定的な回答が半数を占めていたが、復帰後最初に行った調査では、否定的な回答が多くなった。

なぜ、そうなったのか。それを知る手がかりとして次の質問をみていく。1年前と比べた暮

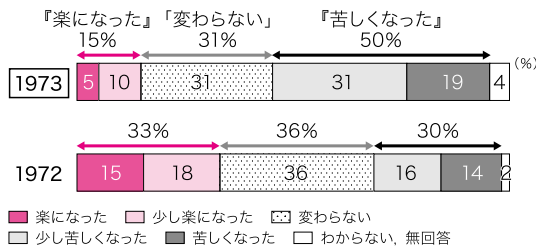


図16 本土復帰の評価 (1973年)



らし向きを尋ねたものである(図17)。「少し楽になった」も合わせた『楽になった』が15%、「少し苦しくなった」も合わせた『苦しくなった』が50%、「変わらない」が31%だった。1年前の1972年に比べると、『楽になった』が18ポイント減少したのに対し、『苦しくなった』が20ポイント増えて、本土復帰後に、『苦しくなった』と答えた人が大きく増加することになった。復帰前から生活が苦しくなるのではないかと不安を抱いていた人が多かったが、本土復帰によって、その不安が現実のものとなったとみることができる。

図17 暮らし向き (1972年・1973年)

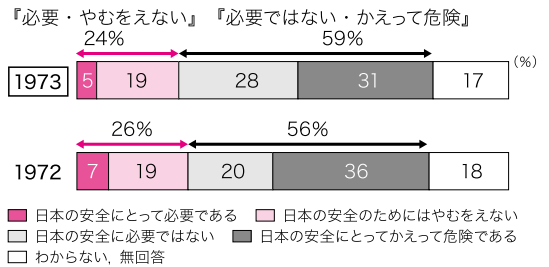


## (2) 変わらぬ米軍と自衛隊への考え

本土復帰後、アメリカ軍基地に対する考えに変化はあったのだろうか。復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていることについて、どう思うかを尋ねた。日本の安全にとって「必要である」が5%、「やむをえない」が19%、「必要ではない」が28%、「かえって危険である」が31%となった。「必要ではない」と「かえって危険である」を合わせた否定的な回答が59%と半数以上にのぼり、アメリカ軍基地は必要ではないと考えている人が多数を占める結果と

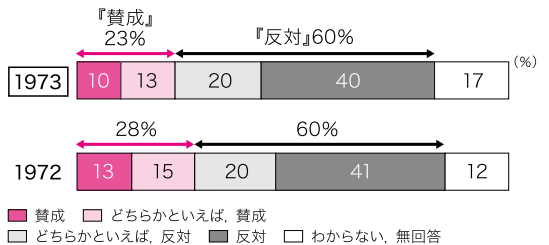
なった(図18)。

図18 沖縄の米軍基地をどう思うか (1972年・1973年)



一方、復帰後に行われた自衛隊の配備については、どうだったのだろうか。沖縄への自衛隊の配備について賛否を尋ねたところ、「どちらかといえば、賛成」を合わせた『賛成』が23%、「どちらかといえば、反対」を合わせた『反対』は60%だった。自衛隊の配備についても、1972年の調査と同じように、否定的な回答が多数を占めることとなった(図19)。

図19 沖縄への自衛隊の配備 (1972年・1973年)

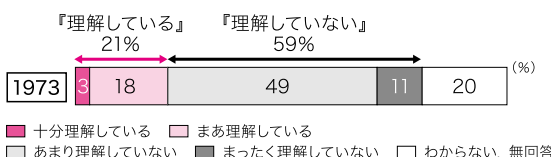


## (3) 沖縄の人の気持ちを本土の人は理解していない

沖縄の人々が望んでいた本土復帰は実現したが、物価高によって暮らし向きは苦しくなり、撤去や縮小を望んだアメリカ軍基地はそのまま残ることになった。さらに、多くの県民が反対していた自衛隊の配備も進められることになり、期待していたような本土復帰になったわけではなかった。自分たちが思い描いたような本土復

帰とならなかった沖縄の人々にとって、その心境を垣間みられるのが次の質問である。沖縄の人々の気持ちを、本土<sup>16)</sup>の人は理解していると思うかを尋ねたものだ。「十分理解している」と「まあ理解している」を合わせた『理解している』が21%、「あまり理解していない」と「まったく理解していない」を合わせた『理解していない』が59%だった(図20)。

図20 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか(1973年)



本土復帰が、自分たちが期待していたものとは違った結果となってしまったことに、何ともやりきれない思いを持っている沖縄の人々の気持ちを、本土の人は理解してはいないだろう。そうした沖縄の人々の思いが調査結果に表れたものと考えることができる。

### I-3 復帰3年目と5年目の意識

本土復帰から時間が経つにつれ、沖縄の人々の意識はどうなっていったのであろうか。本土復帰から3年目(1975年)と5年目(1977年)の調査結果<sup>17)</sup>をみていこう。

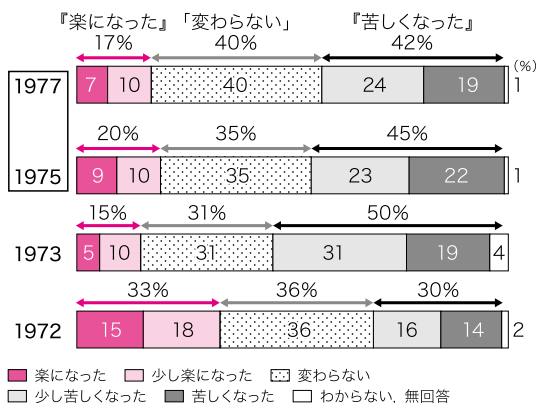
#### (1) 暮らし向きに改善の兆しも

まず生活がどうなったのかをみていく。1年前と比べた暮らし向きについて尋ねたところ、1975年の調査では、『楽になった(「少し楽になった」を含む)』が20%、『苦しくなった(「少し苦しくなった」を含む)』が45%、「変わらない」は35%だった。先に紹介したように、2年

前の1973年には暮らし向きが悪化していたが、1975年には『苦しくなった』が1973年より5ポイント減少し、反対に『楽になった』が5ポイント増加して、持ち直しがみられた。

1977年には、『楽になった』が17%、『苦しくなった』が42%、「変わらない」が40%で、1975年の調査に比べ大きな変化はなかった。この期間の変化をみる上でポイントとなるのが、1975年の沖縄国際海洋博覧会(以下、海洋博)である。海洋博をめぐる意識についてはのちに詳しく紹介するが、海洋博に向けて経済が成長していった1973年から75年にかけては、『楽になった』が増加するなど改善傾向がみられた一方、海洋博が終了し、景気の落ち込みに見舞われた1975年から77年にかけては、『楽になった』が横ばいになるなど、当時の経済状況が表れる結果となった(図21)。

図21 暮らし向き(1972年~1977年)

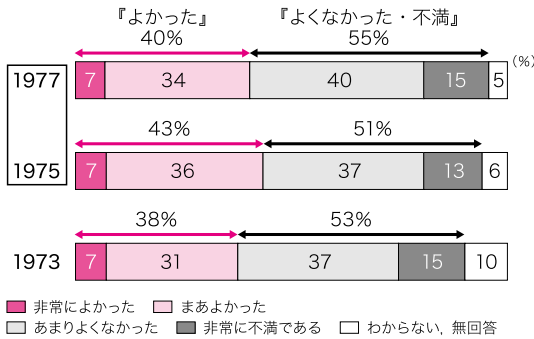


#### (2) 本土復帰の評価 不満が多数

では、本土復帰の評価はどうなったのだろうか。1975年の調査で、本土復帰から3年間をふりかえったときの気持ちを尋ねた。「非常によかった」と「まあよかった」を合わせた『よかった』が43%、「あまりよくなかった」と「非常に不満である」を合わせた『よくなかった・不

満』が51%で、1973年の調査に比べ、『よくなった』が5ポイント上昇した。本土復帰から5年が経った1977年の調査では、『よかった』が40%、『よくなかった・不満』が55%で、1975年の調査と大きな違いはみられず、暮らし向きと同じように1975年にかけて改善し、1977年にかけては横ばいという動きがみられた(図22)。

図22 本土復帰の評価(1973年~1977年)



次に、1977年の調査で初めて盛り込まれた、復帰前と比べてよくなった点と悪くなった点をみていく。復帰前と比べてよくなった点について尋ねたところ(複数回答:いくつでも可)、「医療保険や社会保障など社会福祉が充実した」が55%、「学校、水道、道路など公共の施設が充実した」が50%、「学校教育の内容や程度が向上した」が25%、「県民の権利や自由が守られるようになった」と「本土との精神的な一体感が強まった」がともに22%だった(図23)。一方、悪くなった点として、「犯罪など社会の混乱や不安が多くなった」が51%、「県民の暮らしが苦しくなった」が46%、「観光や産業開発で自然が破壊された」が39%、「沖縄の伝統的な文化やしきたりが失われた」が18%などとなった(図24)。

このように、よくなった点として、医療保険や社会保障などの社会福祉や、学校、水道、

図23 復帰前に比べよくなった点(1977年)  
【複数回答】

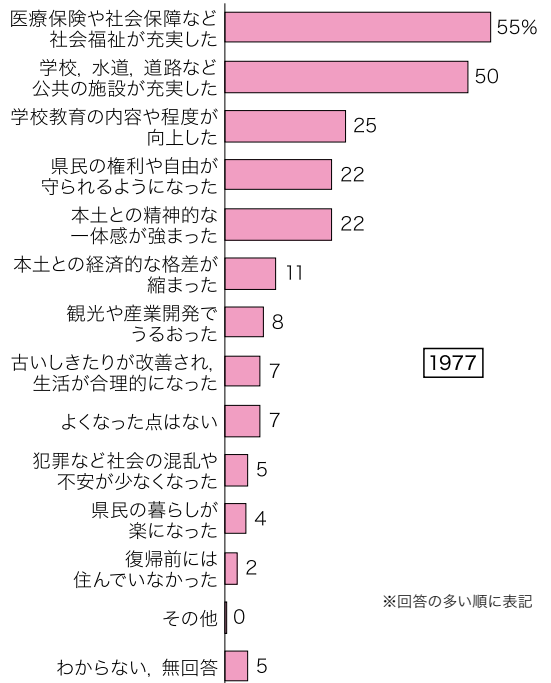


図24 復帰前に比べ悪くなった点(1977年)  
【複数回答】

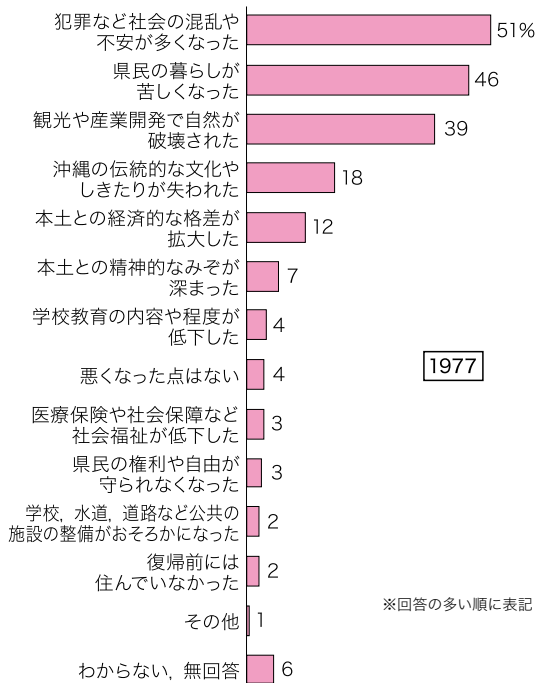


図25 国や県に力を入れてほしいこと（1975年）  
【複数回答：3つまで】

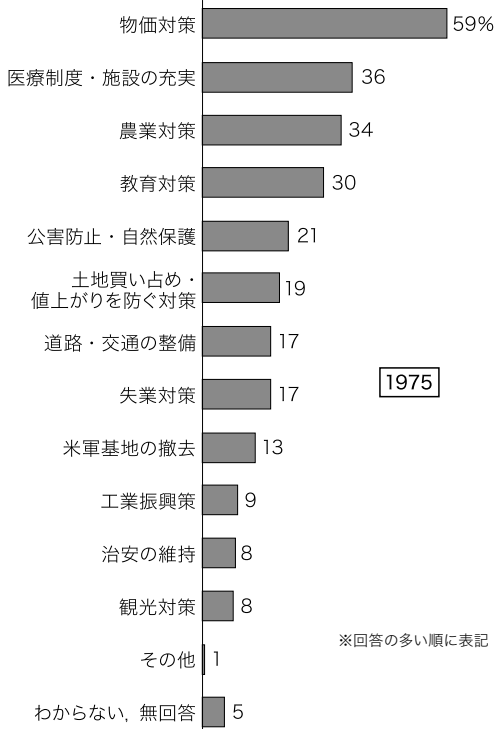
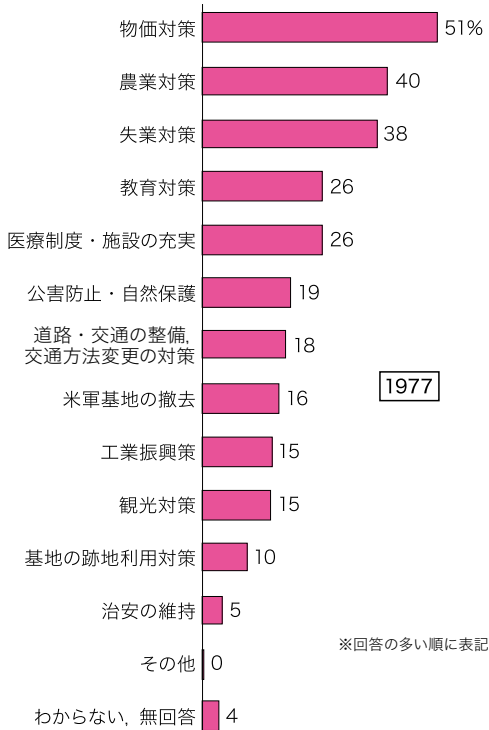


図26 国や県に力を入れてほしいこと（1977年）  
【複数回答：3つまで】



道路などの公共施設が充実したことを挙げる人が多かった。一方、悪くなった点としては、犯罪など社会の不安が高まったことや県民の暮らしが苦しくなったことを挙げる人が多かった。

### (3) 課題は依然として「物価高」

国や県に力を入れてほしいことについてみていく。1975年の調査（複数回答：3つまで）では、「物価対策」が59%と最も多く、「医療制度・施設の充実」が36%、「農業対策」が34%、「教育対策」が30%などとなった。6割ほどの人が「物価対策」を挙げたが、特に、1975年は、復帰によってドルから円に通貨が切り替わったことによる影響だけでなく、海洋博に向けた経済の動きや1973年に起きた第4次中東戦争をきっかけとしたオイルショックによる物価高などもあって、多くの人にとって、物価高が最も解決してほしい課題となっていた。

1977年の調査では、「物価対策」が51%、「農業対策」が40%、「失業対策」が38%、「教育対策」が26%などとなった。

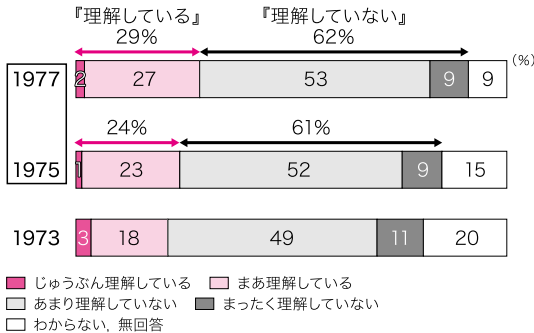
「物価対策」が引き続き最も多いものの、1975年より8ポイント減った一方で、「失業対策」が21ポイント増えていて、先に紹介した海洋博前後の経済の状況が表れることとなった（図25・26）。

### (4) 「本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していない」が6割

本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているかを尋ねた質問をみていく。1975年の調査では、『理解している（じゅうぶん+まあ）』は24%、『理解していない（あまり+まったく）』は61%で、1973年の調査に続き、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していないと考えている人が多くを占めることとなった。続く1977年

の調査では、「わからない、無回答」が減って、『理解している』が増え、『理解している』が徐々に増加する傾向にあるものの、全体の状況は変わらず、『理解していない』と答えた人が62%にのぼった(図27)。

図27 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか(1973年～1977年)



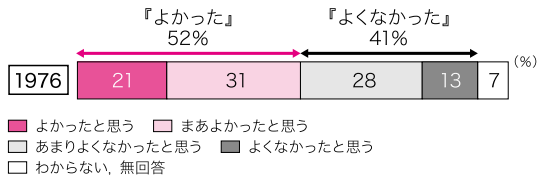
### (5) 海洋博への評価

これまでみてきたように、1975年と1977年の調査で大きな影響を与えたとみられるのが1975年に開かれた海洋博である。海洋博は、復帰直後の沖縄におけるインフラ整備を進める起爆剤として計画されたもので、この海洋博に向けて、道路や港、空港などの整備が進んだ。この海洋博について、当時の沖縄の人々はどのように思っていたのか、1976年の知事選挙に合わせて行われた調査の結果からみていくこととしよう。

海洋博について、沖縄にとってよかったと思うかどうかを尋ねたところ、『よかったと思う(「まあよかったと思う」を含む)』が52%、『よくなかったと思う(「あまりよくなかったと思う」を含む)』が41%で、『よかった』と評価する回答が『よくなかった』を上回った(図28)。

次に、海洋博についてよかったと思うことを尋ねたところ(複数回答:いくつでも)、「道路や港湾、空港などが整備され、生活環境がよ

図28 海洋博の評価(1976年)



くなかった」が49%、「沖縄館は沖縄の歴史と文化を正しく紹介し、県民に誇りをもたせた」が33%、「沖縄を世界の人に知らせ、国際親善に役立った」が32%などとなった(図29)。一方、よくなかったと思うことについては、「見学者が少なく、物価だけがあがって倒産がふえるなど沖縄の経済を混乱させた」が66%、「海洋博関連工事で自然や景観が破壊され、生活環境が悪くなった」が28%などとなった(図30)。海洋博は、復帰後まもない沖縄のインフラ整備に役立ったことがわかるが、一方で、当初の見込みより来場者が少なかったことや、海洋博の終了後、沖縄を訪れる観光客が減ったことなどもあって、景気が落ち込み、倒産が増えるなど経済面で大きな影響を受けたことや、開発にともない自然が損なわれたことなどを負の側面として挙げる人が多かった。

図29 海洋博でよかったこと(1976年)  
【複数回答】

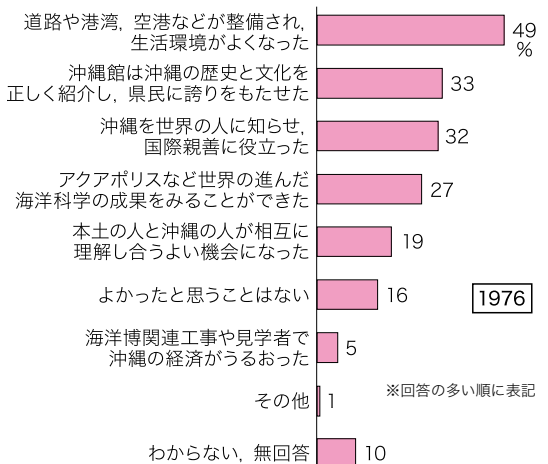


図30 海洋博でよくなかったこと (1976年)  
【複数回答】

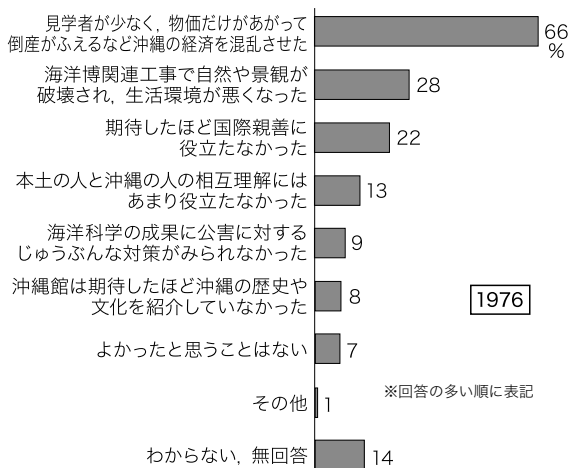
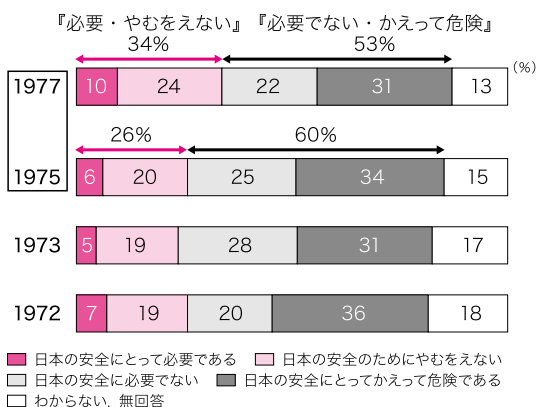


図31 沖縄の米軍基地をどう思うか (1972年～1977年)



### (6) 米軍への意識と自衛隊への意識

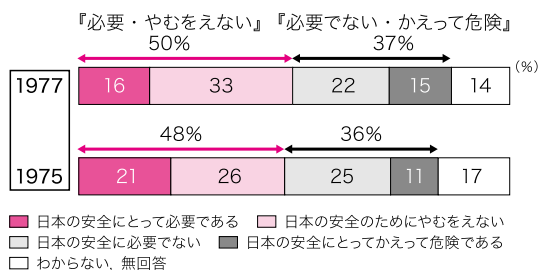
続いて、アメリカ軍への意識と自衛隊への意識はどうなったのかをみていく。まず沖縄のアメリカ軍基地について、1975年の調査結果をみると、日本の安全にとって、「必要である」が6%、「やむをえない」が20%、「必要でない」が25%、「かえって危険である」が34%で、2年前の1973年の調査と大きな違いはみられなかった。次に1977年の調査結果をみると、日本の安全にとって「必要である」(10%)と「やむをえない」(24%)を合わせたアメリカ軍

基地を肯定・容認する回答が34%で、1975年の調査より8ポイント増えたのに対し、「必要でない」(22%)と「かえって危険である」(31%)を合わせた否定的な回答は53%で7ポイント減少し、少しではあるが、意識の変化がみられた(図31)。

一方、復帰後、自衛隊が沖縄に配備されたことについては、1975年の調査では、日本の安全にとって「必要である」が21%、「やむをえない」が26%、「必要でない」が25%、「かえって危険である」が11%となった。質問の選択肢を変更したため、それ以前の調査と比較はできないが、2年前に行った1973年の調査では、沖縄への自衛隊の配備に『反対』と答えた人が6割に達していたが、復帰から3年後の1975年の調査では、自衛隊の配備を肯定・容認する回答(48%)が、配備に否定的な回答(36%)を上回る結果となった。

復帰から5年後の1977年の調査結果をみても、日本の安全にとって「必要である」「やむをえない」を合わせた配備を肯定・容認する回答が50%で、「必要でない」「かえって危険である」を合わせた否定的な回答の37%を上回った(図32)。

図32 沖縄への自衛隊の配備 (1975年・1977年)



自衛隊の配備については、復帰前後の調査では、6割ほどの人が反対していたのに、なぜ、

復帰から3年ほどで県民の意識は変わったのだろうか。当時の調査結果を紹介した文研の『放送研究と調査』（1975年8月号）や2017年の防衛研究所紀要をみると、「自衛隊は、沖縄に配備された直後から、隊員の住民票登録拒否やその子どもたちの就学拒否などに遭いながらも、遺骨収集活動や海難救助活動、不発弾の処理、離島の救急患者の搬送などにあたったほか、継続的な広報活動と基地周辺整備資金による地域への設備の提供などもあって、徐々に住民から受け入れられるようになったこと。さらに、地域の活動にも積極的に参加し、そうしたことが沖縄県民の理解を得られる結果につながったのではないかと紹介している<sup>18, 19)</sup>。

## I-4 第I章まとめ

ここまで、1970年代の調査結果をみてきたが、1970年代は、本土復帰をはさみ、沖縄の人々の気持ちが大きく揺れ動いた時代でもあった。多くの人々が本土復帰に期待を寄せたものの、復帰したあとも続く物価高によって、生活が苦しくなり、本土復帰への評価は、暗転することとなってしまった。その後、海洋博に向けた開発や政府による振興策などもあって、暮らし向きは少しずつ改善する傾向がみられたものの、海洋博後は再び景気の落ち込みを経験した。一方、撤去や縮小を望んだアメリカ軍基地については、復帰後もほとんどがそのまま残ることとなり、住民の不満は根強かった。1970年代に行われたいずれの調査でも、アメリカ軍基地に対して「必要ない」など否定的な回答が半数ほどを占めた。しかし、アメリカ軍と同じように、70年代初めまで否定的な意見が多数を占めていた自衛隊については、復帰後、自

衛隊によるさまざまな活動の成果などもあって、配備を肯定・容認する意見が増えていった。1970年代の沖縄は、復帰前の期待から復帰後の落胆へと変わり、その後、暮らし向きが少しずつ改善していく傾向がみられたものの、生活は依然厳しく、本土復帰に対する評価も厳しいものとなった。

## II

# 復帰10年 変わり始めた県民の意識

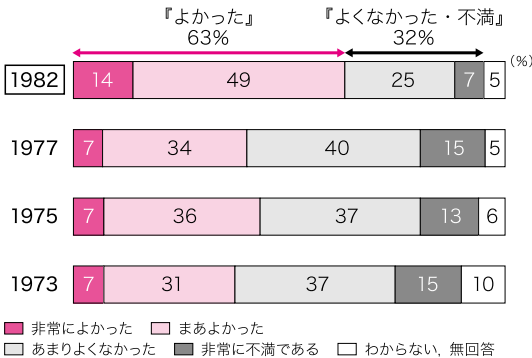
## II-1 本土復帰の評価が 改善傾向に

本土復帰から10年を迎え、沖縄の人々の意識はどうなっていったのだろうか。本土復帰から10年となる1982年の調査結果<sup>20)</sup>をみていこう。

### (1) 本土復帰評価が初めて半数超え

本土復帰からの10年をふりかえって、沖縄の本土復帰に対する気持ちを尋ねた。「非常によかった」と「まあよかった」を合わせた『よかった』が63%、「あまりよくなかった」と「非常に不満である」を合わせた『よくなかった・不満』が32%で、『よかった』が初めて半数を超えることとなった(図33)。

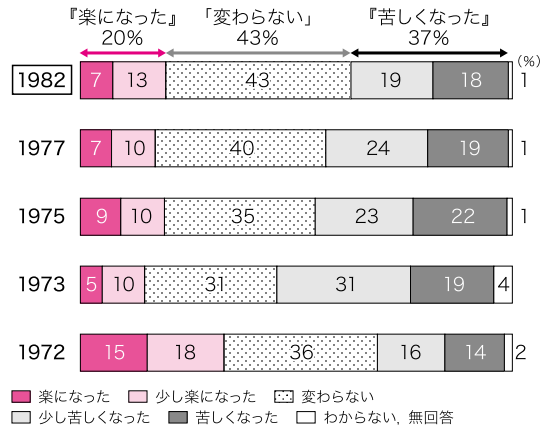
図33 本土復帰の評価(1973年～1982年)



1980年代に入り、復帰に対する評価は飛躍的に改善することになったが、この背景には何があったのだろうか。それを探るため、まず県

民の暮らし向きに対する意識はどうなったのかをみってみる。あなたの暮らし向きが1年前と比べてどうなったかを尋ねた。『楽になった(「少し楽になった」を含む)』が20%、『苦しくなった(「少し苦しくなった」を含む)』が37%、『変わらない』が43%だった。『苦しくなった』は、1973年から1982年にかけて、少しずつではあるが、減少を続けていて、暮らし向きが改善傾向にあることがみてとれる(図34)。

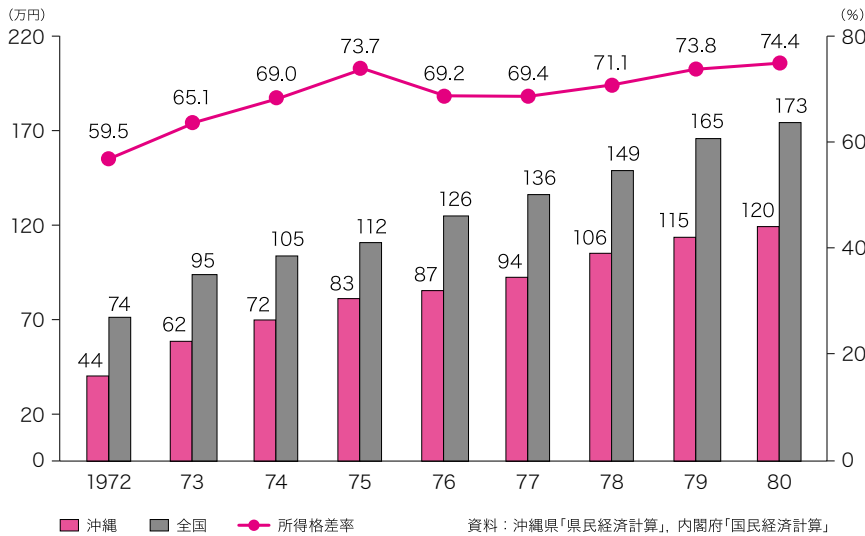
図34 暮らし向き(1972年～1982年)



当時の沖縄の人々の生活はどうだったのだろうか。内閣府の「国民経済計算」と沖縄県の「県民経済計算」をもとに、1人あたりの県民所得をみってみる。復帰が実現した1972年の沖縄県の1人あたりの県民所得は44万円(年額:当時の価格)あまりだったが、1980年には3倍近い120万円ほどに増えていた。また全国平均に対する比率をみても、1972年は59.5%だったが、1975年に73.7%まで上昇し、その後、海洋博後の景気の落ち込みもあって、やや落ち込んで横ばいの状況が続いたが、1980年には74.4%に改善されており<sup>21)</sup>、生活の向上を実感する県民が多くなったと考えられる(図35)。



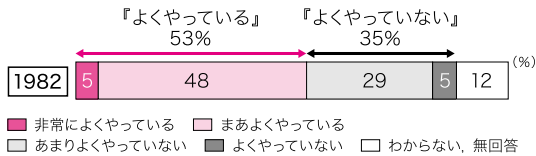
図35 1人あたりの県民所得（沖縄県）（1972年～1980年）



## (2) 進むインフラ整備とその光と影

本土復帰の評価が多数を占めるようになる中、国の復帰対策について、どう思うかを尋ねた。『よくやっている（非常に+まあ）』が53%、『よくやっていない（あまりよくやっていないを含む）』が35%で、『よくやっている』と評価する回答が、評価しない回答を上回った（図36）。

図36 国の復帰対策への評価（1982年）



復帰前と比べて、どのような点がよくなったと考えているかを尋ねたところ（複数回答：いくつでも可）、「学校・水道・道路など公共の施設が充実した」が61%、「医療保険や社会保障など社会福祉が充実した」が55%などとなって、1977年と比べ、「学校・水道・道路など公共の施設が充実した」が増えて、最も多くなった。また、1977年には8%しかなかった「観光や産業開発でうるおった」が29%と3倍

以上に増えていて、1970年代後半から1980年代初頭にかけて、沖縄を訪れる観光客が増え、特に観光収入が飛躍的に増加していったことを反映する結果となった（図37・38）。

一方、復帰前と比べて、悪くなった点については、「観光や産業開発で自然が破壊された」が44%、「犯罪など社会の混乱や不安が多くなった」が42%、「県民の暮らしが苦しくなった」は5年前より大幅に減って28%などとなった（図39）。

これらの傾向は、復帰10年の感想を尋ねた回答（複数回答：いくつでも可）にも同じようにみられた。「海が汚れ、緑が失われるなど自然がそこなわれた」が54%、「教育水準が高くなった」が37%、「『復帰前の沖縄の方がよかった』と感じることがある」が32%などとなった（図40）。本土復帰後、急ピッチで開発が進められたことによって、インフラが整備され、便利になっていく一方で、沖縄の豊かな自然が失われていくなど、開発の恩恵とそれにとまなう負の側面を認識している人が多かったことがうかがえる。

図37 復帰前に比べてよくなった点  
(1977年・1982年)【複数回答】

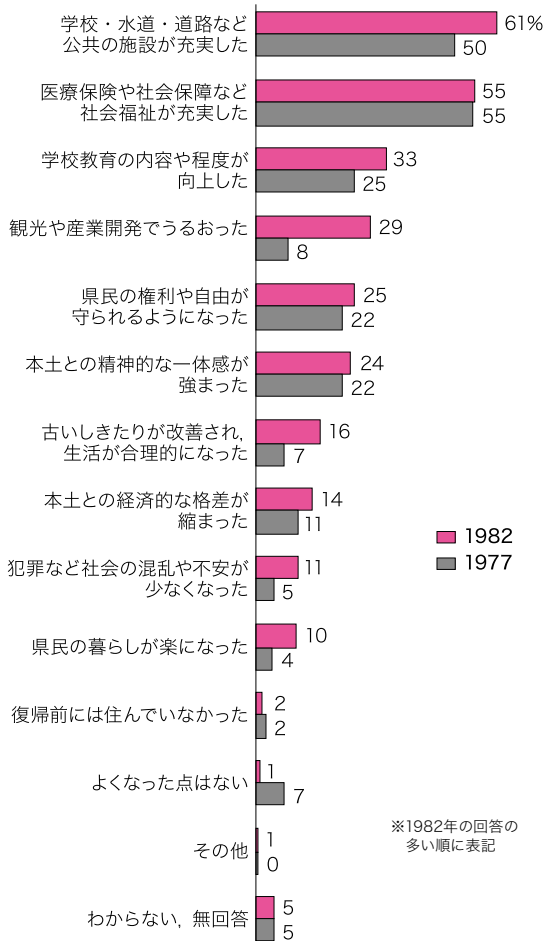


図39 復帰前に比べて悪くなった点  
(1977年・1982年)【複数回答】

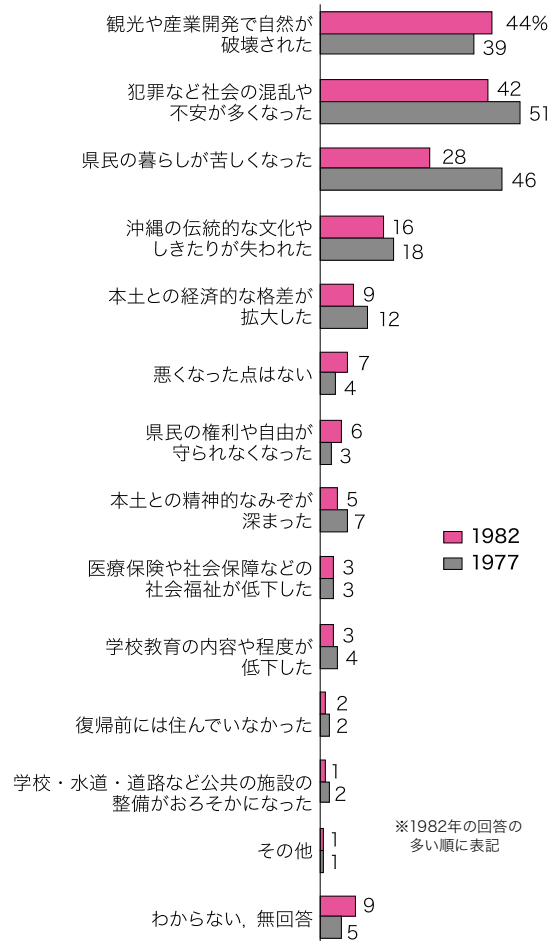


図38 沖縄の観光客数・観光収入推移  
(1976年～1982年)

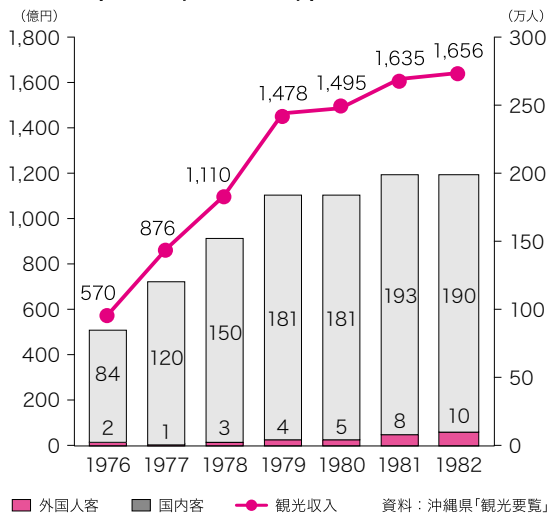
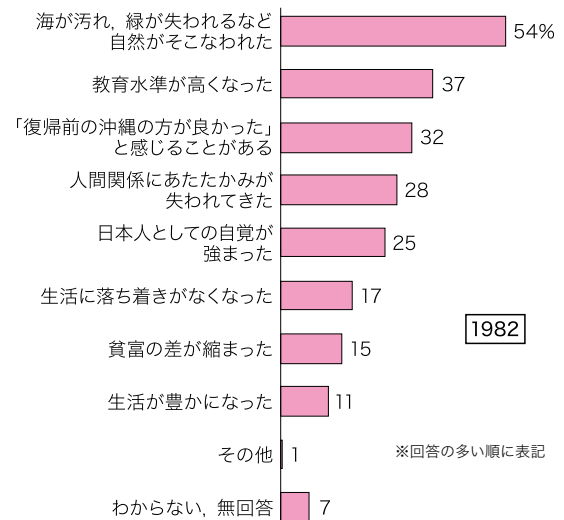
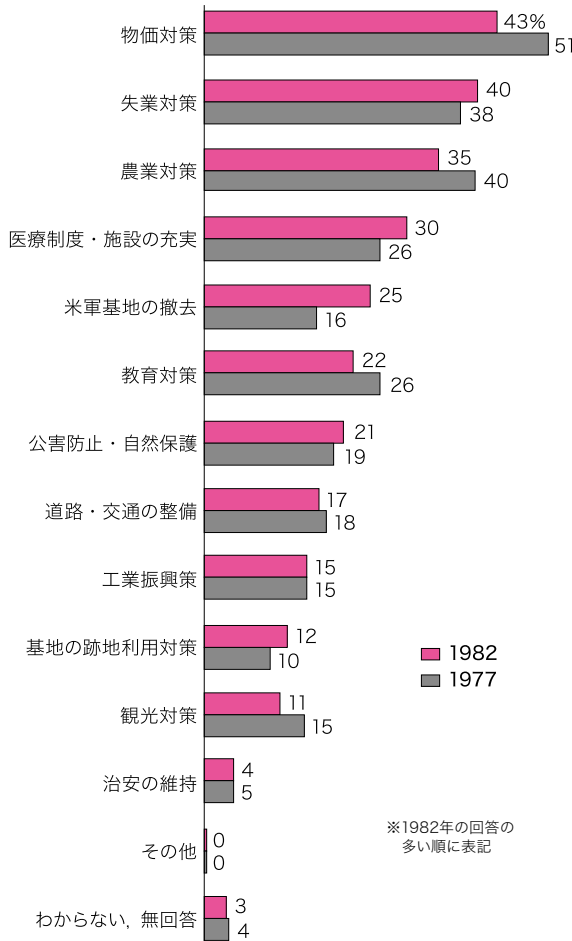


図40 復帰10年の感想 (1982年)【複数回答】



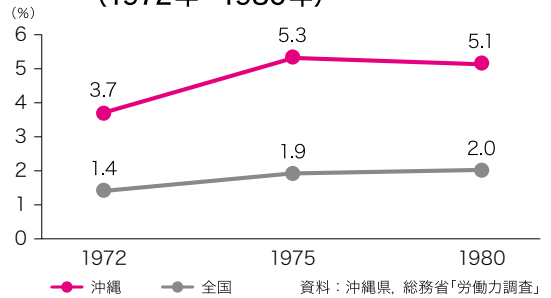
では、国や県に力を入れてほしいことは変わったのだろうか（複数回答：3つまで）。「物価対策」が43%、「失業対策」が40%、「農業対策」が35%などとなり、「物価対策」と「失業対策」が並ぶこととなった（図41）。「物価対策」は、5年前の1977年調査では51%だったが、それに比べると8ポイント減っていて、かつてほど多くの人にとって喫緊の課題ではなくなりつつあることがわかる。その一方で、「失業対策」は40%で、物価対策と同じ水準になり、雇用問題が新たな課題になり始めていたと考えられる。

図41 国や県に力を入れてほしいこと（1977年・1982年）【複数回答：3つまで】



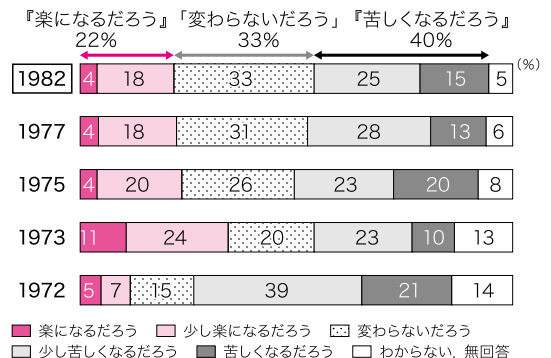
では、当時の沖縄の雇用状況はどのようなものだったのだろうか。総務省と沖縄県の「労働力調査」によると、沖縄県の完全失業率は、1972年には3.7だったが、3年後の1975年には5.3に上がり、1980年も5.1となって、全国の完全失業率を2倍以上上回る高い水準となっていた<sup>22)</sup>（図42）。

図42 完全失業率（沖縄、全国比較）（1972年～1980年）



こうした中、沖縄の人々が今後の暮らし向きについてどう考えていたのかをみていく。『楽になるだろう（「少し楽になるだろう」を含む）』が22%、『苦しくなるだろう（「少し苦しくなるだろう」を含む）』が40%、「変わらないだろう」が33%で、『苦しくなるだろう』が『楽になるだろう』や『変わらないだろう』を上回った。1年前と比べた生活の実感については改善傾向がみられたものの、先行きの見通しについては、慎重な見方をする人が多かった（図43）。

図43 今後の暮らし向き（1973年～1982年）

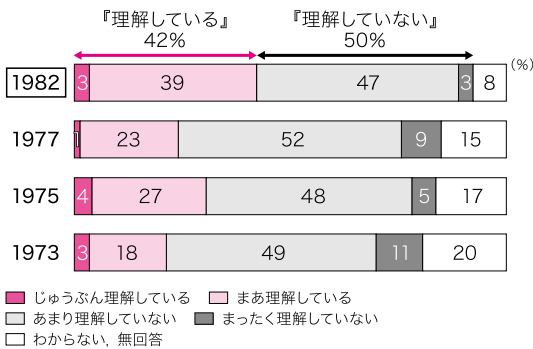


### (3) 縮む本土の人との距離感

本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているかという質問の結果をみても、『理解している(じゅうぶん+まあ)』は42%、『理解していない(まったく+あまり)』は50%で、1975年の調査に比べて、『理解している』と『理解していない』の差が縮まった。

全体としては『理解していない』が多いものの、復帰前後に比べ、生活が安定してきたこともあって、本土の人たちは、自分たち沖縄の人の気持ちを理解していないという思いが、少しずつ和らぎ始めていたと考えられる(図44)。

図44 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか(1973年~1982年)

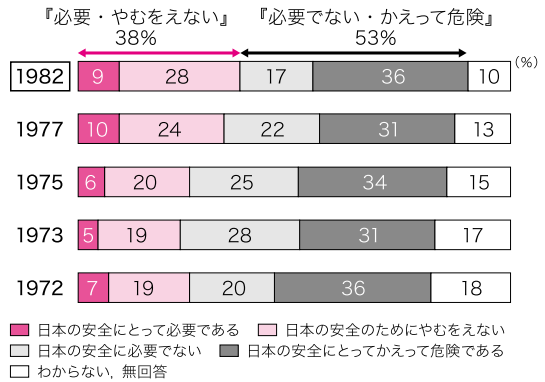


### (4) 米軍への意識と自衛隊への意識

復帰後も沖縄にアメリカ軍基地が残っていることについての意識は、どうなったのだろうか。日本の安全にとって「必要である」が9%、「やむをえない」が28%、「必要でない」が17%、「かえって危険である」が36%で、1977年の調査と大きな変化はみられず、「必要でない」と「かえって危険」を合わせた否定的な回答が5割を超え、アメリカ軍に対して、依然厳しい見方が多くを占めていた(図45)。

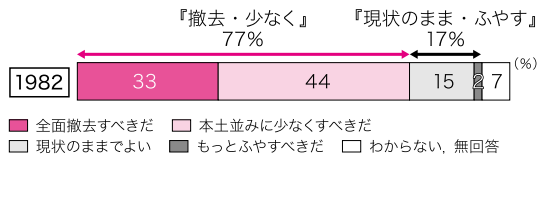
続いて、沖縄のアメリカ軍基地についての気持ちを尋ねたところ、「全面撤去すべきだ」が33%、「本土並みに少なくすべきだ」が44%、

図45 沖縄の米軍基地をどう思うか(1972年~1982年)



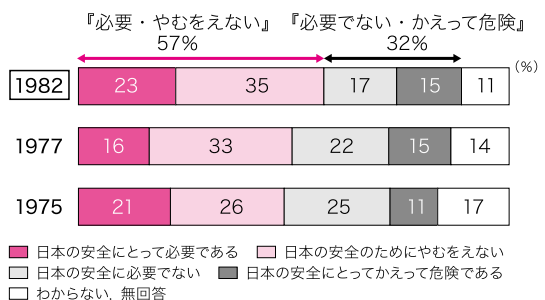
「現状のままでよい」が15%、「もっとふやすべきだ」が2%で、「全面撤去」や「本土並みに少なくすべき」と答えた人が8割近くに達した(図46)。

図46 沖縄の米軍基地をどうしたらよいか(1982年)



一方、沖縄に配備された自衛隊については、日本の安全にとって「必要である」と「やむをえない」を合わせた配備に肯定的な回答が5割を超え、「必要でない」「かえって危険である」を合わせた否定的な回答(32%)を上回っ

図47 沖縄への自衛隊の配備(1975年~1982年)



た。1970年代後半からみられた自衛隊の配備を肯定・容認する意識の変化は継続しているともみることができよう(図47)。

## II-2 経済発展が続く沖縄

### (1) 生活の改善進み、復帰の評価も多数に

1980年代後半は、沖縄、そして日本全体も経済的に大きく飛躍した時期であった。1980年代に入ってから航空各社の沖縄キャンペーンが積極的に展開されたこともあり、沖縄を訪れる観光客が急増し、観光収入も大きく伸びた。これを後押しするように、日本全体も、1985年のプラザ合意以降、いわゆるバブル経済が始まり、株や土地などの資産価格の上昇ともなって、旅行などの消費が盛んに行われるようになった。このように経済的に発展がみられた当時の沖縄の人々の意識はどうだったのだろうか。本土復帰から15年となる1987年の調査結果<sup>23)</sup>をみていこう。

1年前と比べた暮らし向きについて尋ねたところ、『楽になった(「少し楽になった」を含む)』が19%、『苦しくなった(「少し苦しくなった」を含む)』が32%、「変わらない」が49%で、『苦しくなった』が減って、「変わらない」が5割近くを占めた(図48)。

今後の暮らし向きについては、『楽になるだろう(「少し楽になるだろう」を含む)』が27%、『苦しくなるだろう(「少し苦しくなるだろう」を含む)』が38%、「変わらないだろう」が31%で、『楽になるだろう』が増える一方で、『苦しくなるだろう』が減るなど、先行きの見通しについても、改善傾向にあることがみてとれる(図49)。

では、本土復帰の評価はどうなったのであろうか。「非常によかった」と「まあよかった」を合わせた『よかった』が76%、「あまりよくな

図48 暮らし向き(1972年~1987年)

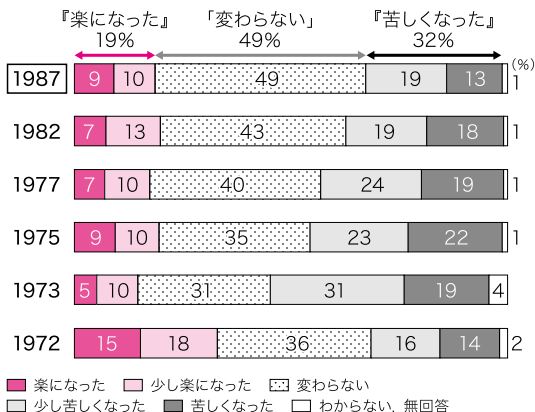


図49 今後の暮らし向き(1972年~1987年)

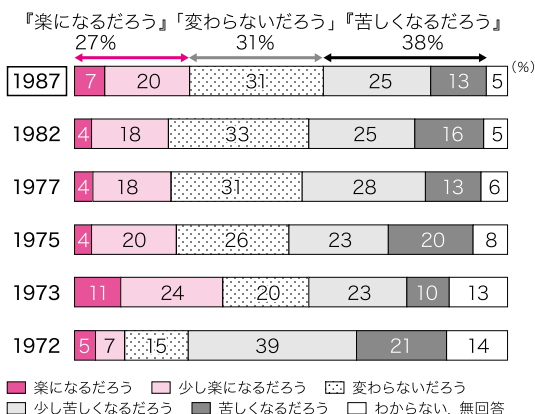
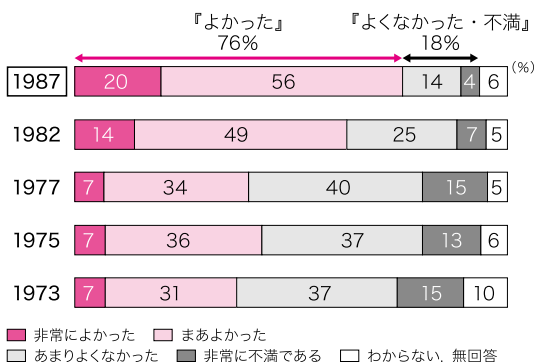


図50 本土復帰の評価(1973年~1987年)

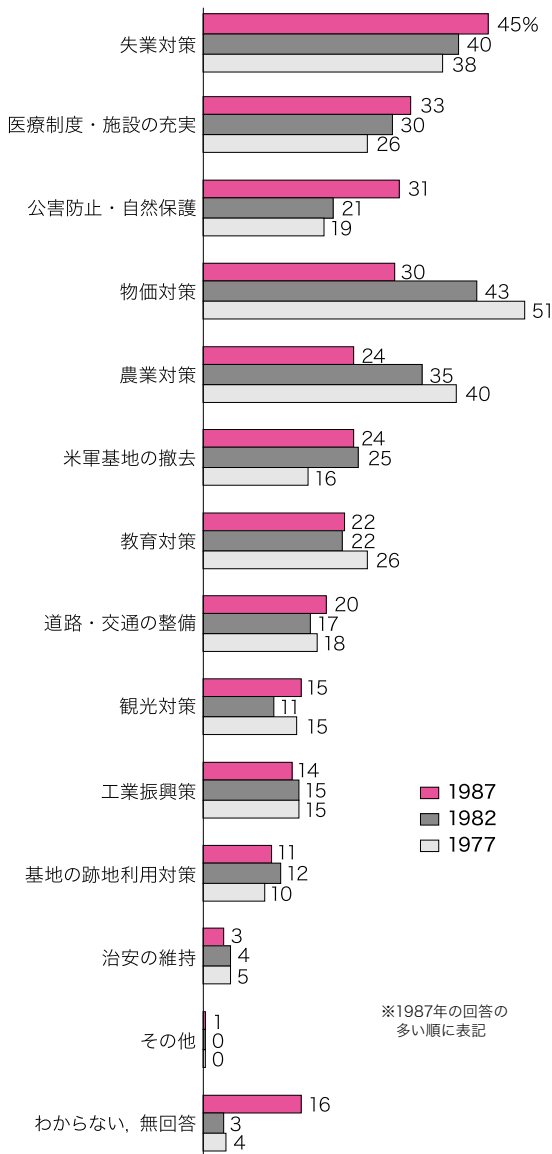


かった」と「非常に不満である」を合わせた『よくなかった・不満』が18%で、『よかった』が1982年よりもさらに増えて、8割近くに達した(図50)。

## (2) 物価対策から失業対策へ

国や県に力を入れてほしいことをみると(複数回答:3つまで)、「失業対策」が45%、「医療制度・施設の充実」が33%、「公害防止・自然保護」が31%、「物価対策」が30%、「農業対策」が24%、「米軍基地の撤去」が24%などとなっていて、これまで最も多かった「物価対策」が減って、代わって「失業対策」

図51 国や県に力を入れてほしいこと (1977年~1987年)【複数回答:3つまで】

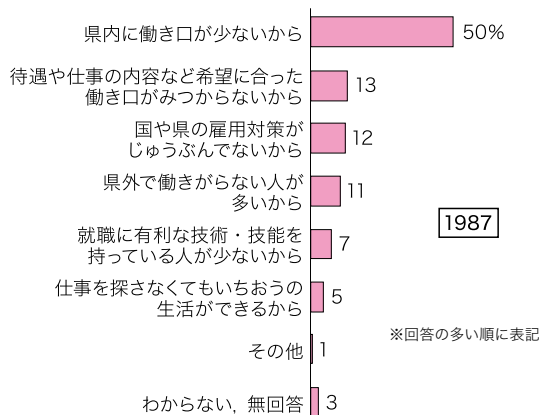


が最も多くなった。また「医療制度・施設の充実」も増えていて、人々の関心事は、物価高から、失業対策や医療制度などに移っていったと考えられる。さらに特徴的な傾向として、1982年の調査に比べ、「物価対策」や「農業対策」がそれぞれ10ポイント以上減少したのに対し、「公害防止・自然保護」が10ポイント増加していて、経済の発展にともない開発などが積極的に進められていた当時の沖縄の状況をうかがわせる結果となった(図51)。

国や県への要望で、失業対策が最も多かったことに関連して、失業者が多い原因について、どのように考えているのかを尋ねた。「県内に働き口が少ない」が50%で最も多く、「待遇や仕事の内容など希望に合った働き口が見つからない」が13%、「国や県の雇用対策がじゅうぶんでない」が12%などとなった。失業対策を求める意見の背景として、沖縄県内に働き口が少ないと思っている人が多いことが挙げられる(図52)。

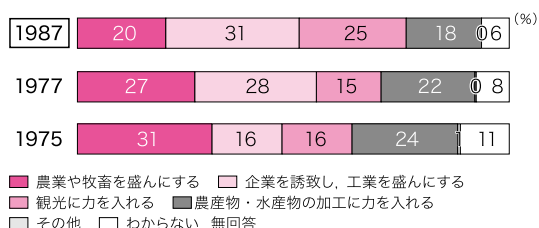
今後、沖縄が経済的に発展していくために、どういう方向をとるのが一番よいかを尋ねたところ、「企業を誘致し、工業を盛んにする」が31%、「観光に力を入れる」が25%、「農業や

図52 沖縄県内で失業者が多い原因 (1987年)【1つだけ回答】



畜産を盛んにする」が20%などとなっていて、1975年からの推移をみると、かつて多数を占めていた農業や漁業関連の対策に代わって、企業誘致や観光対策を望む声が増えていることがわかる(図53)。

図53 経済発展の方向(1975年~1987年)

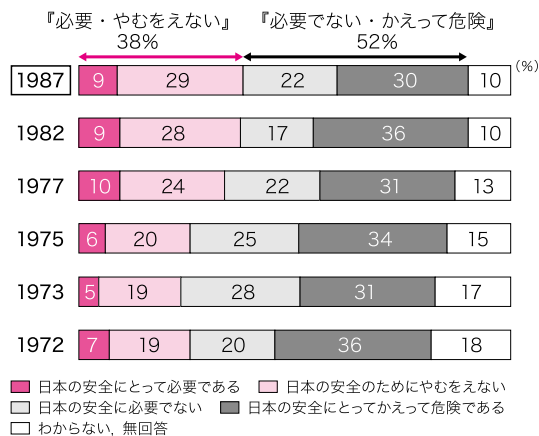


### (3) 否定的が多くを占める米軍への意識

本土復帰を評価する人が多数を占めるようになる中、沖縄のアメリカ軍基地に対する意識はどうなったのだろうか。

日本の安全にとって「必要である」が9%、「やむをえない」が29%、「必要でない」が22%、「かえって危険である」が30%となった(図54)。基地に対して肯定や容認をする意見が増えていく傾向はみられるものの、本土復帰に対して肯定的な回答が多数を占めるようになったのとは異なり、アメリカ軍基地について

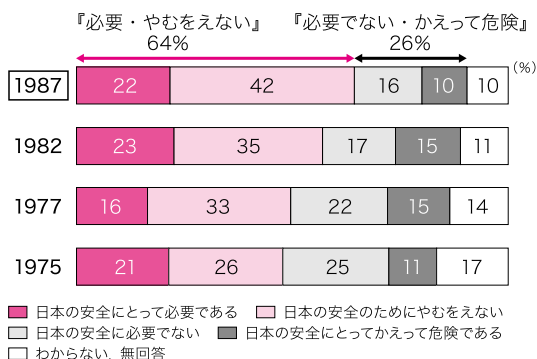
図54 沖縄の米軍基地をどう思うか(1972年~1987年)



は、依然否定的な回答が多い状況が続いた。

一方、沖縄への自衛隊の配備については、日本の安全にとって「必要である」が22%、「やむをえない」が42%、「必要でない」が16%、「かえって危険である」が10%と、自衛隊の配備に肯定的な回答が多数を占め、アメリカ軍基地に対する回答とは対照的な結果となった(図55)。

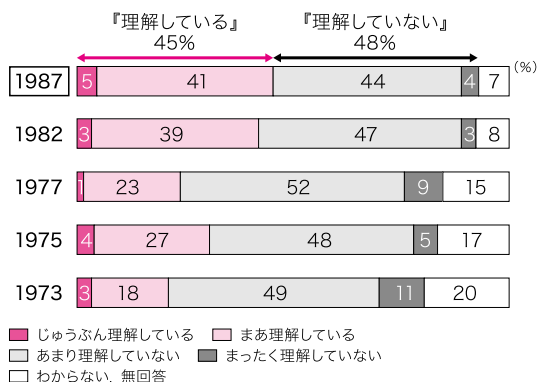
図55 沖縄への自衛隊の配備(1975年~1987年)



### (4) 縮まる本土の人との意識

本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているかという質問をみていく。『理解している(じゅうぶん+まあ)』が45%、『理解していない(あまり+まったく)』が48%で、『理解している』と『理解していない』が初めて拮抗した(図56)。

図56 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか(1973年~1987年)





## 復帰20年 経済的に発展した沖縄

本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思うかという質問については、1970年代は『理解していない』が50%以上を占め、『理解している』を大きく上回っていたが、1980年代に入って、『理解している』が増え、今回、両者が同じ水準で並ぶこととなった。1980年代は、先にみたように、沖縄の人々の暮らし向きに対する意識が改善していった時代であり、そうしたことが影響していると考えられるが、これらの要因も含めた分析については、第Ⅶ章でまとめて紹介することとした。

### Ⅱ-3 第Ⅱ章まとめ

1980年代の沖縄は、どんな時代だったのか。復帰直後から始まった沖縄振興策が10年以上経過し、さまざまなインフラ整備が進められたことなどもあって、人々の生活は改善されていった。さらに、1980年代に入ってから沖縄を訪れる観光客が急増したことに加え、80年代後半からのバブル経済の影響もあり、沖縄でもリゾート開発などが計画され、経済的な発展もみられた。このように復帰から10年以上が経ち、経済的に発展し、県民の暮らし向きも改善されていく。それにともなって、かつて否定的な回答が多かった本土復帰に対する評価は、肯定的な回答が多数を占めるようになった。その一方で、開発によって自然が失われたり、経済発展を優先する中で人間関係の温かみなども失われていったりに、憂いを感じる人々も多くなった。一方、アメリカ軍基地に対しては、依然、否定的な意見が多数を占めていたが、自衛隊の配備については、肯定的な意見が多数となり、アメリカ軍基地と対照的な動きをみせるようになった。

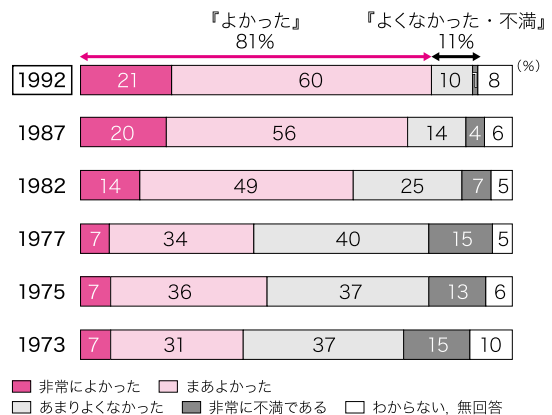
少しずつ生活が改善していく兆しはあったものの、生活が厳しかった1970年代から、経済的に発展を遂げ、暮らし向きが向上していった1980年代。観光ブームやバブル経済によって人々の意識も変わっていった1980年代を経て、復帰20年に行われたのが1992年の調査<sup>24)</sup>である。本土復帰から20年目の沖縄の人々の意識はどう変わっていったのかをみていこう。

### Ⅲ-1 本土復帰を「評価」が多数占める

#### 暮らし向きの向上続く

復帰からの20年間をふりかえり、本土復帰についての気持ちを尋ねた。「非常に良かった」と「まあよかった」を合わせた『よかった』は81%、「あまりよくなかった」と「非常に不満である」を合わせた『よくなかった・不満』は11%で、『よかった』が初めて80%に達した(図57)。

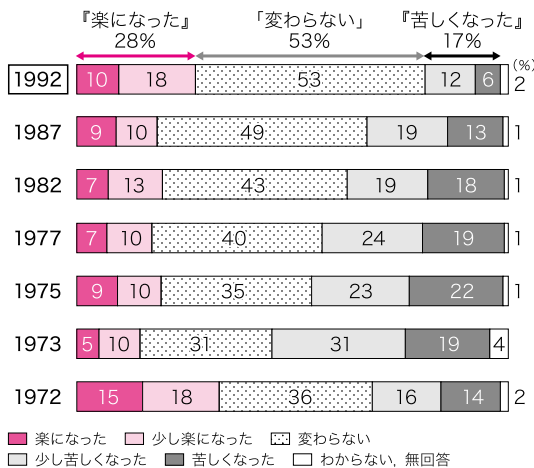
図57 本土復帰の評価(1973年~1992年)





1年前と比べた暮らし向きについては、『楽になった（「少し楽になった」を含む）』が28%、『苦しくなった（「少し苦しくなった」を含む）』が17%、『変わらない』が53%で、『変わらない』が最も多かったものの、『楽になった』が初めて『苦しくなった』を上回った。この背景には、経済的に豊かになったことや、これまでの生活が変わらずに継続していると思っている人が多くなったことがあると考えられる（図58）。

図58 暮らし向き（1972年～1992年）



一方、今後の暮らし向きについては、『楽になるだろう』が30%、『苦しくなるだろう』が21%、『変わらないだろう』が41%で、『苦しくなるだろう』が減って、『変わらないだろう』と答える人が最も多くなった（図59）。1980年代までは、暮らし向きに対して慎重な見方をする人が多かったが、経済的に豊かになったことで、今後の見通しについても、今の生活水準が維持されていくことを望み、それを予測する人が多くなったことの表れと考えられる。

このように、暮らし向きや本土復帰に対する意識が改善傾向にある中で、復帰20年をふりかえっての感想（複数回答）についてみる。

図59 今後の暮らし向き（1972年～1992年）

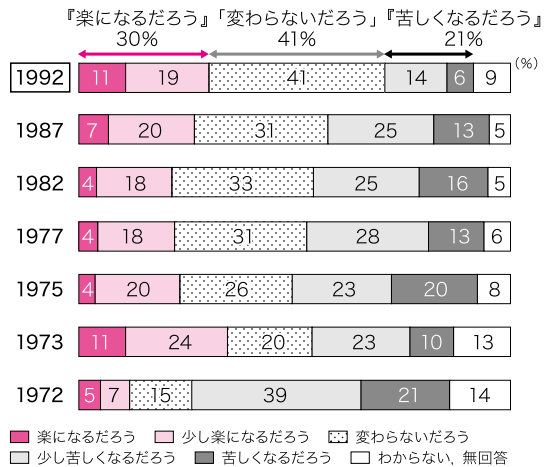
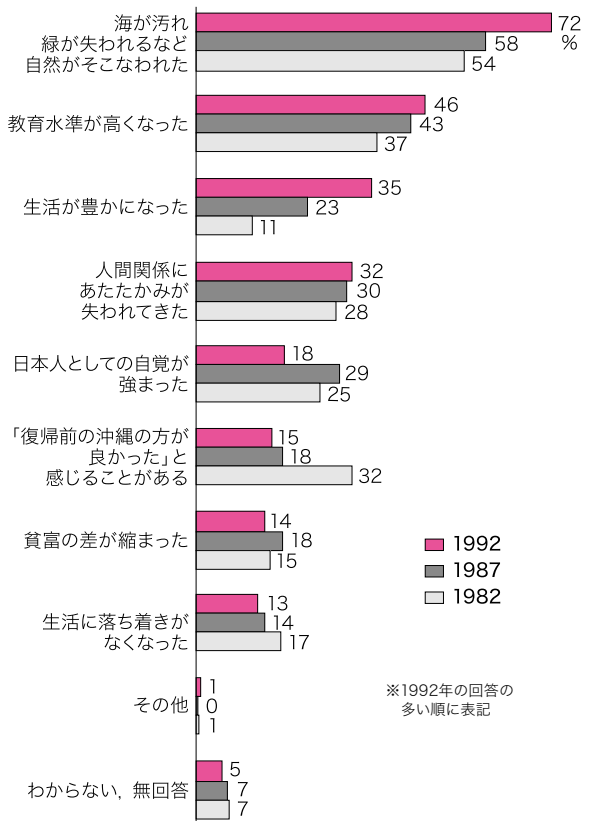


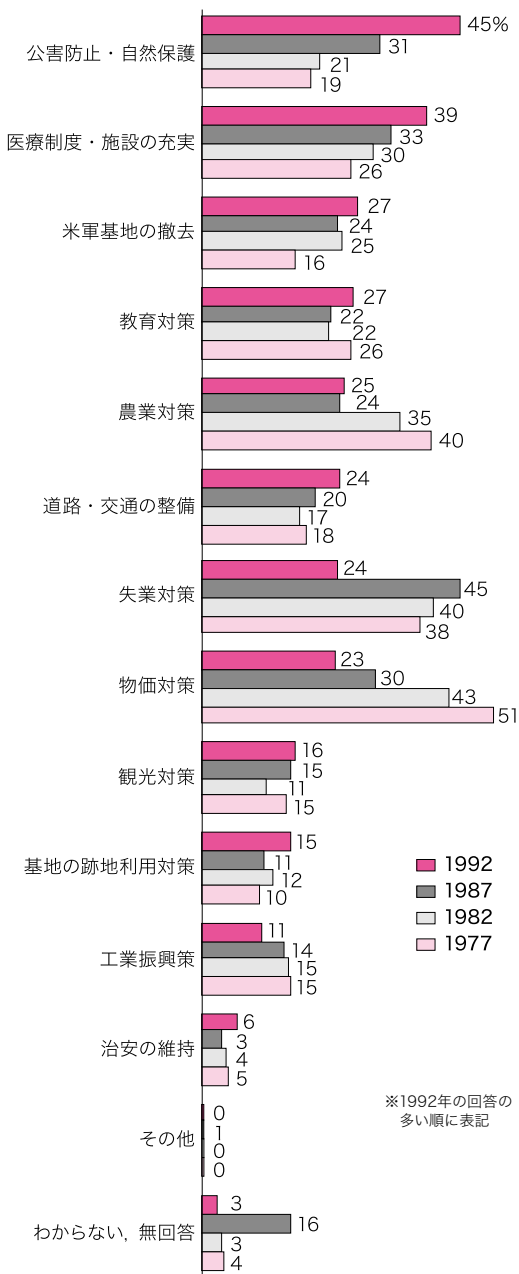
図60 復帰20年の感想（1982年～1992年）  
【複数回答】



「海が汚れ緑が失われるなど自然がそこなわれた」が72%、「教育水準が高くなった」が46%、「生活が豊かになった」が35%で、1970年代

後半から続く「自然がそこなわれた」と危惧を抱く人がさらに増えることとなった(図60)。これは次に紹介する質問の回答にも表れている。

図61 国や県に力を入れてほしいこと (1977年～1992年)【複数回答:3つまで】



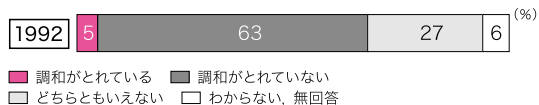
### III-2 開発が進む裏側で

#### 公害防止・自然保護が課題に

国や県に力を入れてほしいことについて尋ねたところ(複数回答:3つまで)、「公害防止・自然保護」が45%、「医療制度・施設の充実」が39%、「米軍基地の撤去」と「教育対策」が27%、「農業対策」が25%、「道路・交通の整備」と「失業対策」が24%、「物価対策」が23%などとなった。1977年に50%を超えていた「物価対策」は半分以下の23%に減ったほか、1980年代に上昇傾向にあった「失業対策」も半分ほどに減るなど、経済面で好調だったことをうかがわせる結果となった。その裏返しとして増えたのが「公害防止・自然保護」で、1987年の調査に比べても10ポイント以上あがって、初めて最も多くなった(図61)。

このような中、沖縄で進められている開発は、自然保護と調和しているかを尋ねた。「調和がとれている」が5%、「調和がとれていない」が63%、「どちらともいえない」が27%だった(図62)。ここからも、当時、沖縄で進められていた開発は、自然保護と調和がとれていないと思う人が多くを占めていた。

図62 沖縄の開発と自然保護の調和(1992年)

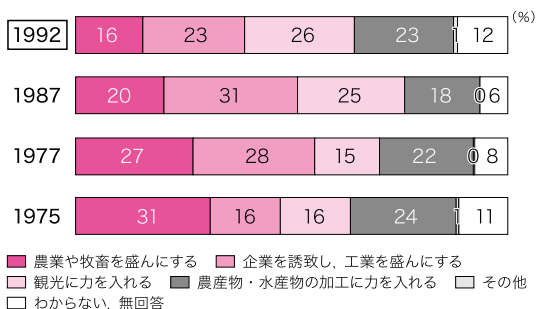


では、当時の沖縄はどんな状況にあったのだろうか。全国で公害が問題となったのは、高度成長期の1950年代から1960年代にかけてで、1990年代には、環境基準も厳しくなり、公害問題は収まってきていた。一方、沖縄では、1972年の本土復帰後から本格的に始まった開発が、1980年代から1990年代にかけて、さ

らに大規模に行われるようになった。特に問題となったのは赤土の問題で、土地改良事業によって、多くの木々が伐採されたことで、大雨などの際に沖縄固有の赤土が海に流れ出て、サンゴの大量死や漁業への被害をもたらすようになるなど、赤土汚染が問題となっていた<sup>25)</sup>。

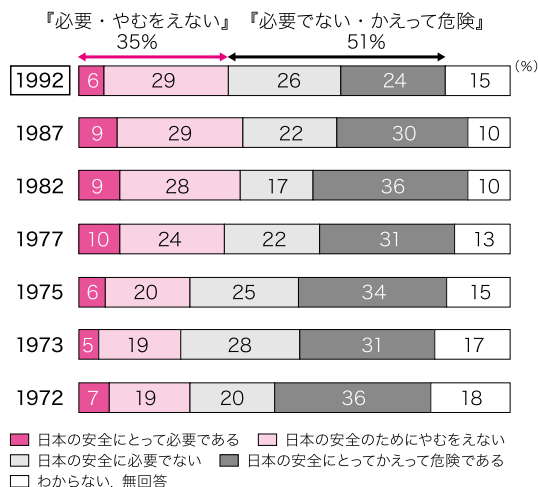
このような意識がみられる中、今後、沖縄が経済的に発展していくための方向について、どのように考えているのかを尋ねた。「観光に力を入れる」が26%、「企業を誘致し、工業を盛んにする」と「農産物・水産物の加工に力を入れる」が23%、「農業や畜産を盛んにする」が16%となり、「観光に力を入れる」が「企業誘致」や「農産物・水産物の加工に力を入れる」と並ぶ結果となった(図63)。

図63 経済発展の方向(1975年~1992年)



かった。ただ、1992年の調査では、これまで減少傾向にあった「わからない、無回答」が増えており、この背景に、1989年の冷戦終結後の沖縄の人たちの複雑な感情があったことも要因の1つと考えられる。当時、沖縄では、冷戦が終結したことで、極東における共産圏の防波堤と位置づけられていた沖縄のアメリカ軍基地の必要性がなくなり、県内の基地が縮小するのではないかと期待を込めた見方が広まっていた。しかし、実際には、冷戦が終結し、ソビエト連邦が崩壊したあとも、沖縄のアメリカ軍基地は何ら変わらず残り続けることとなった。こうしたことが冷戦終結後の変化に期待をしていた人々の複雑な感情を生み、「わからない、無回答」が増えることにつながったとも考えられる(図64)。

図64 沖縄の米軍基地をどう思うか(1972年~1992年)



### III-3 進まぬ米軍基地への理解

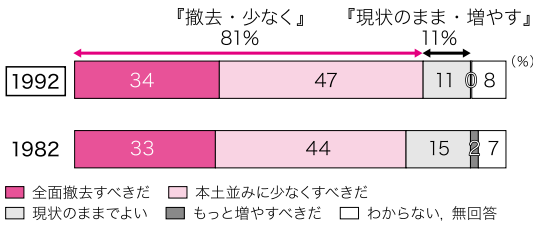
#### (1) 基地に否定的な意見が半数

沖縄のアメリカ軍基地に対する意識はどうなったのだろうか。日本の安全にとって「必要である」と「やむをえない」を合わせた『必要・やむをえない』が35%、「必要でない」と「かえって危険である」を合わせた『必要でない・かえって危険』は51%で、ともに5年前の1987年の調査と同じ水準となり、アメリカ軍基地に否定的な意見が多い状況に大きな変化はな

では、アメリカ軍基地に対する思いはどうなったのであろうか。沖縄のアメリカ軍基地に対する気持ちを尋ねたところ、「全面撤去すべきだ」が34%、「本土並みに少なくすべきだ」が47%、「現状のままでよい」が11%となり、「全面撤去」や「本土並みに少なくすべき」が

多数を占めた(図65)。

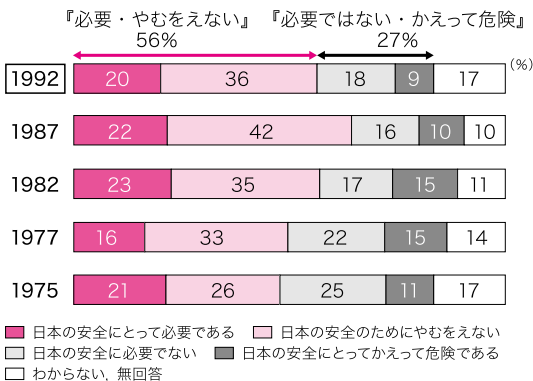
図65 沖縄の米軍基地をどうしたらよいか(1982年・1992年)



(2) 自衛隊配備の必要性が減少

一方、沖縄への自衛隊配備については、日本の安全にとって「必要である」と「やむをえない」を合わせた『必要・やむをえない』が56%、「必要でない」と「かえって危険である」を合わせた『必要でない・かえって危険』が27%となっていて、アメリカ軍基地と対照的に、肯定的意見が多数を占める状況が続いた。加えて、アメリカ軍基地に対する意識でみられたように、自衛隊の配備についても、「わからない、無回答」が増え、『必要・やむをえない』と答えた人が減った。冷戦の終結によって、アメリカ軍基地だけでなく、沖縄への自衛隊の配備についても、その必要性がなくなるのではないかと期待した人たちの複雑な思いが表れて

図66 沖縄への自衛隊の配備(1975年~1992年)



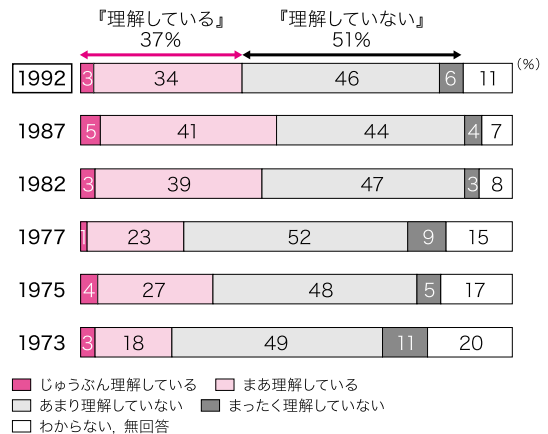
いとみることができよう(図66)。

(3) 再び広がり始めた本土との距離感

本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思うかという質問をみていく。『理解している』が37%、『理解していない』が51%となった(図67)。5年前の1987年の調査では、『理解している』と『理解していない』が拮抗していたが、1992年の調査では『理解している』と答えた人が減ったことで、再び両者の差が広がることとなった。

本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているかについても、アメリカ軍基地や自衛隊に対する意識についての回答でみられたように、「わからない、無回答」が増え、その一方で『理解している』が減ることとなった。先に紹介したように、冷戦の終結によって、アメリカ軍基地が縮小することを期待した人が多かったが、それが実現せず、期待が叶わなかったことで、「自分たちの気持ちが本土の人に理解されるとまでは言えない」。そうした考えが「わからない、無回答」を増やし、『理解している』が減ることにつながったと考えられる。

図67 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか(1973年~1992年)



### Ⅲ-4 第Ⅲ章まとめ

1980年代から1990年代にかけては、沖縄が経済的に大きく発展した時代でもあった。1970年代から続く沖縄振興策の効果に加え、1980年代に入ってから観光ブームとそれに続くバブル経済。1990年代に入っても、リゾート開発が相次いで計画されるなど、その余韻が沖縄には残っていた。これを表すように、1980年代にみられた暮らし向きの改善傾向は、1992年にはさらに増して、『楽になった』が初めて『苦しくなった』を上回った。これにともなって、本土復帰に対する評価は1992年の調査で初めて『よかった』が80%に達するなど、沖縄の現状を肯定的にとらえる人が多くなった。このように暮らし向きや復帰に対する評価に改善傾向がみられたものの、アメリカ軍基地に対しては、依然否定的な見方が多いままだった。さらに、冷戦の終結によって、沖縄の人々の間で、アメリカ軍基地が縮小することを期待する向きもあったが、その後の状況に変化はなく、期待が叶わなかった人々の間で複雑な感情を持つ人が増えた可能性もうかがい知れた。復帰から20年が経ち、経済が発展し、生活が安定してきたことで、沖縄の人々の間で、経済面を中心に意識の変化が生じていたことが調査結果からみてとることができた。

## Ⅳ

### 復帰30年 大きく揺れ動いた沖縄

#### Ⅳ-1 本土復帰「評価」多数も 暮らし向きが一部で悪化

##### Ⅳ-1-1) 2002年までの10年間の歩み

1992年の次に調査が行われたのは、本土復帰から30年にあたる2002年である。沖縄の本土復帰に関する調査は、1992年以降、基本的に10年単位で行われていくこととなる。調査までの期間が長くなることから、2002年までの10年間にどのような出来事があったのかを簡単に振り返ってみることから始めたい。

沖縄にとって、1990年代から2000年代初頭までは、まさに激動の時代だった。冷戦の終結とその後の湾岸戦争。そして、沖縄を大きく揺り動かすことになる1995年のアメリカ軍兵士による少女暴行事件。主催者発表で8万人以上の人々が参加して県民総決起大会が開かれるなど、県民をあげた抗議活動が行われた<sup>26)</sup>。その大きなうねりを受けて、翌年、日米両政府は普天間基地を返還することで合意した。沖縄におけるアメリカ軍のあり方が議論になる中、2001年に起きた同時多発テロ事件、続くアフガン戦争によって、アメリカ軍は、自衛隊との連携が強化され、存在感が増していくこととなった。アメリカ軍基地の撤去や縮小を求めてきた沖縄の人々は、政治や軍事の動きに翻弄されることになった。

その一方で、1990年代は、「沖縄ブーム」とも呼ばれる時代で、沖縄の存在感がますます

高まっていくこととなった。1992年に首里城正殿が復元されたことなどもあって、沖縄を訪れる観光客が飛躍的に増加していくことになるが、1990年代は、沖縄出身の歌手が活躍する時代でもあった。1990年にデビューしたBEGIN。1990年代を席卷した安室奈美恵さん。さらに若手人気グループのSPEED。沖縄出身の歌手が次々とヒット曲を出し、沖縄の魅力を全国に発信することとなった。

2000年には九州・沖縄サミットが開かれ、サミット開催に合わせて、沖縄の守礼門を描いた2000円札が発行された。そして、調査の直前に起きた2001年の同時多発テロ事件。アメリカ軍基地が多数存在する沖縄への旅行者が減少するなど、大きな影響を受けることとなった。

このように1990年代から2000年代初頭にかけては、沖縄が大きく輝くとともに、大きく揺れ動いた時代でもあった。そうした10年あまりを経て、復帰30年の2002年に行われた調査<sup>27)</sup>で、沖縄の人々の意識はどのように表れたのであろうか。

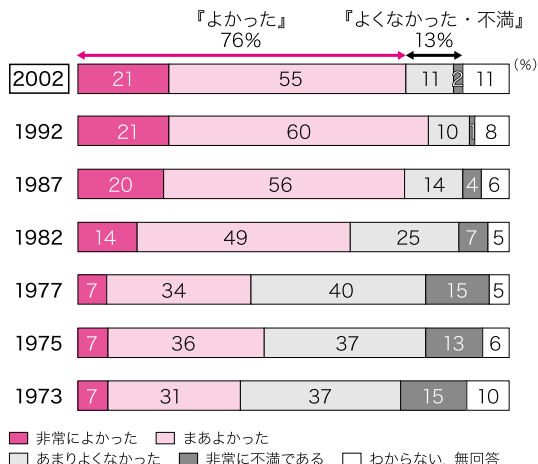
## IV-1-2) 本土復帰の「評価」多数が定着へ

### (1) 本土復帰の評価多数が続く

本土復帰からの30年をふりかえったとき、本土復帰についての気持ちを探ねたところ、「非常に良かった」と「まあよかった」を合わせた『よかった』が76%、「あまりよくなかった」と「非常に不満である」を合わせた『よくなかった・不満』が13%となった(図68)。「よかった」と本土復帰を評価する人は、1980年代以降、8割前後で推移するようになり、本土復帰に対する肯定的な評価が定着していったと考えられる。

次に復帰30年を振り返って、どのような感想

図68 本土復帰の評価(1973年~2002年)



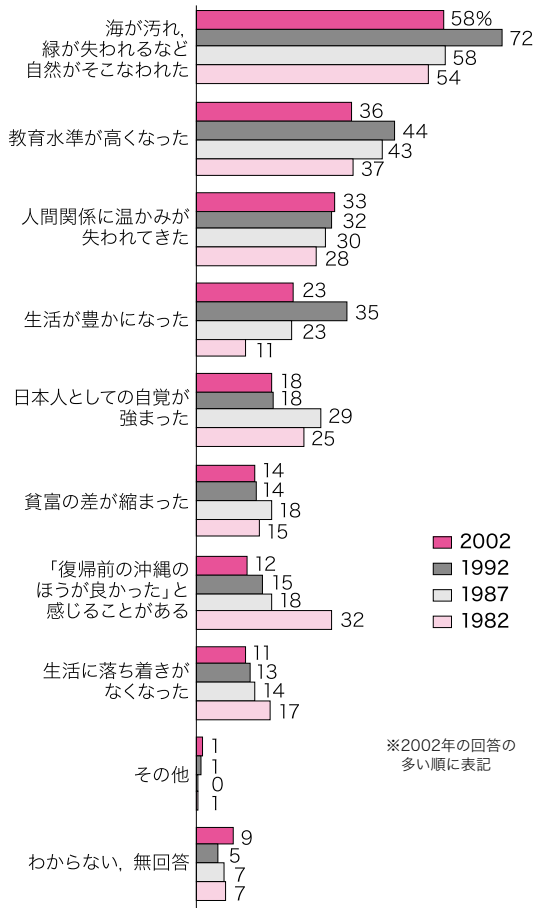
を持っているかを尋ねた(複数回答:いくつでも可)。「海が汚れ、緑が失われるなど自然がそこなわれた」が58%、「教育水準が高くなった」が36%、「人間関係に温かみが失われてきた」が33%、「生活が豊かになった」が23%、「日本人としての自覚が強まった」が18%などとなった。開発が盛んに行われていたころの1992年の調査と比べ、「海が汚れ、緑が失われるなど自然がそこなわれた」と回答した人は減ったものの、依然として最も多かった(図69)。

### (2) 暮らし向き 再び悪化が増える

1年前と比べて、暮らし向きがどうなったかを尋ねたところ、『楽になった』が14%、『苦しくなった』が37%、「変わらない」が49%となった。前回の調査に続いて、「変わらない」が最も多くなったものの、1992年に増えていた『楽になった』が大きく減少したほか、1990年代まで減少傾向がみられていた『苦しくなった』が再び増えるなど、暮らし向きに対する意識が悪化する結果となった(図70)。

さらに、今後の暮らし向きがどうなると思うかについてもみていくと、『楽になるだろう』が22%、『苦しくなるだろう』と「変わらないだろ

図69 復帰30年の感想(1982年~2002年)  
【複数回答】



※2002年の回答の多い順に表記

う」が36%で、1992年の調査に比べ、『楽になるだろう』と「変わらないだろう」が減って、『苦しくなるだろう』が増えることとなった(図71)。

このように、『苦しくなった』や『苦しくなるだろう』が再び増加したのはなぜだろうか。この背景には、まず日本全体の景気が後退した時期と重なったことが影響していると考えられる。バブル経済崩壊による低迷から立ち直れずにいた日本であるが、1997年のアジア通貨危機をきっかけに、その年の秋には、山一証券、北海道拓殖銀行が相次いで経営破綻し、国内の金融危機が問題となった。政府による

図70 暮らし向き(1972年~2002年)

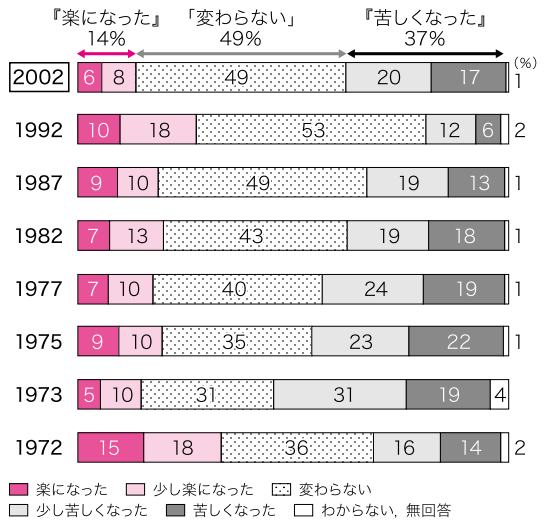
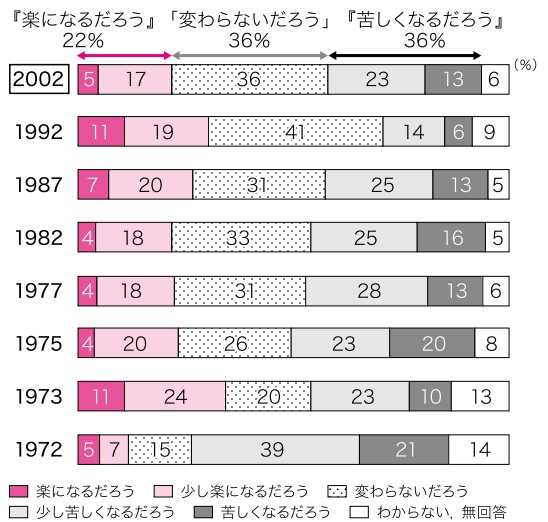


図71 今後の暮らし向き(1972年~2002年)



経済対策が行われたものの、その影響は日本全体に及び、そうしたことが沖縄の人々の暮らし向きに対する意識にも表れたとみることができる。これに加えて、沖縄の人々にさらに影響を与えたのが2001年に起きた同時多発テロ事件である。この影響について、次の質問をみていく。

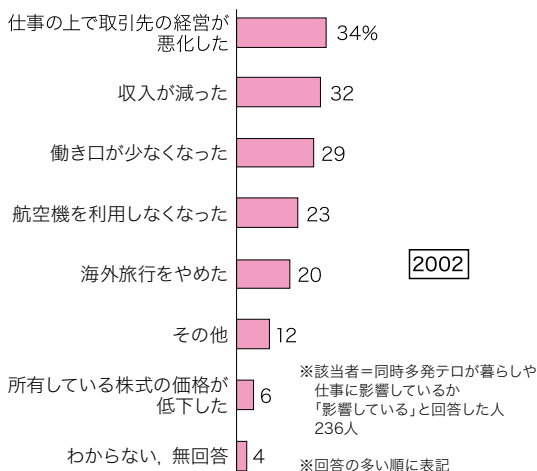
2001年9月に起きた同時多発テロ事件があなただけの暮らしや仕事に影響しているかを尋ねた

ものだ。「影響している」が40%、「影響していない」が53%で、「影響していない」と回答した人の方が多かったが、それでも4割の人は「影響している」と答えた(図72)。「影響している」と答えた人に、どのような影響があるかを尋ねたところ(複数回答:いくつでも可)、「仕

図72 同時多発テロの影響(2002年)



図73 どのような影響があるか(2002年)  
【該当者:複数回答(いくつでも)】



事の上で取引先の経営が悪化した」が34%、「収入が減った」が32%、「働き口が少なくなった」が29%などと、仕事や収入に関わる影響が上位を占めた(図73)。

当時の沖縄の状況のみをみる。まず観光客の推移をみると、2000年の九州・沖縄サミットに向けて観光客数、観光収入とも右肩上がりの状態にあった沖縄だったが、2001年の同時多発テロ事件を受けて、アメリカに関連する施設が狙われるのではないかと不安が広がり、アメリカ軍基地が多数存在する沖縄への修学旅行が相次いでキャンセルになるなど、沖縄への旅行者が減少し、経済の主流を占めるようになっていた観光産業が大きな打撃を受けた<sup>28)</sup>。これは、沖縄の1人あたりの県民所得にも表れている。1990年代はバブル経済崩壊などの影響もあって、上下動を経ながら、2000年に過去最高となる210万円に達した。しかし、同時多発テロ事件があった2001年には前年より3万円下がって207万円に、2002年にはさらに2万円下がって205万円に落ち込むなど、所得面での影響もみられた<sup>29)</sup>。こうしたことが暮らし向きについて、悲観的な回答をする人が増えるようになった背景

にあると考えられる(図74, 75)。

図74 沖縄の観光客、観光収入推移(1991年~2001年)

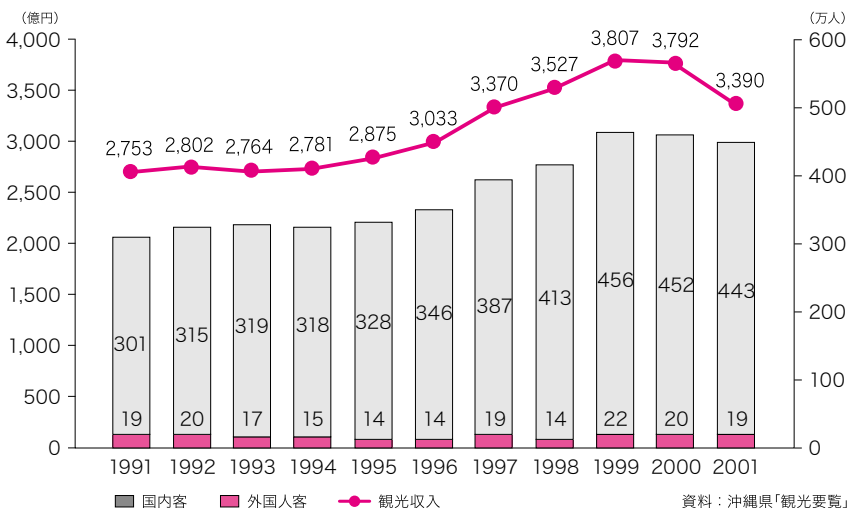
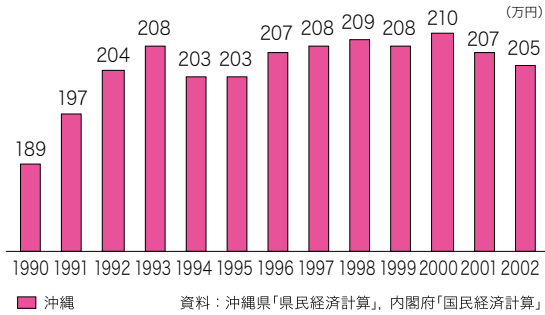




図75 1人あたりの県民所得 (1990年～2002年)



このような状況の中、国や県に力を入れてほしいことについて、どのように考えていたのかをみてる。複数回答(3つまで)で尋ねたところ、「失業対策」が50%、「医療制度・施設の充実」が45%、「公害防止・自然保護」が30%、「観光対策」が24%、「教育対策」が23%、「アメリカ軍基地の撤去」が22%などとなって、1992年に大きく減少していた「失業対策」が2002年には2倍に増えて、再び最も多くなった(図76)。

2000年前後の沖縄の雇用状況をみてみよう。総務省と沖縄県の「労働力調査」によると、沖縄、全国ともに、完全失業率が徐々に上昇していく傾向にあったが、沖縄では、1999年に8.3%に達したあと、同時多発テロ事件があった2001年には8.4%と、この10年で最も高くなった<sup>30)</sup>。このように、当時の沖縄の雇用情勢は再び厳しくなっていて、こうしたことが調査結果にも表れたと考えられる(図77)。

図77 完全失業率 (1990年～2002年)

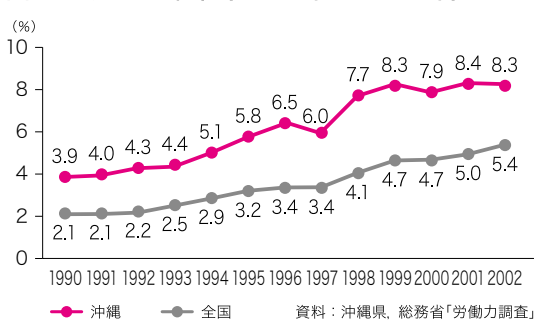
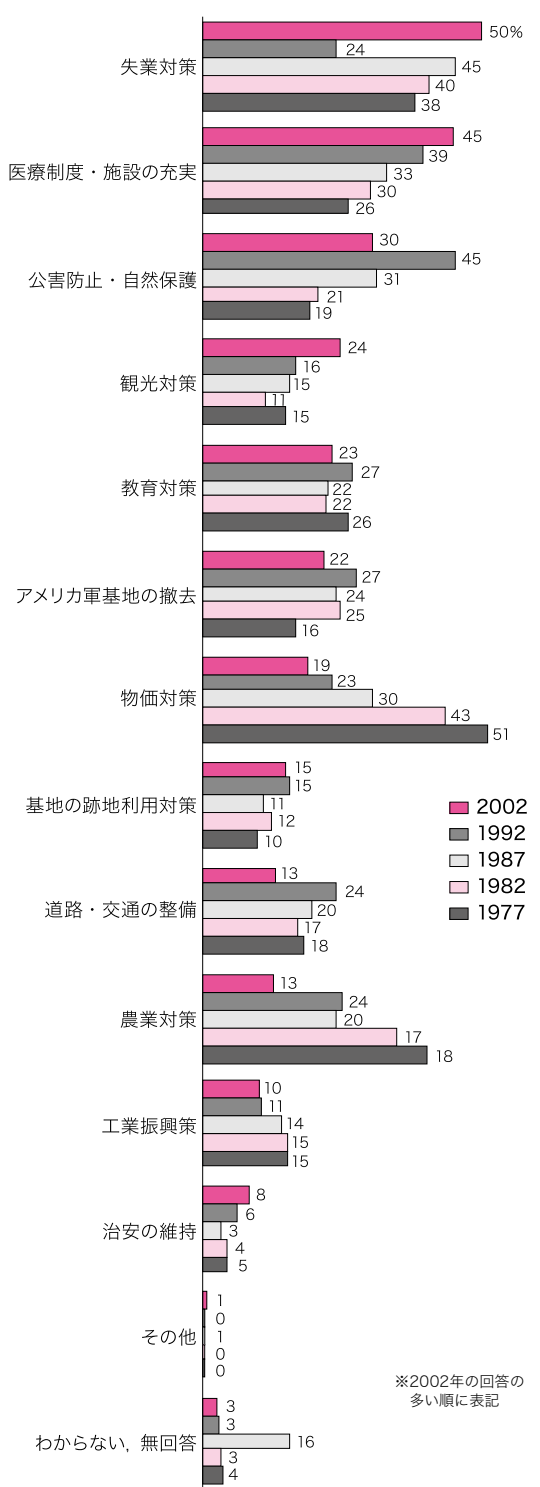


図76 国や県に力を入れてほしいこと (1977年～2002年)【複数回答：3つまで】

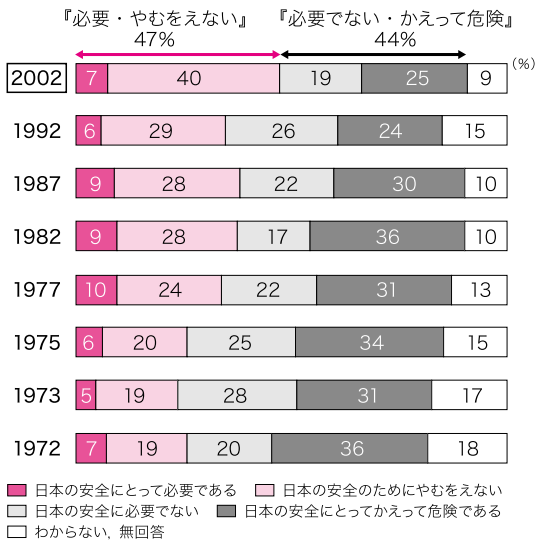


## IV-2 変わり始めた米軍への意識

### (1) 米軍基地の必要性

沖縄のアメリカ軍基地に対する意識はどうなったのだろうか。日本の安全にとって「必要である」が7%、「やむをえない」が40%、「必要でない」が19%、「かえって危険である」が25%となった。沖縄のアメリカ軍基地を肯定・容認する回答が47%と10年前の調査より12ポイント増えた一方で、否定的な回答は反対に6ポイント減って44%となり、肯定的な回答と否定的な回答が、初めて同じ水準で並んだ(図78)。

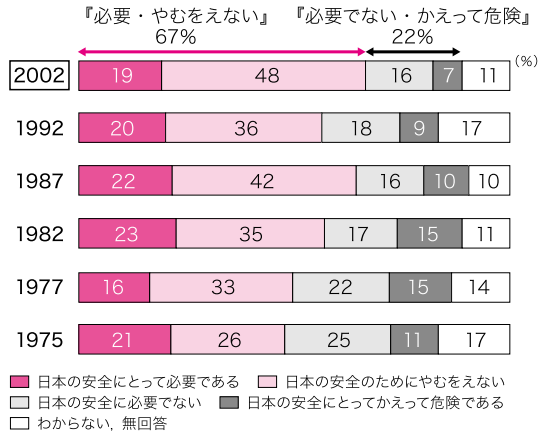
図78 沖縄の米軍基地をどう思うか (1972年～2002年)



沖縄への自衛隊の配備については、日本の安全にとって「必要である」が19%、「やむをえない」が48%、「必要でない」が16%、「かえって危険である」が7%で、自衛隊の配備を肯定・容認する回答が67%と7割近くに達した(図79)。

世界に大きな衝撃を与えた2001年の同時多

図79 沖縄への自衛隊の配備 (1975年～2002年)



発テロ事件であったが、事件を受けて日本の安全に対する考え方が変わったかどうかを複数回答(いくつでも可)で尋ねた。「日本もテロの被害を受ける恐れがあると感じるようになった」が63%、「日本も戦争に巻き込まれる恐れがあると感じるようになった」が52%、「危機管理や国際的な情報収集の体制の整備が必要だと思うようになった」が37%などとなった(図80)。

同時多発テロ事件は、沖縄のアメリカ軍基地に対する意識にどのような影響を与えたのか。それをみるため、両者の質問への回答についての関係をみた。同時多発テロ事件を受けて、「国を守るためには軍事力が必要だと思うようになった」と答えた人では、アメリカ軍基地に対して『必要・やむをえない』が70%で全体の47%を大きく上回った一方、「軍縮や武器輸出の禁止など、平和外交が必要だと思うようになった」と答えた人では、『必要でない・かえって危険』が63%で全体の44%を上回っていて、同時多発テロ事件を受けて、国を守るために軍事力が必要だと感じるようになった人ほど、アメリカ基地の必要性を感じていることがわかった(表2)。

図80 同時多発テロを受けて、安全保障面で考えが変わったこと(2002年)【複数回答】

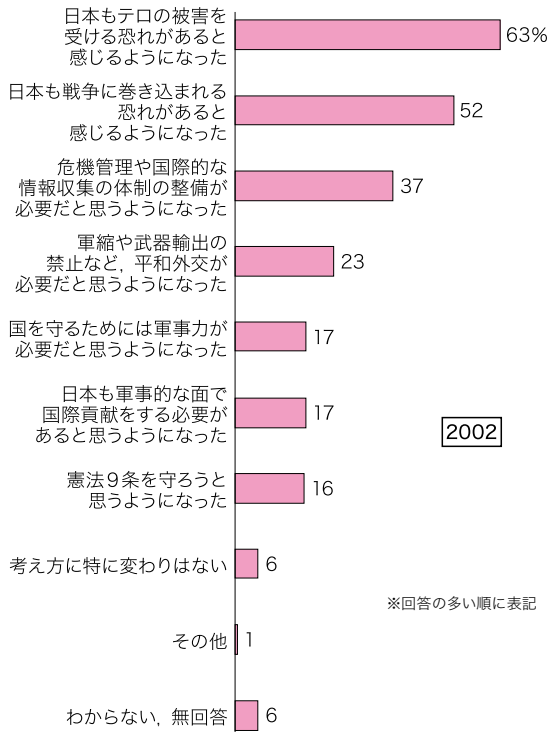


表2 沖縄の米軍基地(「同時多発テロの影響」の回答別)(2002年) (人)

全体	同時多発テロで考えが変わったこと		
	テロ被害の恐れ	軍事力が必要	平和外交が必要
587	368	98	137

沖縄の米軍基地 (%)

『必要+やむをえない』	47	48	70	34
『必要でない+かえって危険』	44	44	26	63
わからない、無回答	9	9	4	4

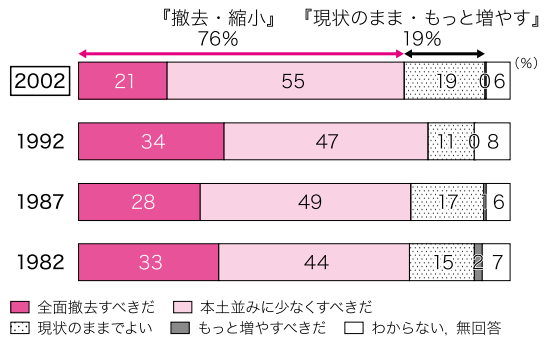
□ 部分は全体の数値より高いことを表す

## (2) 米軍基地への本心は変わらず

続いて、アメリカ軍基地について、どのような気持ちを持っているか尋ねた。「全面撤去すべき」が21%、「本土並みに少なくすべき」が55%、「現状のままでよい」が19%と、「本土

並みに少なくすべき」が半数を超え、「全面撤去すべき」の2倍以上となった。ただ、1982年から2002年までの推移をみると、「全面撤去すべき」と「本土並みに少なくすべき」を合わせた『撤去・縮小』の全体に占める割合は大きくは変化しておらず、その内訳である「全面撤去」が減って、「本土並みに少なくすべきだ」が増えていることがわかる。この背景には、アメリカ軍基地の撤去・縮小をいくら望み続けても、一向に基地がなくなる現状に対して、基地の全面的な撤去が難しいのなら、せめて本土並みに減らしてほしい。そんな現実的な判断をせざるを得なかった沖縄の人々の気持ちが表れているとみることもできよう(図81)。

図81 沖縄の米軍基地をどうしたらよいか(1982年~2002年)



一方で、日米両政府は、1996年に出したSACO(沖縄に関する特別行動委員会)の最終報告に基づいて、普天間基地をはじめ、楚辺通信所や牧港補給地区の返還など、沖縄のアメリカ軍基地の整理・縮小を進めていくこととなった。そうした中、沖縄のアメリカ軍基地の整理・縮小は進んだと思うかを尋ねた。「進んだ」が24%、「進んでいない」が50%、「どちらともいえない」は15%で、「進んでいない」が半数にのぼったものの、「進んだ」と答えた人も4人に1人の割合にのぼった(図82)。

整理・縮小が「進んでいない」と答えた人に、「進んでいない」理由を尋ねたところ、「国がアメリカとの交渉を積極的に進めないため」が33%、「アメリカ軍が沖縄の基地を重視しているため」が30%、「他に基地を移転することが難しいため」が20%などとなった(図83)。

図82 米軍基地の整理・縮小進んだか(2002年)

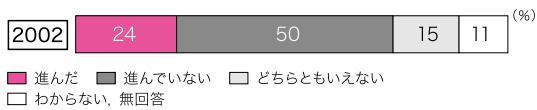


図83 整理・縮小「進んでいない」理由(2002年)【該当者：1つだけ回答】

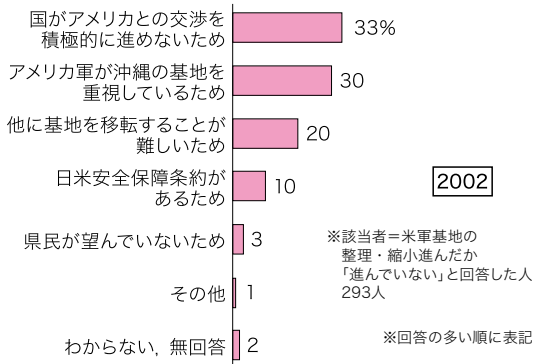
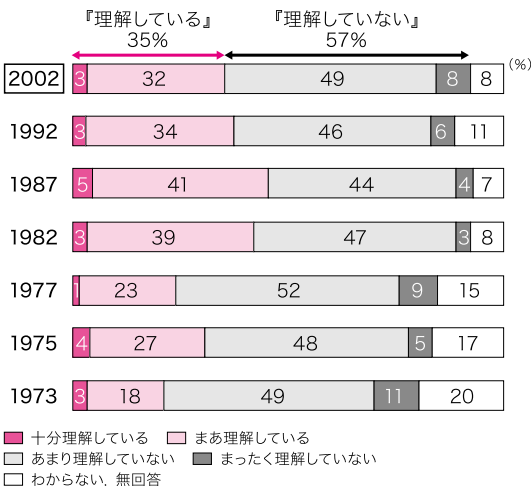


図84 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか(1973年~2002年)



### (3) 本土の人との距離感は広がる

続いて、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思うかという質問についてみてみよう。『理解している』が35%、『理解していない』が57%で10年前の調査より5ポイント上がって、1992年に続いて、『理解している』と『理解していない』の差が広がることとなった(図84)。

## IV-3 第IV章まとめ

1992年から2002年にかけての10年間は、沖縄にとっては、激動の時代だった。1990年代に入っても観光客が増えていく「沖縄ブーム」と呼ばれた状況などもあって、沖縄の本土復帰について、8割近くの人が『よかった』と答えるなど、肯定的にとらえる人が多数を占めた。その一方で、1997年のアジア通貨危機をきっかけとした国内の金融危機にもなう景気の後退や、2001年に起きた同時多発テロ事件は沖縄にも大きな影を落とし、暮らし向きが悪化したと答えた人が増えることとなった。そうしたことを受けて、1980年代には縮まりつつあった、本土の人との距離感を表す、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思うかという質問への回答は、1992年に続いて再び悪化していった。他方、アメリカ軍基地が沖縄に残っていることについて容認する人が増えた。それは復帰後も基地が存続し、基地の存在が既成事実化していく中で、同時多発テロ事件とその後のアフガン戦争などを受けて、自衛隊との連携が強化され、存在感を増すアメリカ軍基地を受け入れざるを得ない。その一方で、「全面撤去」までは求めないが、「基地は本土並みに少なくすべき」と思う人が増えたことに表れているように、本音では沖縄から基地はなくなってほ

しいが、それができないなら、せめて本土と同じくらいにアメリカ軍の基地を減らしてほしい。そうした沖縄の人々の複雑な心境を感じ取ることができた復帰30年の調査結果となった。



## 復帰40年 振り回された県民の思い

### V-1 本土復帰「評価」は安定

#### V-1-1) 2012年までの10年間の歩み

沖縄の人々の意識の変化がみられた復帰30年(2002年)の調査だったが、復帰から40年となった2012年の調査<sup>31)</sup>では、どのような傾向がみられたのだろうか。まず2002年の前回の調査から、2012年の調査までの間の大きな出来事をふりかえっていくこととしよう。

2009年の衆議院選挙によって、政権が交代し、民主党政権が誕生した。衆議院選挙の際に、党代表だった鳩山由紀夫元総理大臣が、普天間基地の移設先について、「最低でも県外」と発言したことから、沖縄の人々の間で、長年叶えられることがなかった思いを受け入れてもらえるのではないかと期待が高まった。しかし、いったん決まった計画を変更して、沖縄以外に基地を移すことにアメリカ側だけでなく、日本政府の中でも否定的な意見が多かったこともあり、鳩山元総理大臣の発言は、二転三転することになり、最終的に撤回せざるを得ないこととなった。こうした現実を目の当たりにし、沖縄の人々は、大きな失望とともに、不信感を膨らませることとなった。

さらに追い打ちをかけたのが、ミサイル発射や核実験を繰り返した北朝鮮と海洋進出を進めていた中国の動きである。このうち、中国は、沖縄県に属する尖閣諸島沖に頻繁に公船や漁船を送り込むようになり、2010年には、中国

の漁船が日本の海上保安庁の巡視船に衝突してくるという事件が発生し、その映像が明らかになったことなどもあり、大きな衝撃をもたらした。沖縄の人々にとって、アメリカ軍基地は沖縄からなくなってほしいが、中国や北朝鮮の脅威は高まるという複雑な状況に置かれることになった。そうした一連の流れの中で行われた2012年の調査結果をみていくこととしよう。

図85 本土復帰の評価 (1973年～2012年)

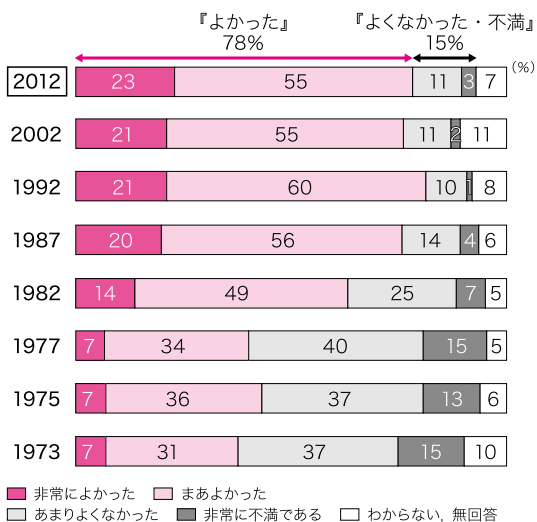
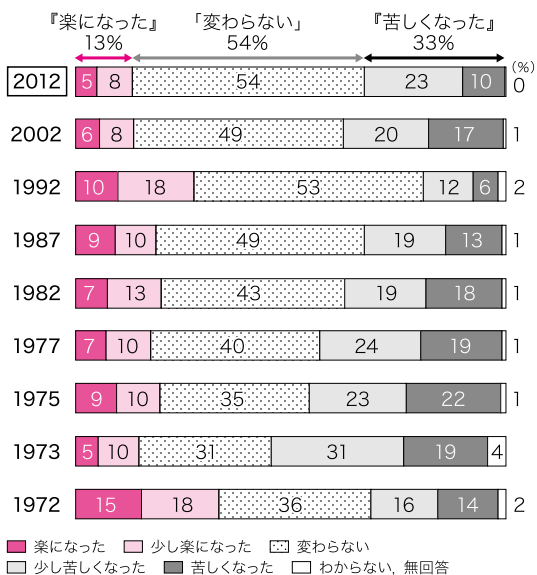


図86 暮らし向き (1972年～2012年)



## V-1-2) 復帰の「評価」8割程度を維持も課題は山積

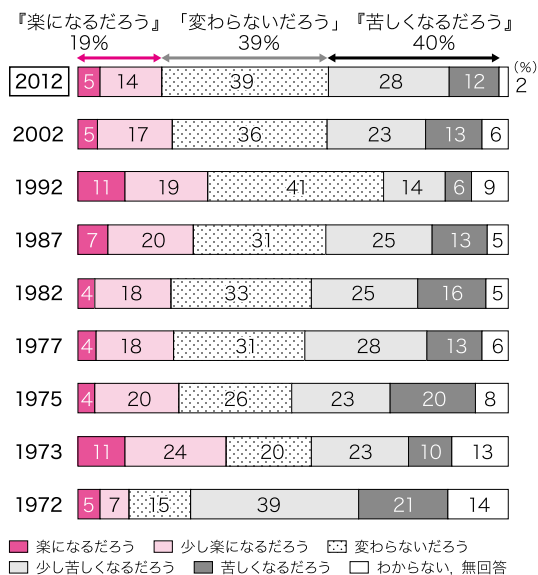
### (1) 本土復帰を「評価」は安定

本土復帰からの40年間をふりかえったとき、本土復帰についての気持ちを尋ねたところ、「非常によかった」と「まあよかった」を合わせた『よかった』が78%、「あまりよくなかった」と「非常に不満である」を合わせた『よくなかった・不満』が15%で、本土復帰を『よかった』と評価する回答が8割ほどを維持することとなった(図85)。

1年前と比べた暮らし向きについては、『楽になった』が13%、『苦しくなった』が33%、「変わらない」が54%だった。再び「変わらない」が増えて半数を超えた。前回2002年の調査と比べると、『苦しくなった』が減って、悪化傾向に歯止めがかかった(図86)。

今後の暮らし向きについては『楽になるだろう』が19%、『苦しくなるだろう』が40%、「変わらないだろう」が39%で、『苦しくなるだろう』と『楽になるだろう』がともに、4割ほど

図87 今後の暮らし向き (1972年～2012年)



を占めた。2002年の調査に比べると、変化はみられなかった(図87)。

国や県に力を入れてほしいことについて尋ねたところ(複数回答:3つまで)、「医療制度・施設の充実」が55%、「失業対策」が52%、「教育対策」が36%、「アメリカ軍基地の撤去」が24%、「観光対策」が22%、「農業対策」が20%、「公害防止・自然保護」が18%などとなった。「失業対策」は依然上位にあるが、2002年の前回調査と比べると、「医療制度・施設の充実」と「教育対策」が大きく増えることになった(図88)。「医療制度・施設の充実」は、これまでも増加傾向にあったが、さらに増えて、最も多くなった背景には、2009年に新型インフルエンザが全国的に流行し、沖縄県でも、医療体制の充実を求める県民が多くなったことがあると考えられる。

## (2) 便利になる生活と負の側面

復帰40年を振り返っての感想(複数回答・いくつでも可)については、「海が汚れ、緑が失われるなど自然がそこなわれた」が54%、「人間関係に温かみが失われてきた」が33%、「教育水準が高くなった」が32%、「生活が豊かになった」が26%などとなった(図89)。「教育水準が高くなった」や「生活が豊かになった」などプラス面の評価も一定数みられるが、「自然がそこなわれた」や「人間関係に温かみが失われてきた」などマイナス面の評価が多くなった。このうち、「海が汚れ、緑が失われるなど自然がそこなわれた」は、公害が問題になっていた1992年に大きく増加したが、その後は対策がとられたことなどもあって、減少傾向が続いている。

こうした意識は、沖縄の開発と自然保護に関する質問の回答にも表れている。沖縄で進

図88 国や県に力を入れてほしいこと (1977年~2012年)【複数回答:3つまで】

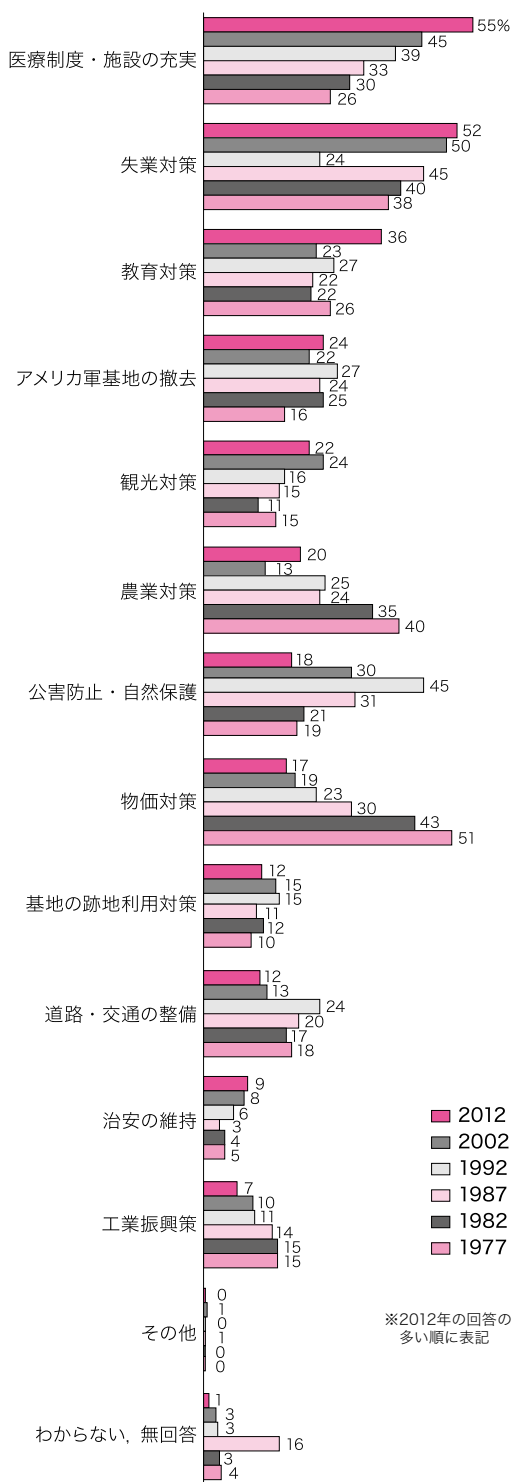


図89 復帰40年の感想(1982年~2012年)  
【複数回答】

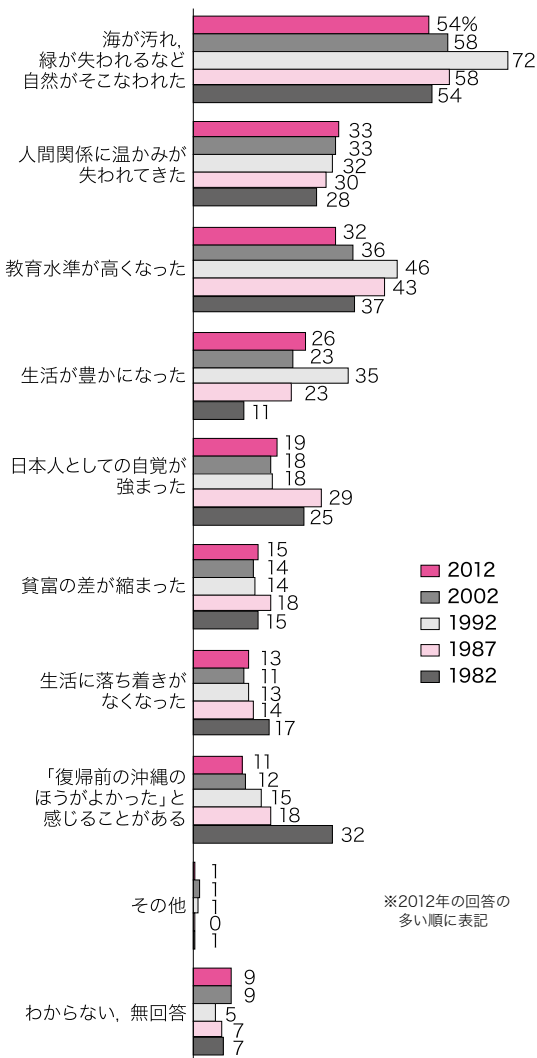


図90 沖縄の開発と自然保護(1992年~2012年)

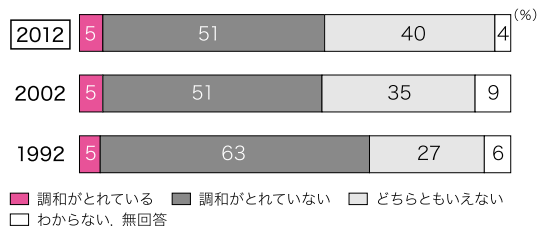
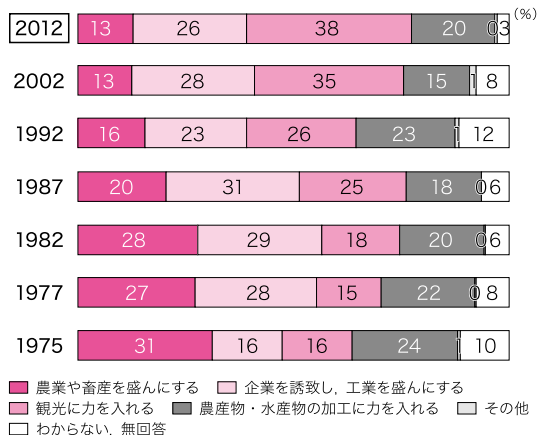


図91 沖縄の経済発展の方向(1975年~2012年)



業を誘致し、工業を盛んにする」が26%、「農産物・水産物の加工に力を入れる」が20%、「農業や畜産を盛んにする」が13%で、2002年の前回調査と同じように、「観光に力を入れる」が最も多くなった(図91)。

められている開発は、自然保護と調和がとれていると思うかを尋ねたところ、「調和がとれている」が5%、「調和がとれていない」が51%、「どちらともいえない」が40%となった。公害問題が意識されていた1992年に「調和がとれていない」が6割を超え、2002年以降はその割合が少し下がったものの、依然、半数を占める状況が続いている(図90)。

今後、沖縄が経済的に発展していく方向性については、「観光に力を入れる」が38%、「企

## V-2 変わる安全保障の意識

### V-2-1) 米軍基地への意識

#### (1) 米軍基地容認が初めて多数に

沖縄のアメリカ軍基地については、日本の安全にとって「必要である」が11%、「やむをえない」が45%、「必要でない」が21%、「かえって危険である」が17%で、沖縄のアメリカ軍基地を肯定・容認する意見が初めて5割を超え、56%に達した(図92)。



図92 沖縄の米軍基地をどう思うか (1972年～2012年)

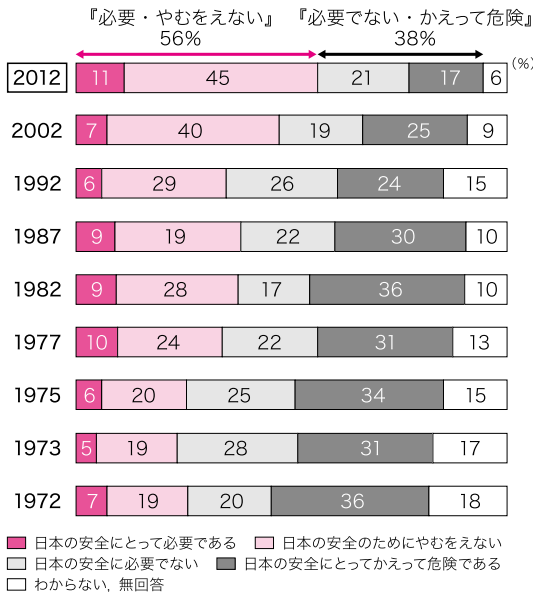
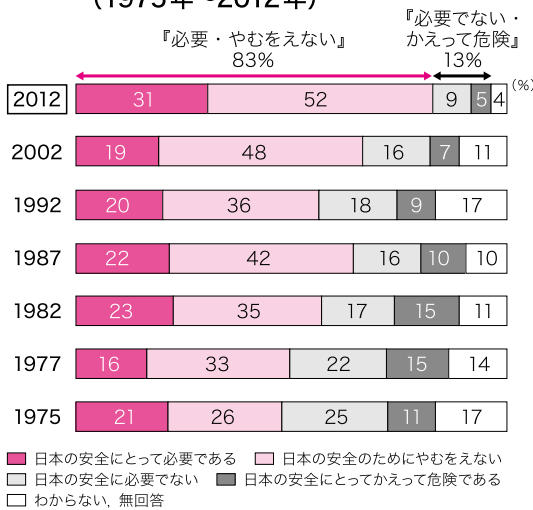


図93 沖縄への自衛隊の配備 (1975年～2012年)



一方、沖縄への自衛隊の配備については、日本の安全にとって「必要である」が31%、「やむをえない」が52%、「必要でない」が9%、「かえって危険である」が5%で、自衛隊の配備を肯定・容認する意見が83%と、初めて8割を超えた(図93)。

## (2) 高まる周辺国への脅威

本章冒頭でも触れたように、2012年の調査の前には、2009年に北朝鮮によるミサイル発射実験と核実験が行われたほか、2000年代に入ってから中国の海洋進出が本格化していくこととなったが、それらの動きに対し、沖縄の人々がどのように思っているのかをみたのが次の質問である。

日本の周辺にあるロシア、北朝鮮、中国、韓国の4つの国を挙げ、安全保障面でどの程度脅威を感じるかを尋ねた。このうち、北朝鮮については、核開発や弾道ミサイル発射実験などの挑発的行動を紹介した上で、脅威を感じるかを尋ねたところ、『脅威を感じる(大いに+ある程度)』が88%、『脅威を感じない(あまり+まったく)』が9%で、9割近くの人が脅威を感じると回答した(図94)。中国については軍事力増強や海洋における活動の拡大・活発化を紹介した上で、脅威を感じるかを尋ねたところ、『脅威を感じる(大いに+ある程度)』が85%、『脅威を感じない(あまり+まったく)』が11%で、8割を超える人が脅威を感じると答えた(図95)。北朝鮮と中国に対する脅威は、ロシア(53%)や韓国(62%)に対

図94 北朝鮮に対する脅威 (2012年)

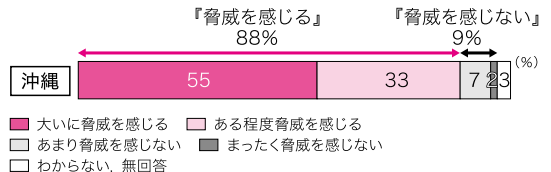
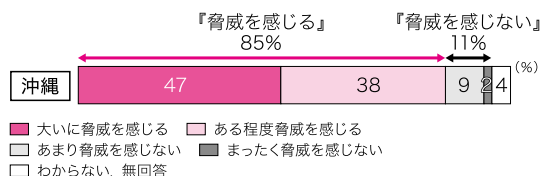


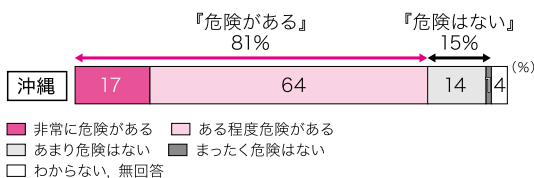
図95 中国に対する脅威 (2012年)



する回答を大きく上回って、特に強いことがうかがえる。

さらに、日本が戦争や紛争に巻き込まれたり、他国から侵略を受けたりする危険性がどの程度あると思うかを尋ねた。『危険がある（非常に+ある程度）』が81%、『危険はない（あまり+まったく）』は15%で、8割ほどの人が『危険がある』と回答した（図96）。

図96 戦争や紛争に巻き込まれる危険性を感じるか（2012年）



日本を取り巻く安全保障環境の変化が、沖縄のアメリカ軍基地に対する回答にどのような影響を与えたのか。その関係を見るため、北朝鮮や中国に脅威を感じるかどうかと、日本が戦争や紛争に巻き込まれる危険を感じるかどうかによって、アメリカ軍基地に対する回答の違いがあるかをみた（表3）。

北朝鮮に対し、脅威を『感じる』と答えた人の方が、脅威を『感じない』と答えた人より、沖縄のアメリカ軍基地を『必要・やむをえない』と回答した人が多くなった。中国に対しても、同じように脅威を『感じる』と答えた人で『必要・やむをえない』と答えた人が多くなっ

た。さらに、日本が戦争や紛争に巻き込まれたり、侵略を受けたりする『危険がある』と答えた人では、沖縄のアメリカ軍基地を『必要・やむをえない』と答えた人が多くなったのに対し、『危険はない』と答えた人では、基地を肯定・容認する意見と否定的な意見に違いはみられなかった。

このように北朝鮮や中国など周辺国に脅威を感じ、さらに日本が紛争などに巻き込まれる危険を感じている人ほど、沖縄のアメリカ軍基地について必要だと思う人が多くなっていて、日本を取り巻く安全保障環境の変化がアメリカ軍基地に対する考えにも影響を与えたことが考えられる。

### (3) 日米安保条約も役立っているが過半数

このように、周辺諸国への脅威を感じる人が多くなる中で、日米安全保障条約や日米同盟に対する意識には、どのような傾向がみられたのだろうか。まず、日本がアメリカと結んでいる日米安全保障条約は、日本の平和と安全にどの程度役立っていると思うかを尋ねた。『役立っている（非常に+ある程度）』が53%、『役立っていない（あまり+まったく）』が37%で、『役立っている』が半数を超えた。2012年の調査からは、沖縄と全国（沖縄県も含めた日本全体）を比較するため、同じ時期に同じ質問文を使って全国を対象とした調査も行った。以

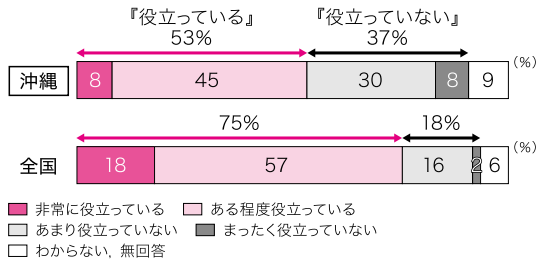
表3 沖縄の米軍基地（「北朝鮮への脅威」「中国への脅威」「紛争に巻き込まれる危険」別）（2012年）

	北朝鮮への脅威		中国への脅威		紛争に巻き込まれる危険	
	『感じる』	『感じない』	『感じる』	『感じない』	『危険ある』	『危険ない』
全体	991	96	953	121	913	167
沖縄の米軍基地	56	57	57	54	58	47
『必要・やむをえない』	56	57	57	54	58	47
『必要でない・かえって危険』	38	38	39	42	38	46
わからない、無回答	6	4	4	4	4	7

□ 部分は、層別にて最も多い回答（互いに従属な%の差の検定 信頼度95%）

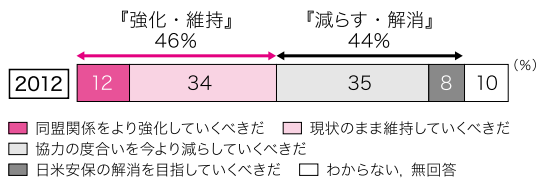
下、必要に応じて全国との違いも紹介していく。上記の質問について、全国の結果をみると、『役立っている』が75%にのぼり、このうち、「非常に役立っている」が沖縄の2倍以上となり、全国のほうが日米安保条約が役立っていると思っている人が多く、沖縄との意識の違いがみられた(図97)。

図97 日米安保条約は役立っているか(2012年)



次に、アメリカとの同盟関係を、今後どうしていくべきだと思うかを尋ねたところ、「同盟関係をより強化していくべきだ」が12%、「現状のまま維持していくべきだ」が34%、「協力の度合いを今より減らしていくべきだ」が35%、「日米安保の解消を目指していくべきだ」が8%となった(図98)。「強化していくべき」と「現状維持」を合わせた日米同盟に肯定的な回答が46%、「協力の度合いを減らす」「解消をめざす」を合わせた否定的な回答が44%で並び、意見が分かれる結果となった。

図98 日米同盟を今後どうしていくべきか(2012年)



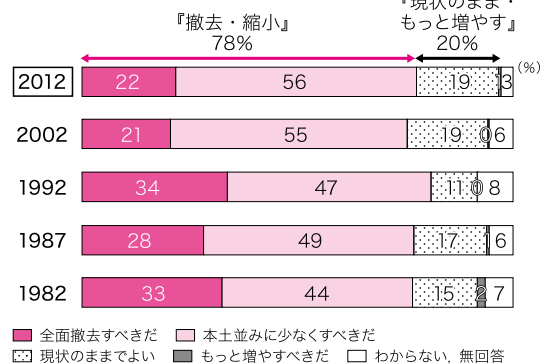
ここまでみてきたように、北朝鮮や中国に対して脅威を感じる人が多かったこともあって、

沖縄のアメリカ軍基地や日米安全保障条約について肯定的な回答が多くなったが、一方で、日米同盟の今後については、意見が分かれることになった。では、アメリカ軍基地や安全保障に関する他の質問への回答についてはどうなったのだろうか。

(4) 基地の撤去・縮小望む思いは変わらず

沖縄のアメリカ軍基地についての気持ちを尋ねたところ、「全面撤去すべき」が22%、「本土並みに少なくすべき」が56%、「現状のままよい」が19%、「もっと増やすべきだ」が1%となった。2002年の調査と比べると、それぞれの回答の割合に大きな変化はみられなかった(図99)。

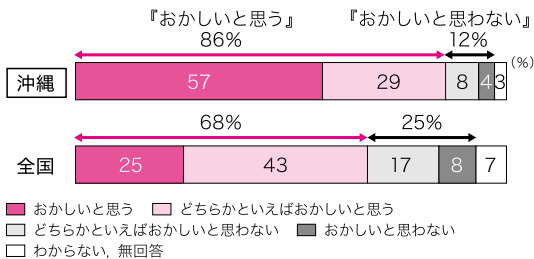
図99 沖縄の米軍基地をどうすべきか(1982年~2012年)



在日アメリカ軍の専用施設の74%が沖縄に集中していることについて尋ねた。『おかしいと思う(「どちらかといえば」を含む)』が86%、『おかしいと思わない(「どちらかといえば」を含む)』が12%で、多くの人が『おかしいと思う』と回答した。全国では『おかしいと思う』と回答した人が68%で沖縄を下回った。さらに、回答の内訳をみると、沖縄ではより強くそう思う「おかしいと思う」が57%だったのに対し、全国では25%にとどまっていた、沖縄の人の方

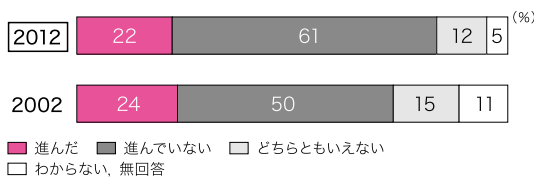
が全国の人より強く、アメリカ軍基地が沖縄に集中していることをおかしいと思っていることがはっきりと表れる結果となった(図100)。

図100 沖縄への米軍基地の集中(2012年)



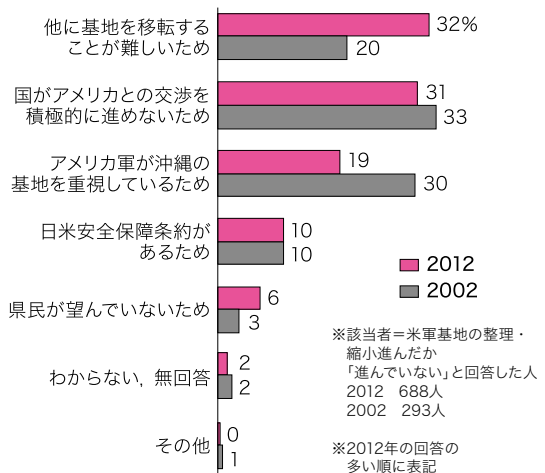
続いて、沖縄のアメリカ軍基地の整理・縮小は進んだと思うかを尋ねた。「進んだ」が22%、「進んでいない」が61%、「どちらともいえない」が12%で、「進んでいない」が2002年より10ポイントほど増えて、6割を占めた(図101)。

図101 米軍基地の整理・縮小進んだか(2002年・2012年)



アメリカ軍基地の整理・縮小が「進んでいない」と答えた人に、「進んでいない」という理由を1つだけ挙げてもらったところ、「他に基地を移転することが難しいため」が32%、「国がアメリカとの交渉を積極的に進めないため」が31%、「アメリカ軍が沖縄の基地を重視しているため」が19%などとなった(図102)。2002年の調査と比べて、「他に基地を移転することが難しいため」と回答した人が多くなった。これは普天間基地の移設先について、鳩山元総理大臣が「最低でも県外」と発言したものの、

図102 基地の整理・縮小「進んでいない」理由(2002年・2012年)【該当者：1つだけ回答】

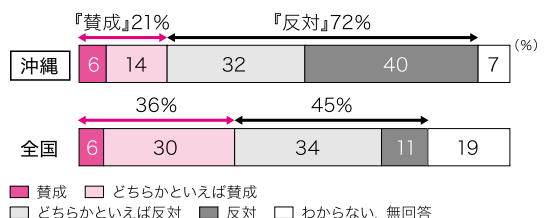


結局、県外に移転先を見つけられず、頓挫したことから、沖縄以外に基地を移転することが難しいと思うに至る人が増えたためと考えられる。

### (5) 普天間基地「辺野古」移設反対が多数

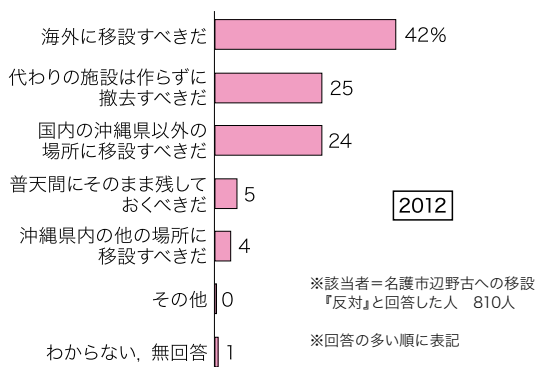
さらに、アメリカ軍普天間基地の返還にあたって、代替りの施設(以下、代替施設)を名護市辺野古に移設することへの賛否を尋ねた。「どちらかといえば賛成」を含めた『賛成』が21%、「どちらかといえば反対」を含めた『反対』が72%で、『反対』が『賛成』を大きく上回った。全国では、『賛成』が36%、『反対』が45%で、『反対』が『賛成』を上回っているものの、沖縄の方がより反対が多くなっていて、沖縄と全国との意識の違いがみられた(図103)。

図103 普天間基地の辺野古への移設の賛否(2012年)



普天間基地の代替施設の名護市への移設について、『反対』と答えた人に、今後どうすべきだと思うかを尋ねたところ、「海外に移設すべきだ」が42%、「代わりの施設は作らずに撤去すべきだ」が25%、「国内の沖縄県以外の場所に移設すべきだ」が24%などとなった(図104)。

図104 辺野古への移設どうすべきか (2012年)【該当者：1つだけ回答】



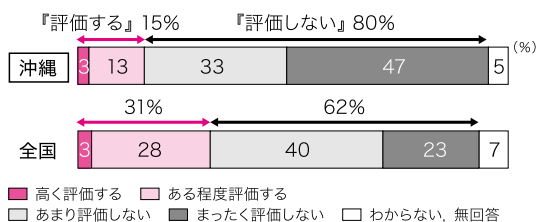
普天間基地の名護市辺野古への移設に『反対』と答えた人たちでは、基地を沖縄県内に作るのではなく、海外に移設するか、基地を作らずに撤去する、あるいは、少なくとも県外に移設すべきだと考えている人が多いことを示す結果となった。

### (6) 「最低でも県外」への期待と失望

鳩山元総理大臣の発言撤回を受けて、普天間基地の代替施設について、日米両政府が沖縄県内に移設することに改めて合意することとなったが、このことについて、どう思うかを尋ねた。「高く評価する」と「ある程度評価する」を合わせた『評価する』が15%、「あまり評価しない」と「まったく評価しない」を合わせた『評価しない』が80%と、8割ほどの人が評価しないと答えた。全国では、『評価しない』は6割ほどにとどまっていて、特に沖縄県民の反

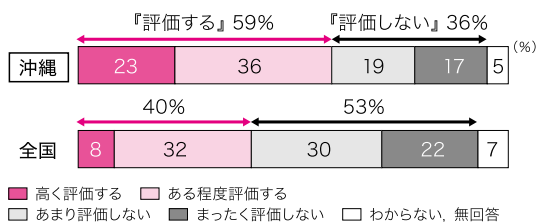
発が強いことがわかる(図105)。

図105 普天間基地 県内移設で合意の評価 (2012年)



一方、鳩山元総理大臣が県外移設を目指す姿勢を示したことについては、『評価する』が59%、『評価しない』が36%となっていて、6割ほどの人が評価すると回答し、全国の4割を大きく上回った。最終的には撤回することとなったが、県外移設を目指す姿勢を示したことについては、評価する人が多く、沖縄の人々にとっては、普天間基地の代替施設は沖縄に作ってほしくないと思っている人が多いことをうかがわせるものとなった(図106)。

図106 普天間基地 県外移設表明の評価 (2012年)



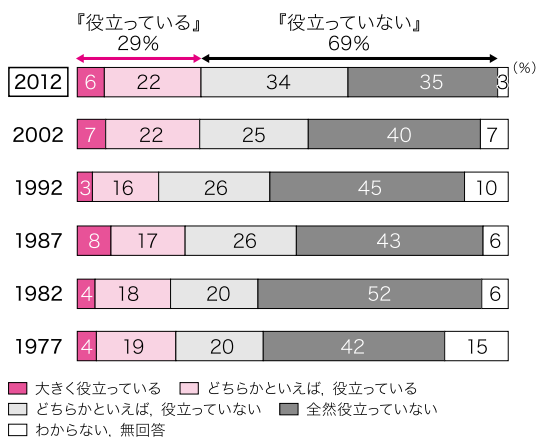
こまで、アメリカ軍基地や日本を取り巻く安全保障についての意識をみてきたが、基地と沖縄の人々の暮らしとの関わりについては、どのように思っているのだろうか。

### (7) 米軍基地と暮らし

アメリカ軍基地があなたの暮らしや仕事に役立っていると思うかどうかを尋ねたところ、『役立っている(どちらかといえば含む)』が29%、

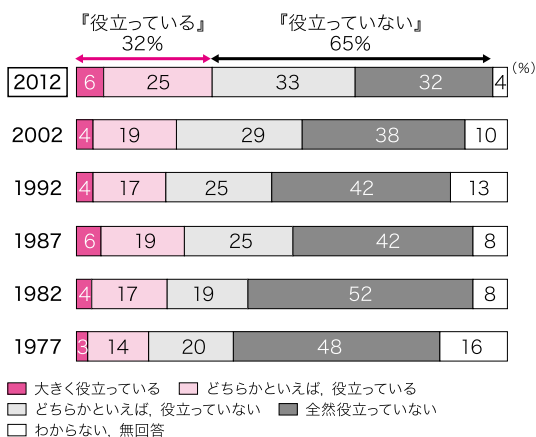
『役立っていない(どちらかといえばを含む)』が69%で、『役立っていない』が多数を占めた。過去の調査結果の推移をみても、アメリカ軍基地は自分たちの暮らしに『役立っていない』と思う人が一貫して多いことがわかる(図107)。

図107 基地は暮らしに役立っているか(1997年～2012年)



自衛隊についても、暮らしに役立っていると思うかどうかをみると、『役立っている』が32%、『役立っていない』が65%で、『役立っている』が徐々に増える傾向にあるものの、アメリカ軍と同じように、『役立っていない』と答えた人が一貫して多数を占めた(図108)。

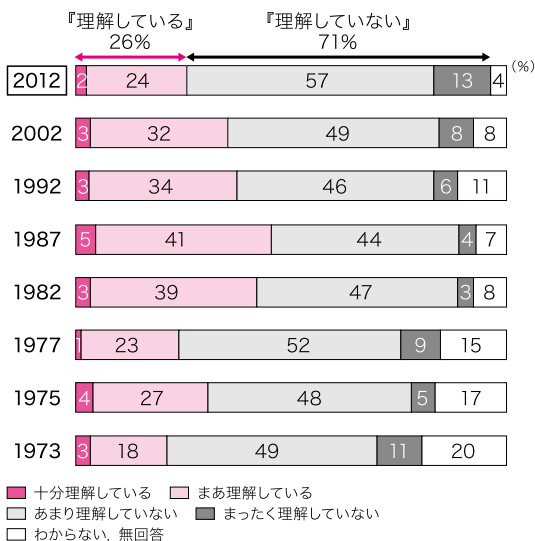
図108 自衛隊は暮らしに役立っているか(1977年～2012年)



## V-2-2) 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか

最後に、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思うかを尋ねた質問をみている。『理解している(十分+まあ)』が26%、『理解していない(あまり+まったく)』が71%で7割ほどを占めた。1987年に『理解している』と『理解していない』の差が最も縮まったが、1992年の調査から、再び両者の差が広がるようになり、2002年、2012年と続けて、『理解していない』が増えていった(図109)。

図109 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか(1973年～2012年)



2012年の調査で、本土の人は沖縄の人の気持ちを『理解していない』と思う人がさらに増えたのはなぜなのだろうか。

この要因の1つとして考えられるのが、鳩山元総理大臣の「最低でも県外」発言をめぐって、政治に翻弄された沖縄の人々の複雑な思いである。沖縄の人々が期待した「最低でも県外」という発言が撤回されたことを受けて、日米両政府は普天間基地の代替施設を沖縄県内

表4 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか  
 (普天間「県内移設に合意」の評価、「県内に基地集中」の評価別)  
 (2012年)

全体	県内移設に合意		県内に基地集中	
	『評価する』	『評価しない』	『おかしい』	『おかしいとは思わない』
1,123	172	899	963	129

(人)

本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか

	『理解している』			『理解していない』	
『理解している』	26	38	24	25	34
『理解していない』	71	59	74	72	64
わからない、無回答	4	3	2	2	5

(%)

■ 部分は、最も多い回答(互いに従属な%の差の検定 信頼度95%)

に移設することで合意した。このことを『評価しない』と答えた人で、本土の人は沖縄の人の気持ちを『理解していない』が74%となり、『理解している』の24%を大きく上回ることになった(表4)。さらに、在日アメリカ軍基地が沖縄に集中していることを、『おかしいと思う』人で、『理解していない』が72%となり、『理解している』(25%)を大きく上回った(表4)。このように、鳩山元総理大臣の発言に大きな期待を寄せたにもかかわらず、それが撤回され、普天間基地の移設先が県内に戻ってしまったことや、沖縄にアメリカ軍基地が集中している現状が何ら変わらないことに不満を持った人が多くなったことで、こうした状況に置かれている沖縄の人の気持ちを本土の人は理解していないと思う人が多くなったことが背景にあると考えられる。

### V-3 第V章まとめ

2012年の調査では、本土復帰に対して、8割ほどの人が『よかった』と答えるなど、引き続き復帰を評価する意見が多数を占めた。また、2002年に悪化する傾向がみられた暮らし向きについても、2012年には悪化に歯止めがかかるなど、経済的にも持ち直しつつあった。長年

否定的な意見が多数を占めたアメリカ軍基地に対しては、現状を肯定・容認する意見が初めて5割を超えた。それは、北朝鮮や中国など周辺諸国への脅威が高まったことが関係していることもみえてきた。このように、アメリカ軍基地を容認する人が増える一方で、在日アメリカ軍基地の7割が沖縄に集中していることをおかしいと思う人が9割近くに達し、普天間基地の名護市辺野古への移設についても7割の人が反対だった。沖縄の人たちが期待を寄せた、鳩山元総理大臣の普天間基地の移設先を「最低でも県外」にするという発言は撤回されたが、それでも、アメリカ軍基地について、「本土並みに少なくすべき」が半数を超え、「全面撤去」も合わせた基地の撤去・縮小を望む人が多数を占める状況に変わりはなかった。このように、現状では沖縄にアメリカ軍基地が残り続けていることを「やむをえない」と考えるようになっても、本心では、アメリカ軍基地はなくなってほしいと思っている人が依然として多いことの間でもあった。北朝鮮や中国の動きもあって、アメリカ軍の基地をなくせないのであれば、せめて本土並みに少なくしてほしい。そのような沖縄の人々の思いを改めて感じる事ができた復帰40年の調査結果となった。

# VI

## 復帰50年 沖縄の人々の思いは

### VI-1 本土復帰を「評価」が 8割超

#### VI-1-1) 2022年までの10年間の歩み

最後に、本土復帰から50年の節目に行われた2022年の調査結果<sup>32)</sup>をみていこう。前回の調査が行われた2012年から2022年にかけては、2012年の衆議院選挙で自民党が政権に復帰し、安倍政権のもとで、これまで遅々として進まなかった名護市辺野古への基地移設が本格的に動き出すこととなった。沖縄では、2014年に、自民党の県連幹事長を務めた翁長雄志氏が県知事となり、保守と革新がともに普天間基地の名護市辺野古への移設に反対する「オール沖縄」と呼ばれる政治状況が続いた。沖縄県が辺野古沖の埋め立て承認を撤回したことに対し、政府がその撤回を取り消し、沖縄県が政府の決定の違法性を裁判に訴えるという前代未聞の事態になるなど、沖縄と政府との対立は続くこととなった。

一方で、外国人観光客の積極的な受け入れなどもあって、沖縄を訪れる観光客はさらに伸び、過去最高を更新していくこととなる。さらに、観光で沖縄を訪れるだけでなく、移住する人も増え、沖縄県は全国でも数少ない人口増加が続くこととなった。

また、国外に目を転じると、中国の海洋進出は止まらず、尖閣諸島周辺への領海侵入は常態化するようになり、中国の脅威が高まっていくこととなった。

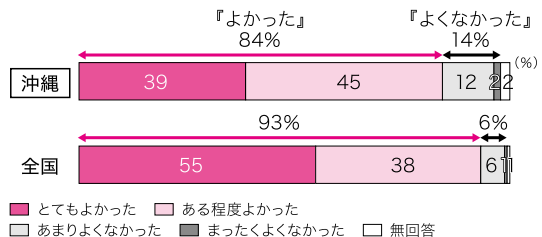
こうした中で迎えた2022年の調査結果をみていくこととしよう。なお、2022年の調査は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、これまで行ってきた面接法から、郵送法に調査方法を変更したため、これまでの調査と比較はできない。このため、本章では、全国と比較した2022年の結果を紹介していくが、必要に応じて、過去の調査についてもコメントしていく。

#### VI-1-2) 本土復帰の評価は安定化

##### (1) 本土復帰の「評価」が8割超

本土復帰からの50年をふりかえって、本土復帰の評価を尋ねた。「とてもよかった」と「ある程度よかった」を合わせた『よかった』が84%、「あまりよくなかった」と「まったくよくなかった」を合わせた『よくなかった』が14%となり、本土復帰を評価する回答が評価しない回答を大きく上回った。全国では、沖縄を上回って、9割以上の人が『よかった』と答えた(図110)。

図110 本土復帰の評価(2022年)

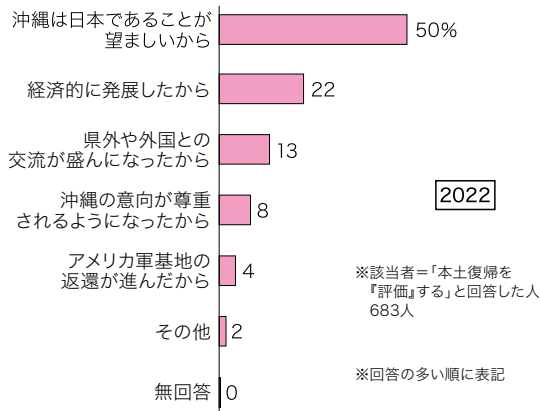


『よかった』と答えた人に、評価の理由を尋ねたところ、「沖縄は日本であることが望ましいから」が50%、「経済的に発展したから」が22%、「県外や外国との交流が盛んになったから」が13%などとなった(図111)。

また、沖縄の復帰直後から国が継続して行ってきた振興策については、『役に立った(非常に+ある程度)』が79%、『役に立たな

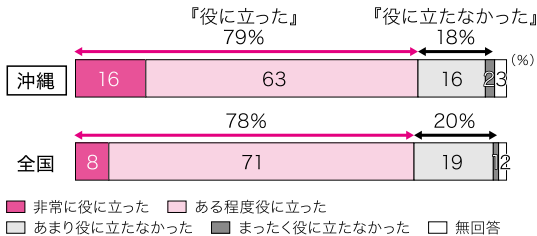


図111 本土復帰「評価」の理由 (2022年)  
【該当者：1つだけ回答】



かった(あまり+まったく)』が18%だった。沖縄と本土との格差解消、沖縄の経済発展を目指して国が行ってきた振興策については、8割近くの人が『役に立った』と答えた(図112)。

図112 国の振興策は役に立ったか (2022年)



## (2) 米軍基地を肯定・容認が多数に

沖縄のアメリカ軍基地については、日本の安全にとって、「必要だ」が11%、「やむを得ない」が51%、「必要ではない」が19%、「かえって危険だ」が17%で、「必要だ」と「やむを得ない」を合わせたアメリカ軍基地を肯定・容認する回答が6割に達した。面接法から郵送法に調査方法を変更したため、過去の調査と比較はできないが、「やむを得ない」が初めて50%を超えた(図113)。

沖縄への自衛隊配備については、日本の安全にとって、「必要だ」が37%、「やむを得ない

図113 沖縄の米軍基地をどう思うか (2022年)

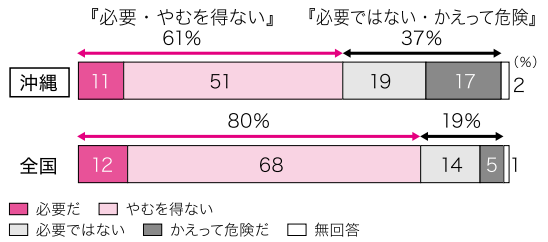


図114 沖縄への自衛隊の配備 (2022年)

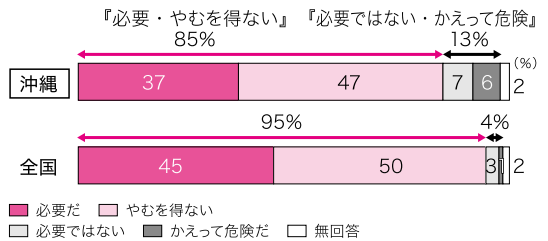
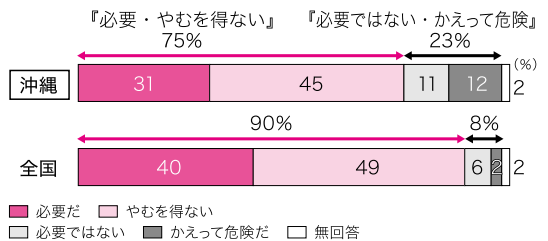


図115 南西諸島への自衛隊の配備 (2022年)



い」が47%、「必要ではない」が7%、「かえって危険だ」が6%で、8割を超える人が沖縄への自衛隊の配備を肯定・容認する結果となった(図114)。ただ、全国と比べると、沖縄では、否定的な回答の割合が高く、それは次の質問にも表れている。中国の海洋進出に備えて、新たに宮古島や石垣島などの南西諸島に自衛隊の配備を進めていることについて「必要だ」が31%、「やむを得ない」が45%、「必要ではない」が11%、「かえって危険だ」が12%で、沖縄への自衛隊配備よりも否定的な回答が多くなっていて、自衛隊の配備そのものには賛成でも、それをさらに拡大していくことについては、慎重な見方をする人が多いことをうかがわせる結果となった(図115)。

### (3) 安全保障環境の変化が与えた影響

2012年から2022年の調査の間に、中国の海洋進出が一層強まることとなったが、日本を取り巻く安全保障環境に対する考えはどうなったのだろうか。

日本が戦争や紛争に巻き込まれたり、他国から侵略を受けたりする危険性がどの程度あると思うかを尋ねた。『危険がある（非常に+ある程度）』が82%、『危険はない（あまり+まったく）』が16%で、『危険がある』と答えた人が8割にのぼった。全国でも8割を超える人（85%）が『危険がある』と回答したが、より強くそう思う「非常に危険がある」は沖縄の方が

図116 戦争や紛争に巻き込まれる危険（2022年）

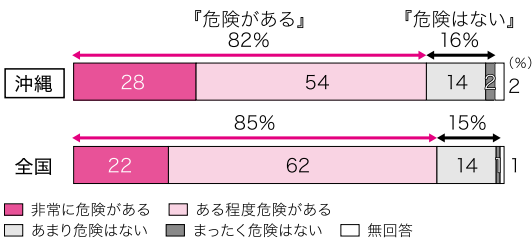


図117 中国に対する脅威（2022年）

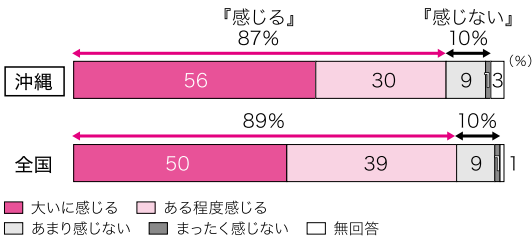
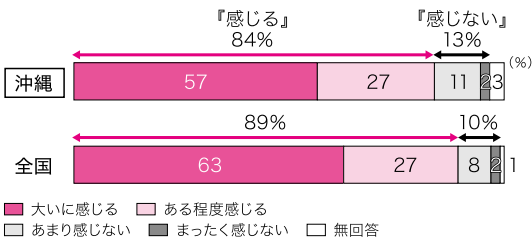


図118 北朝鮮に対する脅威（2022年）



が全国を上回った（図116）。

次に、日本周辺の中国、韓国、北朝鮮、ロシアの4か国を挙げ、安全保障の面でどの程度脅威を感じるかを尋ねた。中国については、脅威を『感じる（大いに+ある程度）』が87%、『感じない（あまり+まったく）』が10%となった（図117）。北朝鮮については、脅威を『感じる（大いに+ある程度）』が84%、『感じない（あまり+まったく）』は13%だった（図118）。北朝鮮に対しては、沖縄よりも全国の方がより強くそう思う「大いに感じる」と答えた人の割合が高くなったが、中国に対しては、全国よりも、尖閣諸島が属する沖縄の方がより強く脅威を感じている人の割合が高くなった。

なお、調査期間中にロシアのウクライナ侵攻があり、ロシアについては、侵攻前と侵攻後で回答傾向が異なることになったが、ロシアに対して脅威を『感じる』人は69%、韓国に対しては42%となった。

中国や北朝鮮に対する脅威など日本を取り巻く安全保障環境の変化が、沖縄のアメリカ軍基地や日米安保条約に対する回答にどのような影響を与えているかをみた。中国や北朝鮮に対して脅威を『感じる』と答えた人や、日本が戦争や紛争に巻き込まれる『危険がある』と答えた人ほど、沖縄のアメリカ軍基地を『必要+やむを得ない』と答えた人が多くなった。これは、日米安保条約が日本の平和に役立っていると思うかという質問でも同じ傾向がみられた。つまり、中国や北朝鮮に脅威を感じている、あるいは日本が戦争や紛争に巻き込まれる危険を感じている人ほど、沖縄のアメリカ軍基地が「必要」あるいは「やむを得ない」と考える人が多く、アメリカ軍基地に対する考えにも影響を与えたと考えられる。一方で、中国に対して、脅威を『感じない』と答えた人では、沖縄の

表5 沖縄の米軍基地どう思うか（「中国への脅威」「北朝鮮への脅威」「紛争に巻き込まれる危険」の回答別）（2022年）

全体	中国への脅威		北朝鮮への脅威		紛争に巻き込まれる危険	
	『感じる』	『感じない』	『感じる』	『感じない』	『危険ある』	『危険ない』
812	704	83	681	106	666	129

沖縄の米軍基地							
『必要+やむを得ない』	中国への脅威		北朝鮮への脅威		紛争に巻き込まれる危険		
	『感じる』	『感じない』	『感じる』	『感じない』	『危険ある』	『危険ない』	
61	65	36	64	51	64	54	
『必要ではない+かえって危険』	37	34	64	35	49	35	47
無回答	2	1	0	1	0	2	0

■ 部分は、層別に見て最も多い回答（互いに従属な%の差の検定 信頼度95%）

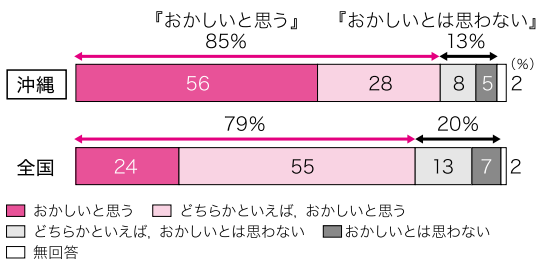
アメリカ軍基地について、『必要ではない+かえって危険』と答えた人が多くなった（表5）。

#### （4）米軍基地集中などへの不満

次に、沖縄の基地問題をめぐって、沖縄県が長年訴えてきた項目について、人々がどのように考えているのかをみていく。

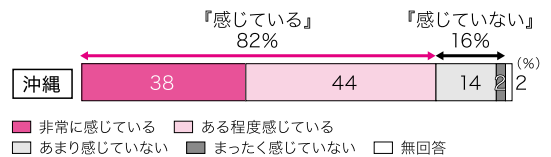
まず、在日アメリカ軍の専用施設のうち、およそ70%が沖縄に集中していることについて、どう思うかを尋ねた。『おかしいと思う（「どちらかといえば」を含む）』が85%、『おかしいとは思わない（「どちらかといえば」を含む）』が13%となった。全国でも、『おかしいと思う』が79%に達し、全体の回答では沖縄と大きな開きはなかったが、回答の内訳をみると、より強くそう思う「おかしいと思う」が、沖縄では56%だったのに対し、全国では24%で、沖縄と全国の間で、アメリカ軍基地が沖縄に集中していることに対する意識の違いがみられた（図119）。

図119 沖縄への米軍基地の集中（2022年）



次に、沖縄にアメリカ軍基地が存在することで、人々を悩ませてきたのは、アメリカ軍関係者による事件や事故が後を絶たないことだった。アメリカ軍基地があることによって、事件や事故に巻き込まれる不安をどの程度感じているかを尋ねた。「非常に感じている」と「ある程度感じている」を合わせた『感じている』が82%、「あまり感じていない」と「まったく感じていない」を合わせた『感じていない』は16%となり、8割ほどの人がアメリカ軍に関連する事件や事故に巻き込まれる不安を感じていると答えた（図120）。

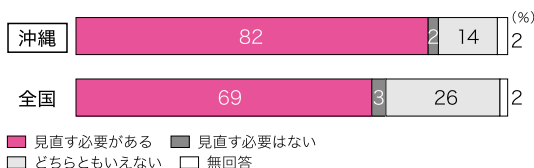
図120 事件・事故に巻き込まれる不安（2022年）



アメリカ軍兵士に関連する事件や事故が起きるたびに問題となるのが基地の整理・縮小とともに、事件や事故を起こしたアメリカ軍兵士を日本の法律に基づいて裁けるようにする日米地位協定の見直しだった。2022年の調査で、日本に駐留するアメリカ軍関係者の権利などを定めた「日米地位協定」について尋ねたところ、「見直す必要がある」が82%、「見直す必要はない」が2%、「どちらともいえない」が14%と

なった。一方、全国では、「見直す必要がある」が69%となっていて、沖縄では、全国よりも「見直す必要がある」と思っている人が多数を占めていることがわかる(図121)。

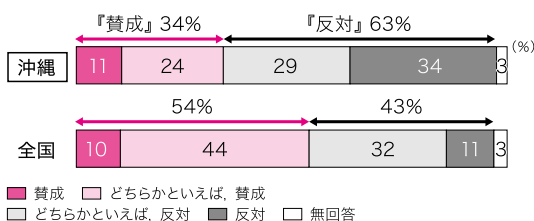
図121 日米地位協定見直す必要あるか(2022年)



そして、沖縄県と政府の間で長年にわたって対立してきたのが普天間基地の移設である。県内に新たな基地を作ることに反対してきた沖縄県であるが、政府は2018年に埋め立て工事のための土砂投入を開始し、移設に向けた工事が本格的に動き出すこととなった。

この普天間基地の名護市辺野古への移設の賛否について尋ねたところ、『賛成(どちらかといえばを含む)』が34%、『反対(どちらかといえばを含む)』が63%で、『反対』が『賛成』を大きく上回った。これを全国と比較すると、全国では、『賛成』が54%、『反対』が43%で、沖縄県とは対照的な結果となった。2012年に続いて、沖縄と全国との意識の違いがはっきりと表れる結果となった(図122)。

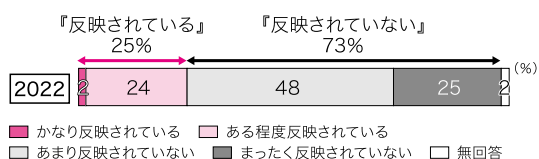
図122 普天間基地の辺野古への移設の賛否(2022年)



普天間基地の移設について、政府は、基地の返還に向けて必要なものであり、基地を移

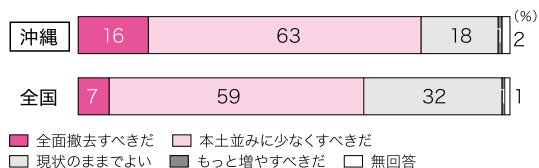
設することによって、アメリカ軍基地の整理・縮小につながると説明しているが、基地の整理・縮小について沖縄県民の意向がどの程度反映されていると思うかを尋ねた。「かなり反映されている」「ある程度反映されている」を合わせた『反映されている』が25%、「あまり反映されていない」「まったく反映されていない」を合わせた『反映されていない』が73%で、沖縄では基地の整理・縮小に自分たちの意向が反映されていないと思っている人が多いことがわかる(図123)。

図123 基地の整理・縮小に沖縄の意向反映されているか(2022年)



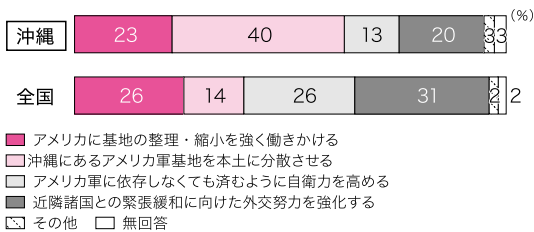
では、沖縄の人々は、アメリカ軍基地をどうしてほしいと思っているのか。その思いをみるため、沖縄にあるアメリカ軍基地についての気持ちを探った。「全面撤去すべきだ」が16%、「本土並みに少なくすべきだ」が63%、「現状のままでよい」が18%などとなり、「本土並みに少なくすべきだ」が6割を占めた。全国でも「本土並みに少なくすべきだ」が59%にのぼったが、「全面撤去すべきだ」は沖縄の半分以下にとどまった一方で、「現状のままでよい」は沖縄を大きく上回り、ここでも沖縄と全国の間で意識の違いがみられた(図124)。

図124 沖縄の米軍基地をどうすべきか(2022年)



では、沖縄のアメリカ軍基地の整理・縮小は、どうしたら進むと思うかを尋ねた。沖縄では、「沖縄にあるアメリカ軍基地を本土に分散させる」が40%で最も多くなったが、全国では、「近隣諸国との緊張緩和に向けた外交努力を強化する」が31%で最も多く、次いで「アメリカに基地の整理・縮小を強く働きかける」と「アメリカ軍に依存しなくても済むように自衛力を高める」が26%で並んだ。沖縄で最も多かった「アメリカ軍基地を本土に分散させる」と答えた人は、全国では14%にとどまり、沖縄の人が基地を本土に分散させることによって、沖縄のアメリカ軍基地を本土並みに少なくしてほしいと考えている人が多いのに対し、全国では、沖縄の基地は本土並みに少なくすべきだとは思っているが、本土に分散させることまでは考えていない。そうした人が多いことを反映した結果となった(図125)。

図125 基地の整理・縮小どうしたら進むか (2022年)



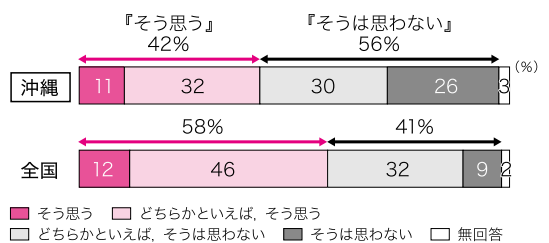
## VI-2 基地と沖縄の経済

### (1) 基地がなければ経済は成り立たないか

ここからは、アメリカ軍基地と沖縄の経済との関係についてみていく。沖縄にとって、アメリカ軍基地が大きな存在を占めていることもあり、長らく沖縄の経済は基地に依存していると言われてきた。これについて、沖縄の人々はどう思っているのだろうか。沖縄の経済は、ア

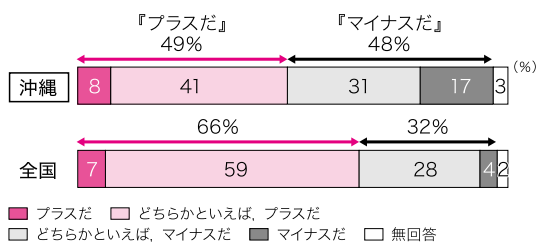
メリカ軍基地がなければ、成り立たないと思うかどうかを尋ねたところ、『そう思う(どちらかといえばを含む)』が42%、『そうは思わない(どちらかといえばを含む)』は56%で、『そうは思わない』が半数以上を占めた。全国と比較すると、全国では『そう思う』が6割近くを占めていて、沖縄と正反対の結果となった。当事者である沖縄の人々の間では、基地がなければ沖縄の経済は成り立たないと思う人よりも、『そうは思わない』人が多くなった。これに対し、全国では、沖縄の経済はアメリカ軍基地がなければ成り立たないと思う人が多くを占めた(図126)。

図126 基地がなければ沖縄の経済は成り立たないと思うか (2022年)



メリカ軍基地は、今後の沖縄経済の発展にプラスだと思うか、マイナスだと思うかを尋ねた。『プラスだ(どちらかといえばを含む)』が49%、『マイナスだ(どちらかといえばを含む)』が48%と、両者が並ぶ結果となった。一方、全国では、7割近くの人が『プラスだ』と答え、

図127 米軍基地は沖縄経済にプラスか (2022年)



先に紹介した質問と同じように、全国の人の方が、アメリカ軍基地があることで、沖縄の経済発展に役立つと思っている人が多いことがわかる(図127)。

## (2) 基地は暮らしや仕事に役立っているか

ここまで、沖縄の経済とアメリカ軍基地との関係を見てきたが、ここからは、基地があなたの暮らしや仕事に役立っていると思うかと、個人の視点で質問をした回答をみていく。アメリカ軍基地は、あなたの暮らしや仕事に役立って

図128 米軍基地は暮らしに役立っているか (2022年)

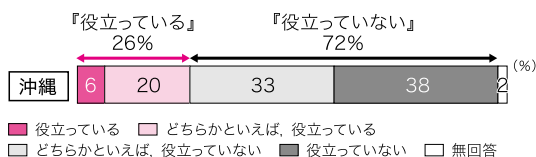
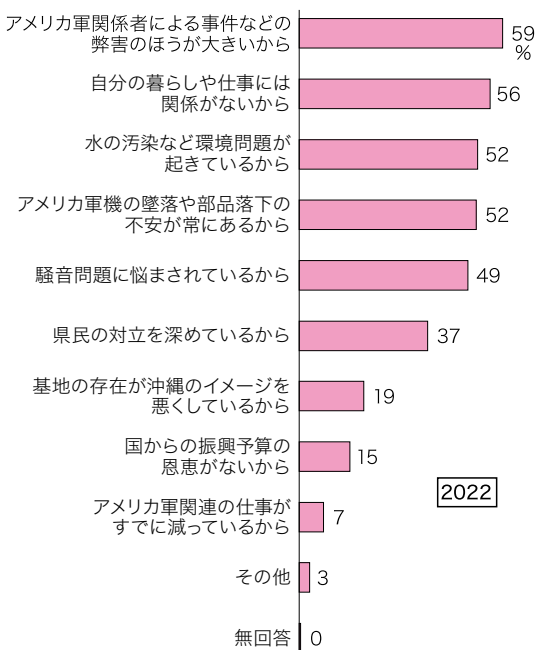


図129 『役立っていない』と思う理由 (2022年)【該当者：複数回答】



※該当者=アメリカ軍基地の存在は暮らしに『役立っていない』と回答した人 581人  
 ※回答の多い順に表記

いると思うかを尋ねたところ、『役立っている(「どちらかといえば」を含む)』が26%、『役立っていない(「どちらかといえば」を含む)』が72%で、『役立っていない』が『役立っている』を大きく上回った(図128)。

上記の質問で『役立っていない』と答えた人に、そう思う理由を尋ねたところ(複数回答:いくつでも可)、「アメリカ軍関係者による事件などの弊害のほうが大きいため」が59%、「自分の暮らしや仕事には関係がないから」が56%、「水の汚染など環境問題が起きているから」と「アメリカ軍機の墜落や部品落下の不安が常にあるから」が52%、「騒音問題に悩まされているから」が49%などとなった(図129)。このように、沖縄の人々にとって、アメリカ軍の存在は、自分たちの暮らしに恩恵をもたらすものではなく、事件・事故や部品落下、さらに水の汚染などの環境問題や騒音問題など、自分たちに迷惑をかける存在だと考えている人が多く、それが『役に立っていない』と答えた人が多かった理由だと考えられる。

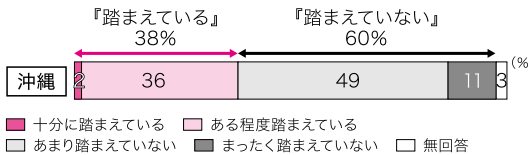
## (3) 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していない

ここまでみてきたように、沖縄にとって、アメリカ軍基地は、経済の面からみても必要なものとは思っていない人が多いことがわかったが、そのことについては、全国の人と意識が異なることも明らかになった。一方で、沖縄には基地があるから、手厚く国に保護されていると思っている人がいることも事実である。そうした中、国の施策について、あるいは、全国の人たちの沖縄に対する認識について、沖縄の人々がどのように思っているのかをみていく。

沖縄に対する国の施策は、全体として、どの程度、沖縄県の意向を踏まえていると思うかを

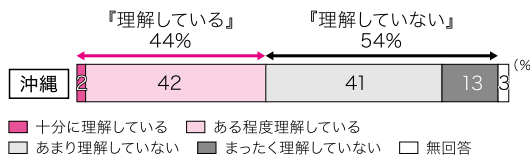
尋ねた。『踏まえている（十分に+ある程度）』が38%、『踏まえていない（あまり+まったく）』が60%で、国の施策は沖縄県の意向を『踏まえていない』と思う人が多くを占めた（図130）。

図130 国の施策は沖縄県の意向踏まえているか（2022年）



次に、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思うかを尋ねた。『理解している（十分に+ある程度）』が44%、『理解していない（あまり+まったく）』が54%で、『理解していない』が『理解している』を上回った（図131）。

図131 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか（2022年）



『理解していない』と答えた人に、そう思う理由を自由記述で答えてもらった。437人の該当者のうち、361人から回答を得た。その内容を見ると、基地問題を挙げる人が多く、「沖縄に基地問題を押し付けている」「沖縄が基地問題で苦しんでいるのに、知らんぷりをしている」「他人事のようにしかない」「沖縄に観光で来ても、沖縄の現状には一切関心がない」といった回答が多くを占めた。それは、沖縄の人々が基地問題で苦しんでいるのに、そうした沖縄の人々の思いや沖縄の現状を本土の人はわかっていない。それが、これまでみてきた本土の人は

沖縄の人の気持ちを理解していないという回答につながっていたことがわかった。

ここまでみてきたように、沖縄の人々にとって、アメリカ軍の存在は、自分たちの暮らしに恩恵をもたらすものではなく、むしろ、事件や事故、部品の落下、環境問題や騒音問題など、自分たちの生活に迷惑をかける存在だと思っている人が多く、それが沖縄の人々のアメリカ軍に対する否定的な見方につながってきたと言える。そして、沖縄と全国との意識の差もここに起因していると考えられる。沖縄ではアメリカ軍基地が身近なところにあるがゆえに、自分たちの暮らしに悪影響を与える、一刻も早くなくなってほしい存在だと多くの人に認識されているのに対し、全国では、アメリカ軍基地が身近なところにない人が多いため、沖縄のように一刻も早くなくなってほしいとまでは認識されていないのである。このことが沖縄と全国との認識の違い、ひいては、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していないという思いにつながってきたと考えられる。

日本の面積の0.6%しかない沖縄に、在日アメリカ軍基地のおよそ70%が集中している。このことを沖縄県は長らく政府に訴え、改善を求めてきたが、それが一向に改善されることなく、復帰から50年経った今も変わることなく、基地が存在し続けている。本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していないという思いは、こうした境遇に置かれてきたことへの沖縄の人々の不満であり、やるせない気持ちの表れでもあったとすることができよう。

## VI-3 第VI章まとめ

復帰から50年が経った沖縄は、経済的にも発展し、本土に復帰して「よかった」と思う人が大半を占めるようになった。しかし、復帰前に多くの住民が望んでいた基地のない暮らしは復帰から50年経っても実現せず、さらに中国など周辺国の脅威が増していることもあって、アメリカ軍基地が残されている現状を「やむを得ない」と考える人が増えてきた。それでも、沖縄にアメリカ軍基地が集中していることを「おかしい」と思い、基地を「本土並みに少なくすべきだ」と思っている人は多数を占めている。さらに基地が身近なところにあることで、「事件・事故に巻き込まれる不安」や「水の汚染」、「騒音問題」など生活への影響は避けられず、そのことが、アメリカ軍基地が身近なところがない人が多い全国の人との意識の違いを生み、ひいては本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しないという思いにつながってきたのである。



## テーマ分析

(時系列、年層別の変化、沖縄戦の継承と今後の沖縄)

### VII-1 時系列比較による分析

ここからは、これまでみてきた質問のうち、主なものについて、復帰からの50年を通して、沖縄の人々の思いがどのように推移してきたのかをみていく。なお、NHKが行った沖縄に関する調査は、その時々の人々の意識をみることを優先し、政治や社会の動きに合わせて質問文を変えてきたため、継続的な比較ができない部分もあるが、50年にわたって調査を継続してきたことによって、人々の意識の変化をみる事ができる貴重な資料であることから、本章では、直接比較ができない部分があることを断った上で、合わせて調査結果を紹介することで、沖縄の人々の意識の変遷をみていくこととする。

なお、調査結果は、これまでに紹介したものを改めて掲載する。2022年の調査は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、調査方法をこれまでの面接法から郵送法に変更したため、過去の調査結果と直接比較ができないことから、グラフは分けて紹介する。また質問文や選択肢が異なった過去の調査についても、結果を分けて紹介する。

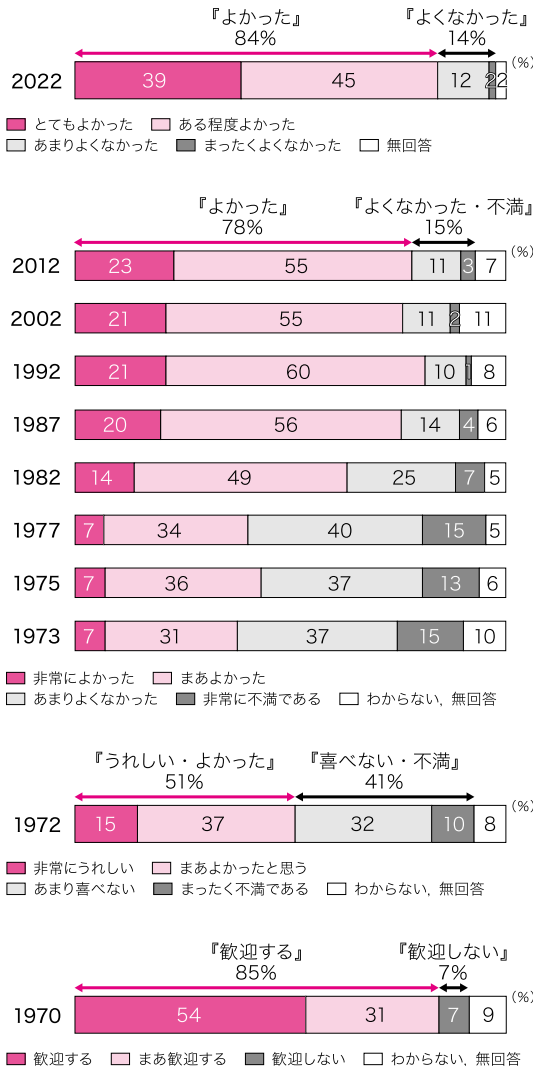
#### (1) 本土復帰の評価

本土復帰に対する評価について、本土復帰前の1970年には85%の人が復帰を『歓迎』していた。その後、復帰直前の1972年に行った調査では、本土復帰を『喜べない・不満』と



いう人が4割に達することとなった。さらに質問文が変わることになるが、本土復帰から1年後の1973年の調査では、「あまりよくなかった」「非常に不満である」と否定的な評価が53%と多数を占めるようになった。その後、1975年、1977年までは、否定的な意見が5割ほどを占めていたが、1982年以降は、『よかった』と評価する意見が5割を超え、1987年に評価する意見が8割近くに達した。それ以降は、本土復帰を評価する回答は8割程度を

図132 本土復帰の評価(1970年~2022年)

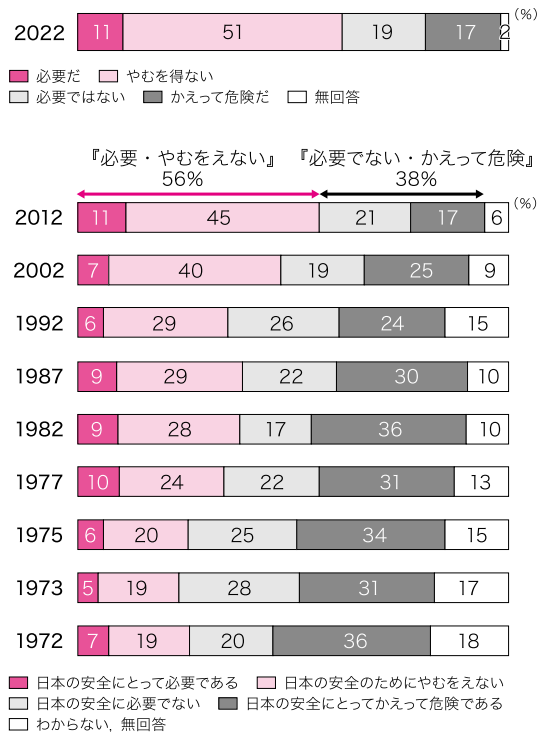


維持するようになり、2022年の調査でも、本土復帰の評価は8割を超えた。沖縄の人々にとって、本土復帰は、いろいろあったが、総じて言えば、『よかった』と多くの人が思うようになったことがうかがえる(図132)。

## (2) 沖縄に残る米軍基地

復帰後も沖縄に残ることとなったアメリカ軍基地については、復帰直前に行った1972年の調査では、日本の安全にとって、「必要でない」「かえって危険である」という否定的な意見が半数以上を占めていた。その後、1970年代後半から「やむをえない」と基地の存在を容認する意見が少しずつ増えていくこととなるが、それでも1990年代までは、アメリカ軍基地に否定的な意見が肯定・容認する意見を上回る状況が続いた。そして、2002年の調査で初めて、

図133 沖縄の米軍基地をどう思うか(1972年~2022年)



アメリカ軍基地を肯定・容認する意見が否定的な意見を上回り、2012年の調査で、初めて5割を超えた。2022年の調査では、「やむをえない」が50%に達し、「必要だ」も合わせたアメリカ軍基地を肯定・容認する意見は6割に達した(図133)。復帰後も沖縄に残ったアメリカ軍基地に対しては、長らく否定的な意見が多数を占めていたが、復帰から時間が経つにつれ、基地の存在が既成事実化されていく現実と、中国や北朝鮮に脅威を感じる人が増え、アメリカ軍の存在感が増していく中で、「必要」「やむを得ない」と考える人が増えていったと考えられる。

### (3) 沖縄への自衛隊の配備

一方、沖縄への自衛隊の配備については、アメリカ軍と異なる動きをみせた。本土復帰直前の1972年調査や復帰後の1973年調査では、自衛隊の配備に反対が多かった。その後、質問が変更されたため、比較はできないが、アメリカ軍基地についての質問と同じ選択肢となった1975年の調査では、「必要である」「やむをえない」が「必要でない」などの否定的な意見を上回るようになった。アメリカ軍基地に対する意見よりも早く、復帰から3年後には自衛隊の配備を肯定や容認する意見が増えていたのである。その後、1982年の調査から「必要である」「やむをえない」と肯定・容認する意見が半数を超えるようになり、アメリカ軍基地に対する考えとは異なった傾向がみられた。この違いが生まれた背景には、すでに紹介しているように、自衛隊が沖縄に配備された直後から、地域でのさまざまな活動を推進してきたこと、さらにアメリカ軍ほど事件・事故を起こすことが多くなかったことなどが影響したと考えられる。それがアメリカ軍に対する意識との違

いを生み出した要因の1つと考えられる(図134)。

### (4) 米軍基地は暮らしに役立っているか

1977年にこの質問を始めて以降、一貫して、『役立っていない』が『役立っている』を上回る状況が続いている(図135)。沖縄の経済は、アメリカ軍基地に依存しているという見方がある中で、沖縄の人々にとっては、アメリカ軍基地が自分たちの暮らしや仕事に役立っていると思っている人は多くなく、多数の人は、自分たちの暮らしや仕事には役立っていないと考えていることがわかる。なお、このような傾向は、アメリカ軍基地に対してだけでなく、自衛隊に

図134 沖縄への自衛隊の配備 (1972年~2022年)

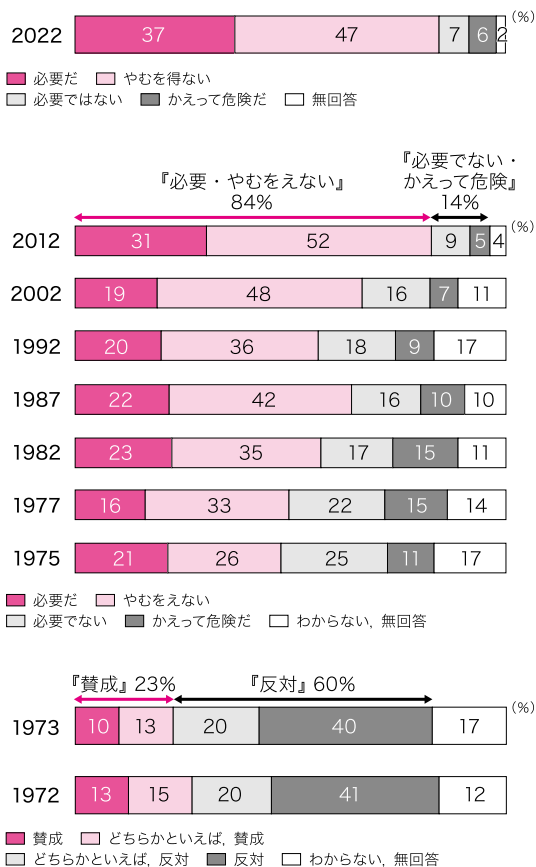
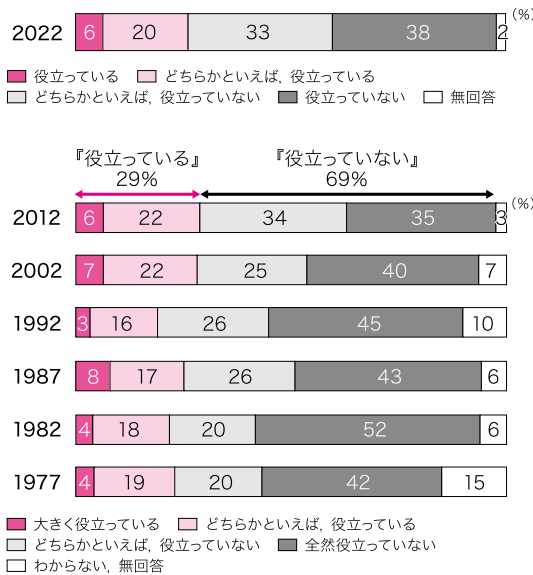


図135 米軍基地は暮らしに役立っているか (1977年～2022年)

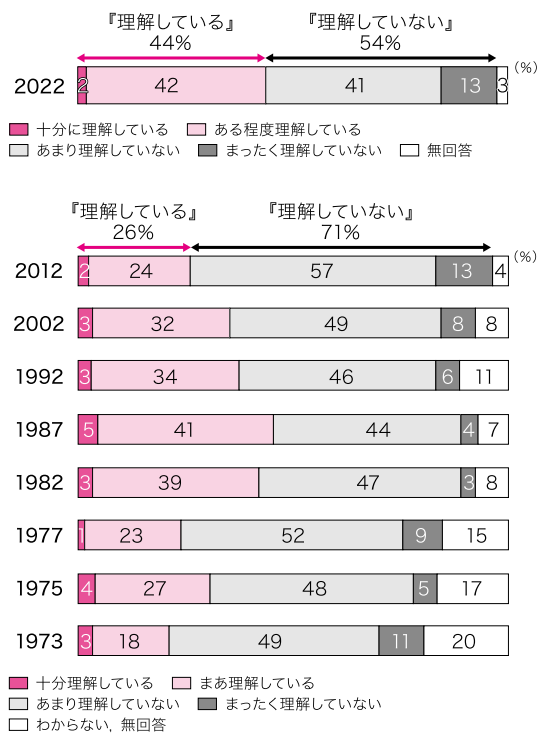


についても、同じように『役立っていない』と思う人が多数を占めている。

### (5) 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか

沖縄の人々の気持ちを知る上で鍵となる質問が、1973年の調査から継続して行われてきた「本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思うか」という質問である(図136)。1973年の調査では、『理解していない』が6割近くにのぼったが、海洋博に向けて経済が成長していった1975年には改善の動きがみられた。しかし、海洋博後に景気が落ち込んだ1977年には再び悪化する傾向がみられた。その後、沖縄の経済が発展していく1980年代は、『理解している』と『理解していない』の差が縮まり、1987年には両者の差が最も縮まって、拮抗するまでに至った。しかし、1992年以降、再び、『理解している』と『理解していない』の差が広がっていくこととなった。なお、2022年は、調査方法や質問の構成が異なることも

図136 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか (1973年～2022年)



あり、それまでの調査と比較はできないため、『理解していない』が減ったとは言いきれないことに注意する必要がある。ただ、2022年の調査でも、『理解していない』が半数を超えていて、沖縄の人の気持ちを本土の人は理解していないと思う人が多くを占める状態が長年にわたって続いてきたのである。

本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているかについては、第VI章で紹介した2022年の調査で、アメリカ軍基地の負担が沖縄の人々に重くのしかかっていることについて、沖縄の人と本土の人の意識の隔たりが背景にあることをみてきたが、これまでもずっとアメリカ軍基地に対する不満が主要な要因を占めてきたのだろうか。それを分析するため、本土の人は沖縄の人の気持ちを『理解していない』が多かった1970年代、『理解している』が増え、『理解し

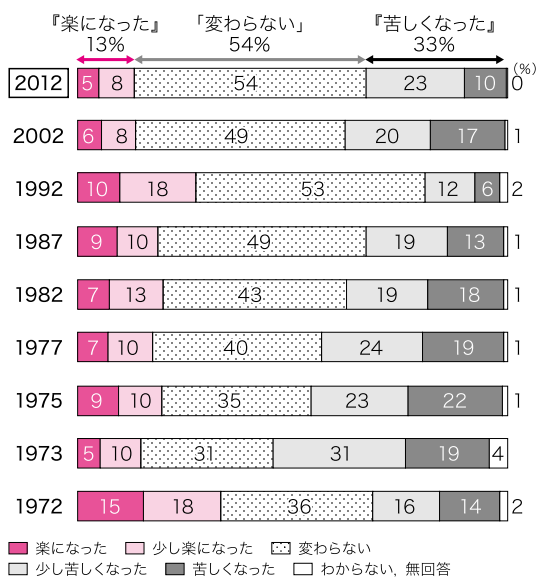
ていない』が減った1980年代、『理解していない』が再び増え始めた1990年代以降の変化の要因について分析した。その結果、その背景には、1つの要因だけでなく、さまざまな要因がからんでいて、その時代、時代ごとに、主に影響を与えている要因が変わっていることがわかった。このうち、1970年代は、暮らし向きについて『苦しくなった』と答えた人が多かったことや、復帰によって撤去や縮小を期待したアメリカ軍基地がそのまま残ったことに不満を持った人たちが多かったことで、期待したような本土復帰とはならなかったことに対するやりきれない思いが、本土の人は沖縄の人の気持ちを『理解していない』という回答が多くを占める結果につながったと考えられる。一方、1980年代は、基地問題に何ら進展はみられなかったものの、沖縄を訪れる人が増え、経済が発展し、暮らし向きがよくなっていったことで、『理解している』が増え、『理解していない』が減っていくこととなった。しかし、1992年以降、再び両者の差が開いていったが、その要因については、その時ごとに変化していった。1992年の調査では、冷戦の終結によって、アメリカ軍基地の必要性がなくなり、基地が整理されていくのではないかと期待した人たちの思いが叶わなかったこと。2002年には、同時多発テロ事件の影響もあって、沖縄を訪れる旅行者が減り、暮らし向きが『苦しくなった』と答えた人が再び増えていったこと。さらに、2012年は沖縄の人々が大きな期待を寄せた普天間基地の県外移設が頓挫し、結局、県内に移設先が戻ってしまったことに対する、何ともやりきれない思いが影響したと考えられる。そこに共通するのは、いずれも、沖縄の人々にとって、自分たちが満足していない、あるいは自分たちが望んでいない状況に置かれたこと、それに

対する本土の人との意識の差、違いがあったことで、本土の人は沖縄の人の気持ちを『理解していない』という回答につながり、その時々々の状況を表すような回答の変遷をたどることになったと考えられる。

## (6) 沖縄の人々の暮らし向き

「1年前と比べて、あなたの暮らし向きがどうなったか」という質問は、1972年以降、継続的に行われてきた。復帰直前の1972年に行った調査では、『楽になった』と『苦しくなった』が並び、「変わらない」も含め、3つの回答に大きな差はなかった。復帰前後から続いた物価高によって、復帰後の1973年の調査では、『苦しくなった』が大幅に増え、半数を占めた。その後、沖縄の経済が発展し、生活が向上していくにつれ、『苦しくなった』が徐々に減っていき、1992年の調査で、初めて『楽になった』が『苦しくなった』を上回った。しかし、金融危機による景気の後退や、同時多発テロ事件の影響を受けた2002年には『苦しくなった』

図137 暮らし向き (1972年～2012年)



が増えたが、その10年後の2012年には『苦しくなった』が減って、状況が持ち直したことを示すなど、これまでの沖縄の人々の暮らし向きに対する意識がわかる結果となった(図137)。

## VII-2 年層別回答推移分析

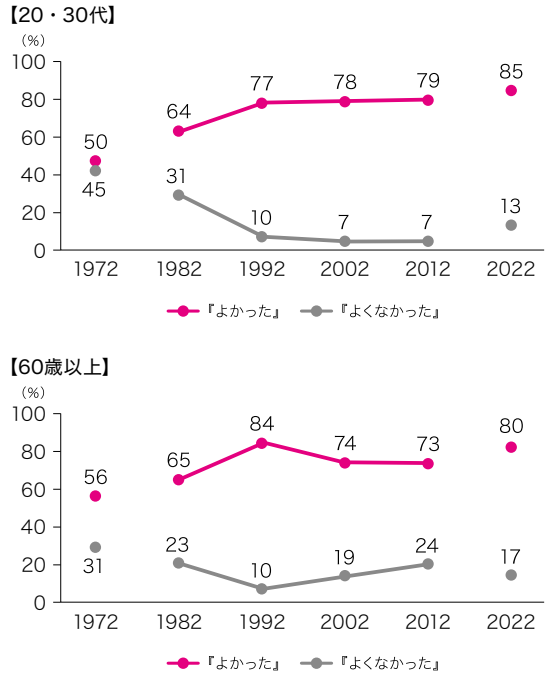
続いて、年層別の回答についてみていく。年層別の分析にあたっては、特に特徴的な動きを見せた20・30代の若年層と60歳以上の高齢層を中心に、調査回ごとの推移をみていく。なお、1970年代や1980年代の調査はサンプル数が少なかったこともあり、年層は10歳ごとではなく、20歳ごとに区切って、20・30代、40・50代、60歳以上の3区分とした。また、年層ごとの回答の推移については、その質問が始まった年、あるいは、復帰から10年ごとのサイクルにあたる年を起点とし、そこから10年、あるいは20年単位で調査結果を紹介していく。なお、グラフの中で1972年と2022年の結果が他の調査年と線でつながっていないのは、選択肢の表現が異なるか、調査方法が異なるためである。

### 質問テーマごとの年層別回答

#### (1) 本土復帰の評価

まず本土復帰の評価についてみてみよう。20・30代の若年層では、1972年の調査で復帰を評価する回答と、復帰を評価しない回答が同じ水準で並んでいた。その後、復帰を評価する回答が増えていき、2022年には8割を超える人が復帰を評価していた。一方、60歳以上の高齢層では、1972年の調査から復帰を評価する回答が6割近くを占め、復帰を評価しない回答を大きく上回っていた。その後の推移は、若年層と同じように、復帰を評価する回

図138 本土復帰の評価(年層別推移)  
(1972年~2022年)



答が増えていき、2022年には8割に達していた。40・50代の年層も含め、すべての年層で、復帰を評価する回答が時の経過とともに増えていった(図138)。

なお、1972年に20・30代だった世代など、それぞれ世代に注目して、回答の推移についても分析したが、全体の回答傾向と大きな変化はないことがわかった。この傾向は、このあと紹介するアメリカ軍基地や自衛隊の配備など、他の質問でも同じように確認できた。

#### (2) 沖縄に残る米軍基地

年層別の動きをみる前に、回答者全体の傾向を振り返ってみると、アメリカ軍基地に対しては、長らく否定的な回答が肯定的な回答を上回っていたが、2002年以降肯定的な回答が否定的な回答を上回るようになった。次に年層別の回答傾向をみると、20・30代の若年層

図139 沖縄の米軍基地（年層別推移）  
（1972年～2022年）

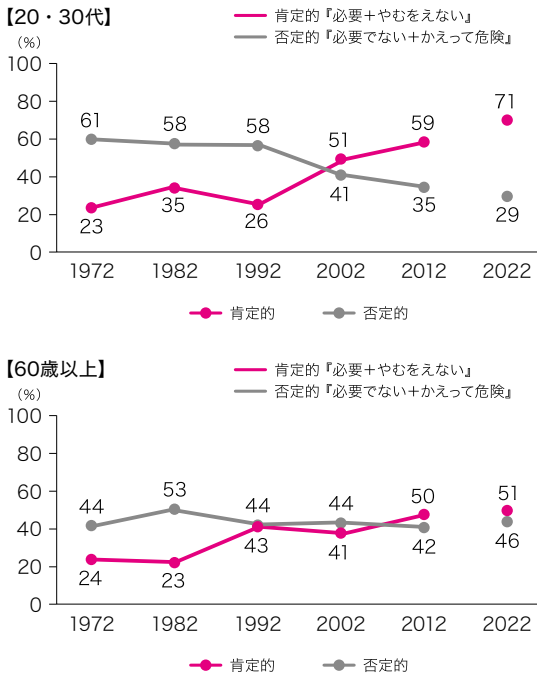
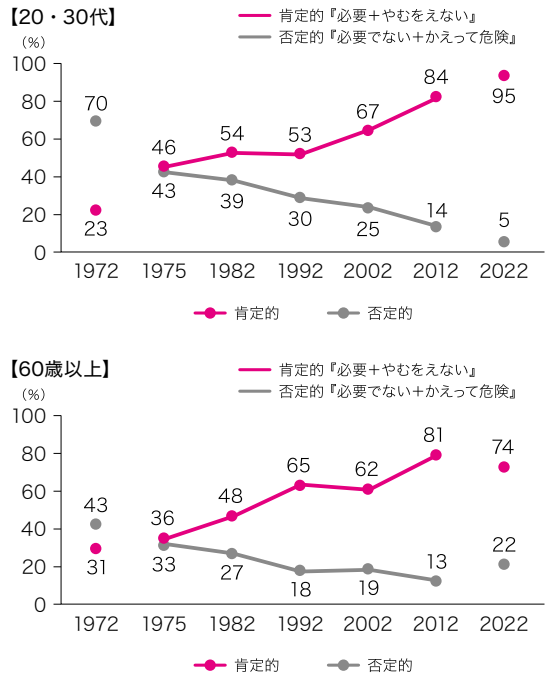


図140 自衛隊の配備（年層別推移）  
（1972年～2022年）



では、1992年までは否定的な回答が上回っていたが、2002年以降肯定的な回答が上回り、2022年には、他の年層に比べて、肯定的な回答と否定的な回答の差が最も大きくなった。一方、高齢層では、1972年から1982年までは基地に否定的な回答が肯定的な回答を上回っていたが、1992年に並んだあとは、同じような水準で推移していった（図139）。

### （3）沖縄への自衛隊配備

沖縄への自衛隊の配備については、これに関する質問が初めて行われた1972年の調査では、各年層とも反対が賛成を上回り、特に、若年層で反対が多かった。1975年以降は、質問文が変わったこともあり、直接比較はできないが、いずれの年層でも自衛隊の配備に肯定的な回答と否定的な回答が同じ水準で並んだ。それ以降は、肯定的な回答が増えていっ

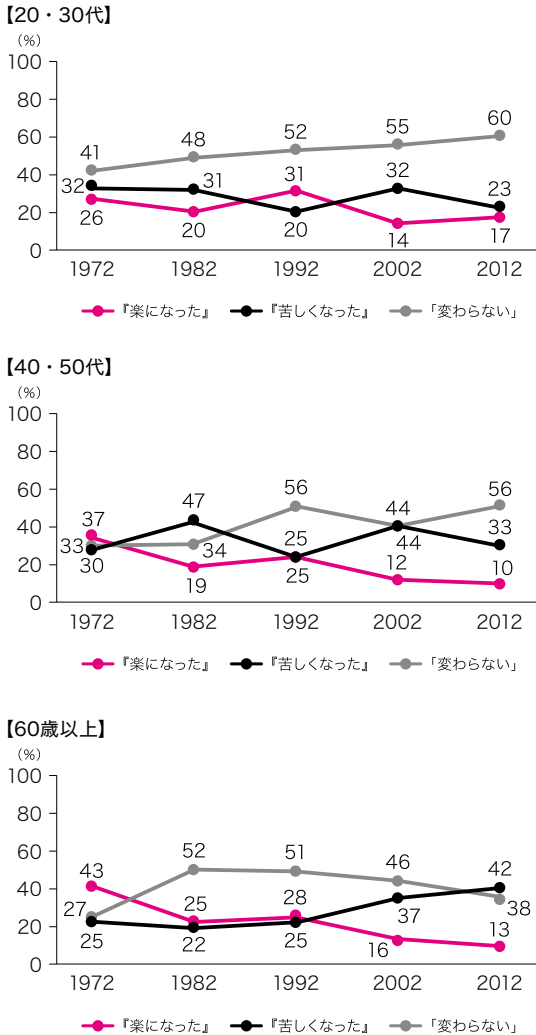
た。そして、2022年には、20・30代の若年層で肯定的な回答が95%に達し、他の年層と大きく差が開いた。高齢層ではその差が50ポイントほどで他の年層より小さかった（図140）。

### （4）暮らし向き

暮らし向きについては、その時々を経済情勢を受けて、各年層とも『楽になった』と『苦しくなった』が上下動を繰り返しているが、他の年代に比べ、働き盛りであり、家族を持っている人が多い40・50代で、その変化が最も大きくなった。

暮らし向きの全体的な回答傾向を振り返ってみると、沖縄の経済発展にともなって、1992年の調査にかけて『苦しくなった』が減り、改善していく傾向がみられたが、同時多発テロ事件を受けて、2002年の調査で、再び悪化に転じるようになった。こうした動きを最も反映し

図141 暮らし向き (年層別推移)  
(1972年~2012年)



ていたのが先ほど紹介した40・50代であり、次いで同じく働いている人が多い20・30代であった。また、20・30代の若年層では「変わらない」が増え続けるなど、特徴的な傾向もみてとれた。一方、2002年に悪化した暮らし向きは、2012年に少し持ち直していたが、60歳以上の高齢層では、2012年も『苦しくなった』が増え続けるなど悪化傾向にあることがわかった。このように、沖縄の人々のその時々暮らし向きを尋ねてきた質問であったが、年層別に

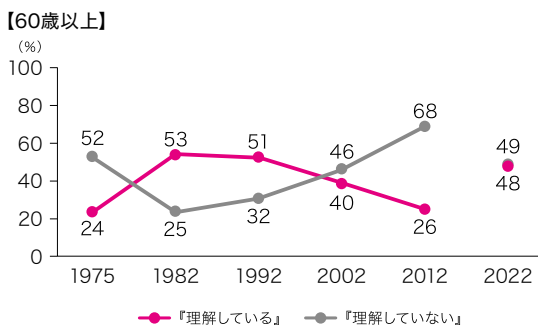
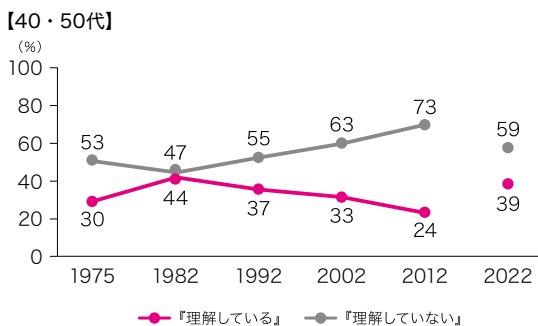
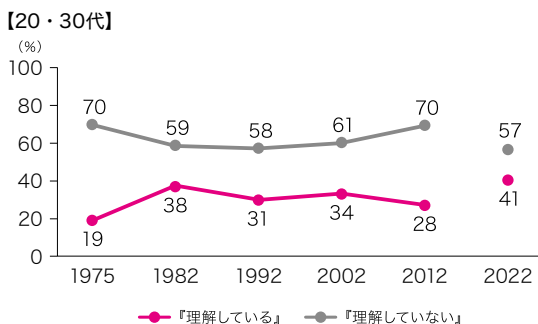
みると、さらに、どの年層で、最も影響を受けているのかわかる結果となった(図141)。

### (5) 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか

本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているかについては、1970年代は、『理解していない』が多く、1980年代に入って、その割合が下がっていったが、1990年代以降再び増加するという経過をたどった。これを年層ごとにみると、それぞれの年層で異なる動きをみせた。このうち、20・30代の若年層では、『理解していない』が常に『理解している』を上回る結果となった。一方、40・50代の年層では、1975年には『理解していない』が多かったが、1992年以降は『理解していない』が上回る結果となった。上記の2つの年層と異なる動きをみせたのが60歳以上の高齢層である。1975年には『理解していない』が多かったが、1982年から1992年にかけて『理解している』が上回るようになった。しかし、2002年から2012年にかけては、再び『理解していない』が逆転し、『理解している』を上回る結果となった(図142)。

上記の結果を『理解している』と『理解していない』の回答に分けて、それぞれ年層別の変化をみると、調査年ごとの推移は、同じような動きを示していて、20・30代より40・50代、40・50代より60歳以上と、年層が上がるにつれ、変化の幅が大きいことがわかる(図143・144)。先にみたように、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているかについては、その時々暮らし向きやアメリカ軍基地に対する意識などさまざまな要因が絡んでいるが、そこに共通するのは、沖縄の人々にとって、自分たちが望まない状況に置かれたことに対するや

図142 本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか(年層別推移)(1975年~2022年)



るせない思いと、その思いや状況に対して、本土の人との意識の差にあった。そして、60歳以上に該当する人は調査年ごとに変わり、常に同じではないが、その下の年代よりも長く、アメリカ軍基地と向き合い、戦前・戦後の苦しい時代、さらに沖縄が本土に復帰する前も含めて、つらい状況をより知っている年代でもある。それがゆえに、下の年代よりも、状況が改善し、あるいは悪化した時の思い入れが強いとも考えられ、それがその時代、時代ごとの回答の変

図143 本土の人は沖縄の人の気持ちを『理解している』(年層別推移)(1975年~2022年)

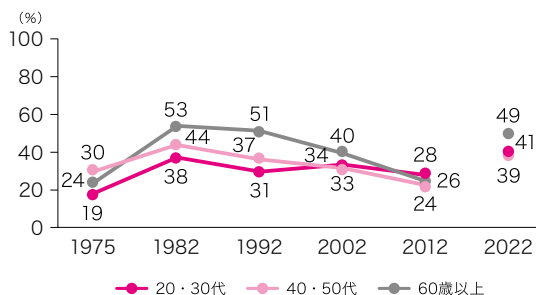
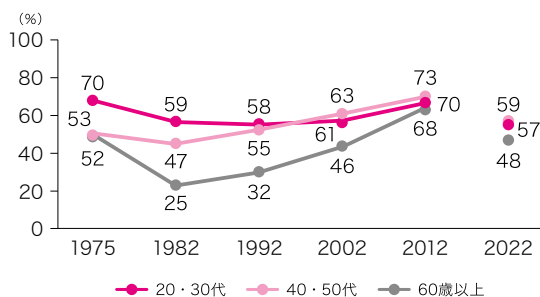


図144 本土の人は沖縄の人の気持ちを『理解していない』(年層別推移)(1975年~2022年)



化が、下の年代よりも大きくなった要因と考えられる。

しかし、戦後生まれが大半を占め、復帰から40年以上が経った2012年以降は、年層ごとの回答の差がほとんどなくなっていて、多くの人が戦後に生まれ、本土復帰後の時代を長く過ごしていく中で、年層ごとの違いが少なくなったとも考えられる。

### VII-3 年層間の意識の違い

#### (1) 米軍基地をめぐる年層別の意識の違い

前節では年層別の観点から、回答がどのように推移してきたのかをみたが、ここからは、2022年の調査において、沖縄の中で、年層ごとの回答の違いがあるのかをみていく。



図145 沖縄の米軍基地（2022年：年層別）

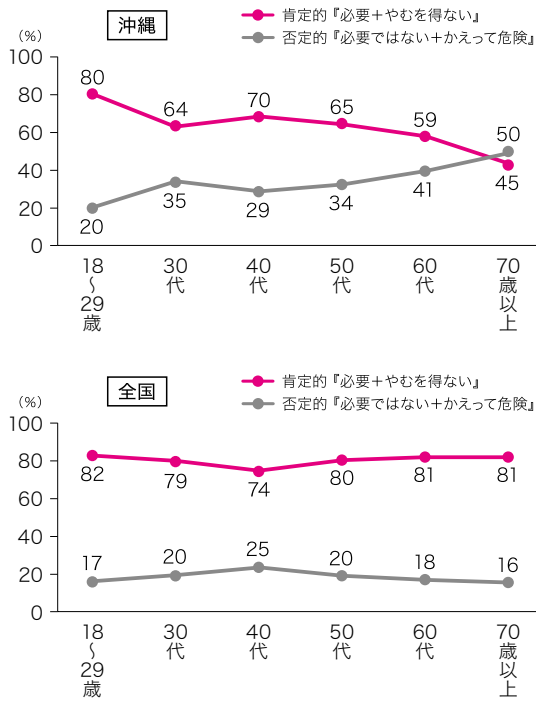


図146 沖縄の米軍基地（2012年：年層別）

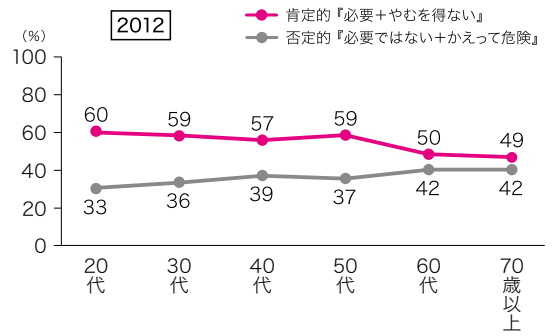
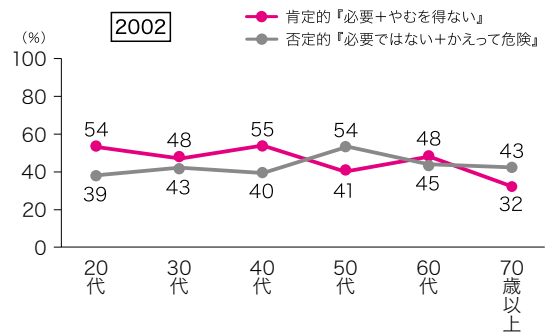


図147 沖縄の米軍基地（2002年：年層別）



まず、アメリカ軍基地に対しては、さきに紹介したように、沖縄と全国の間で意識の違いがみられたが、沖縄の中では、年層ごとに違いがあるのだろうか。

沖縄におけるアメリカ軍基地に対する回答を年層別にみると、18～29歳の若年層では、基地を『必要・やむを得ない』と肯定的に考える人が最も多くなり、反対に70歳以上の高齢層では『必要でない・かえって危険』と否定的に考える人が肯定的に考える人を上回るなど、年層ごとの違いがみられた。この違いは、沖縄特有のものなのか、それとも全国でもみられるものなのか。全国の年層別の回答についてみると、全国では、年層ごとの違いはほとんどみられず、各年層まんべんなく、沖縄のアメリカ軍基地について、『必要・やむを得ない』と肯定的に考えている人が7～8割を占めた(図145)。

2022年の調査でみられた年層別の違いが、

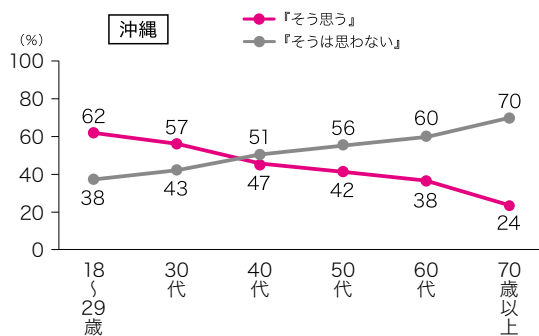
2022年だけのものなのか。それとも、それ以前にもみられた傾向なのか。それをみるため、10年前の2012年と、20年前の2002年の調査における年層別の回答を紹介する。

図146・147で示したように、2002年の調査では、年層によっては差が開いているところもあったが、ある年代を境に違いがはっきりと表れるような傾向はみられなかった。しかし、2012年になると、50代以下で、アメリカ軍基地に対して肯定的な回答と否定的な回答との差が開き、2022年には、さらに70歳以上以外、つまり60代以下の年代で、肯定的回答と否定的回答の差が開いて、年層が若くなるにつれ、その差が大きくなった。2022年に60代となった人たちは、50年前の本土復帰のときには、全員が20歳未満の未成年であり、そこから年層が下がれば下がるほど、沖縄が経済的に発

展し、基地に対する意識も変化し始めたあとに生まれた、あるいは中学・高校時代を過ごし、成人を迎えた人たちであった。2022年は、さらに18～29歳の若年層で、肯定的回答と否定的回答の差が他の年代よりも開いていて、それまでとの違いも顕著になった。2022年に18～29歳に該当する人たちは、1993年から2004年までに生まれた世代であり、小学校の

高学年になるまでに、沖縄サミットが開かれ、観光リゾート地として定着し、アメリカ軍基地に対しても肯定・容認する人が多くなった状況の中で育ってきた。そうした若者たちは、アメリカ軍基地に対して否定的な感情を抱く人が少なくなり、年齢が下がれば下がるほど、アメリカ軍基地に対して肯定的な回答をする人が多くなったことで、高齢層だけでなく、自分たちよりも上の年代との意識の違いが大きく広がることになったと考えられる。

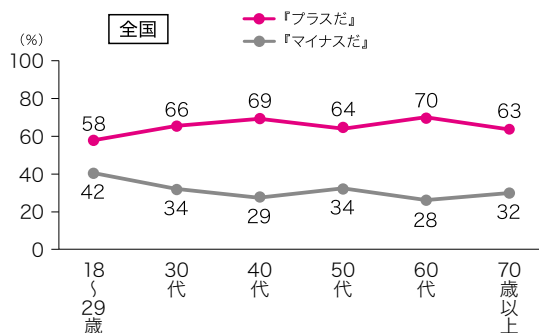
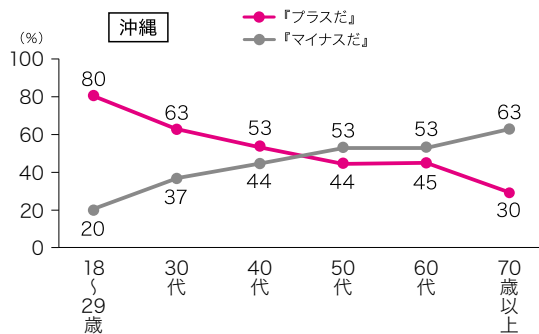
図148 基地がなければ沖縄の経済は成り立たないと思うか (2022年：年層別)



## (2) 「基地と経済」の年層別回答の違い

次に、アメリカ軍基地そのものだけでなく、基地と沖縄の経済をめぐる回答についても、年層別の回答をみていく。アメリカ軍基地がなければ沖縄の経済は成り立たないと思うかという質問に対し、18～29歳の若年層で、『そう思う』が他の年代に比べて最も多くなり、反対に70歳以上の高齢層では、『そう思わない』が他の年代に比べて最も多くなった。さらにアメリカ軍基地の存在は、今後の沖縄経済の発展にプラスか、マイナスかを尋ねた質問でも、18～29歳の若年層では、『プラスだ』が80%に達したのに対し、70歳以上の高齢層では30%と最も少なくなり、反対に『マイナスだ』が63%と最も多くなった。このうち、アメリカ軍基地は沖縄経済の発展にプラスか、マイナスかについての全国の年層別の回答をみると、年層ごとに大きな違いはなく、6割から7割前後の人が『プラスだ』と答えていた (図148・149)。

図149 米軍基地は沖縄経済にプラスか (2022年：年層別)



このようにアメリカ軍基地に対する考え方については、沖縄と全国の違いだけでなく、沖縄の中でも、若年層と高齢層の間で大きな違いがみられた。

これは、本土復帰のときにすでに成人していて、長らくアメリカ軍基地と向き合ってきた70

歳以上の人を中心とした高齢層では、人々を悩ませてきたアメリカ軍基地は沖縄からなくなってほしいと思う人が多いのに対し、生まれたときからすでにアメリカ軍基地があり、基地に対して肯定・容認する人が多くなった環境で育った若い年代にとっては、沖縄に基地があることが日常となっており、むしろ、基地の存在は沖縄の経済にとって必要だと考えている人が多くを占めることにつながったと考えられる。そして、沖縄の若い年代でみられた傾向は、全国と同じような意識であり、沖縄の中で世代間のギャップが生じていることをうかがわせるものとなった。

### (3) 基地負担問題での年層ごとの差は少ない

ここまで、沖縄の中で、アメリカ軍基地に対して、年層ごとに大きな違いがあることをみてきたが、すべてがそうなのだろうか。ここからは、沖縄にとって、大きな問題である2つの質問に対する年層ごとの回答をみていく。まず、在日アメリカ軍基地の70%が沖縄に集中していることについてである。多少の変動はあるものの、若年層から高齢層まで万遍なく、『おかしいと思う』という回答が『おかしいとは思わない』を大きく上回る結果となった。次に、普天間基地の名護市辺野古への移設についてみると、各年層とも『反対』が『賛成』を大きく上回ったが、50代以上の年代では、『反対』と『賛成』の差が30ポイント程度開いたのに対し、40代以下の年代では20ポイントほどとなっていて、50代以上と40代以下で温度差もみられた。ただ、基地と経済をめぐる問題などとは異なり、沖縄に基地が集中していることや、新たに基地が作られることについては、多くの人が反対の考えを持ち、年層間での大きな違いはみられなかった(図150・151)。

図150 在日米軍基地の沖縄への集中 (2022年：年層別)

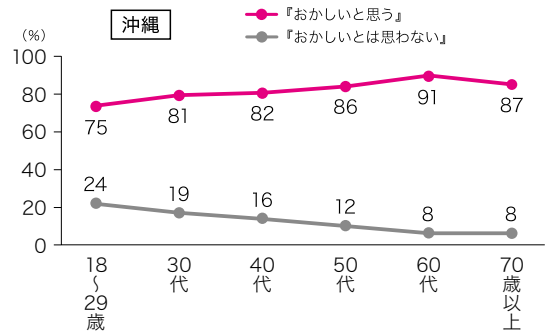
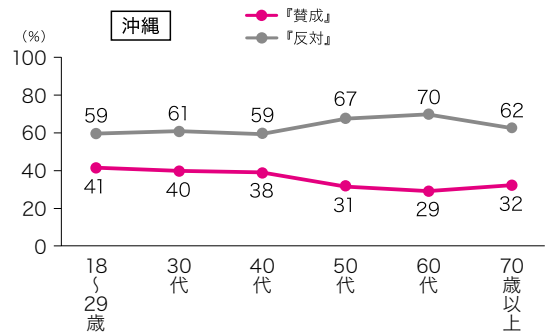


図151 名護市辺野古への基地移設の賛否 (2022年：年層別)



## VII-4 沖縄戦をどう継承するか

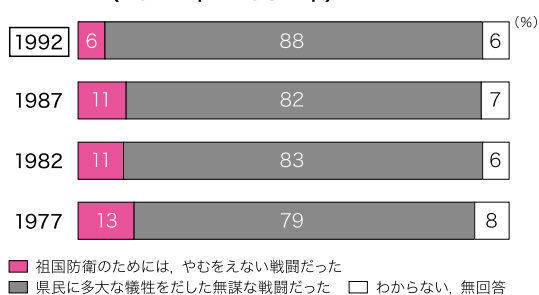
### (1) 沖縄戦は『忘れてはならないもの』

ここまでアメリカ軍基地や暮らし向き、そして本土復帰に対する評価などを中心に、沖縄の本土復帰からこれまでの50年間をふりかえってきたが、ここからは、これまで取り上げてこなかった問題についてみていきたい。

それが沖縄戦についてである。沖縄では、太平洋戦争末期に、アメリカ軍が上陸して激しい地上戦が行われ、住民の犠牲者も含め20万人以上が亡くなった。日本国内で、多くの住民が住む場所で行われた唯一の地上戦となり、沖縄にとって、戦争の記憶は決して消し去ることのできないものとなった。

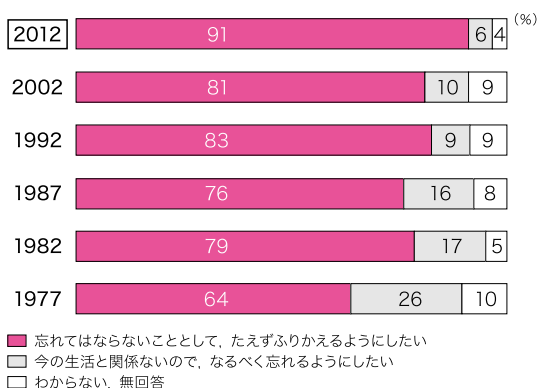
まず、その沖縄戦について、沖縄の人々がどのように思っているのかをみてみる。1977年から1992年にかけて、沖縄戦について、どのような戦闘だったと思うかを尋ねた。いずれの年の調査でも「県民に多大な犠牲をだした無謀な戦闘だった」が8割ほどを占めた。一方、「祖国防衛のためには、やむをえない戦闘だった」は1割ほどにとどまった(図152)。

図152 沖縄戦はどのような戦闘だったか (1977年～1992年)



1977年から2012年までの調査で、沖縄戦について、どう考えているかを尋ねた。「忘れてはならないこととして、たえずふりかえるようにしたい」が1982年以降、8割ほどを占め、2012年には9割を超えた。なお、1977年の調査で、「今の生活と関係ないので、なるべく忘れるようにしたい」が3割近くを占めたが、

図153 沖縄戦をどう思っているか (1977年～1992年)



当時はまだ、沖縄戦の記憶が生々しい人が多かったことや、物価高による生活が苦しい状態も続いてきたため、思い出したくないという人や今の生活に精いっぱい思い出す余裕もないという人が一定数にのぼったことが推察される(図153)。

## (2) 沖縄戦の継承

続いて、沖縄戦の歴史を伝えていくことについては、どう思っているのだろうか。1977年から1992年にかけての調査結果をみていく。

沖縄戦について、これからの若い世代に語り継ぎたいと思うかどうかを尋ねたところ、1977年の調査では、「すすんで話したい」が26%、「たずねられたら話す」が38%で、「たずねられたら話す」が最も多かったが、何らかの形で伝えたいと思っている人が6割を超えた。1982年からは、戦争を経験していない人が増えてきたことから、「沖縄戦のことは知らない」と答えた人が3割ほどを占めるようになったが、それらの人を除けば、「すすんで話したい」か、「たずねられたら話す」と答えており、その割合は、同じ質問で調査が行われた1992年まで変わらず、継続していた(図154)。

このように忘れてはならないこととして、沖縄の人々の胸に刻まれ、戦争を知らない若い世代にも語り継いでいきたいと思っていた沖縄戦の歴史についてであるが、復帰から50年となる2022年に、沖縄戦の歴史が継承されていると思うかどうかを尋ねた。「十分に継承されている」と「ある程度継承されている」を合わせた『継承されている』は44%、「あまり継承されていない」と「まったく継承されていない」を合わせた『継承されていない』は54%となった。当事者である沖縄でも、『継承されていない』と思う人が5割を超えることになったが、

図154 沖縄戦 若い世代に語り継ぎたいか (1977年～1992年)

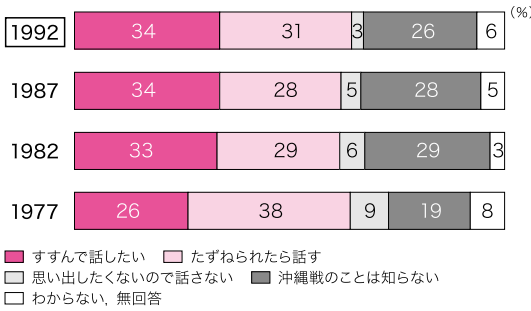
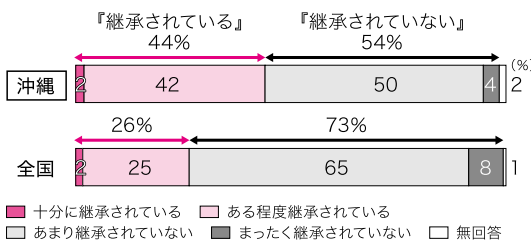


図155 沖縄戦の歴史は継承されているか (2022年)



全国では、『継承されている』が26%、『継承されていない』が73%で、沖縄よりもさらに『継承されていない』と思う人が多かった(図155)。

ここからは2022年の調査結果について詳しくみていく。戦争が終わってから77年が経ち、そもそも、沖縄戦の歴史にどれくらい関心を持っているのかを知るため、沖縄戦の歴史をどの程度知りたいと思うかを尋ねた。「とても知りたいと思う」と「ある程度知りたいと思う」を合わせた『知りたいと思う』が9割ほどを占めた。全国では、『知りたいと思う』は8割ほどとなったが、「とても知りたいと思う」をみると、全国では20%だったのに対し、沖縄では43%と大きく上回っていて、沖縄の人の方がより強く「知りたいと思っている」人が多いことがうかがえた(図156)。

『知りたい』と回答した人を年層別にみると、どの年代でも8割以上を占めた。全国でも7割

図156 沖縄戦の歴史を知りたいか (2022年)

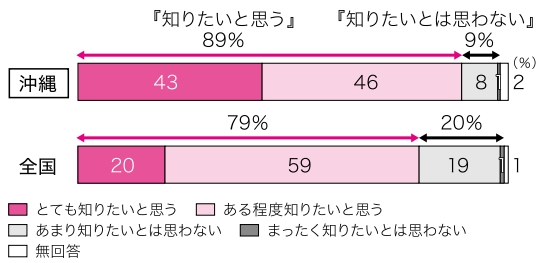
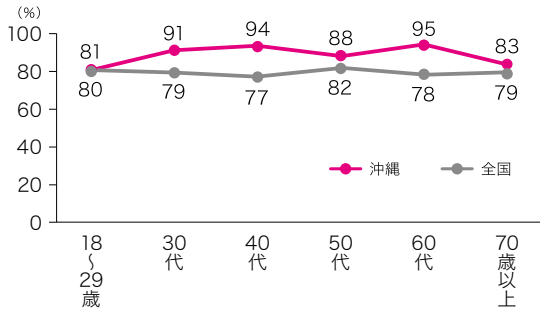


図157 沖縄戦の歴史を知りたいか (2022年：年層別)



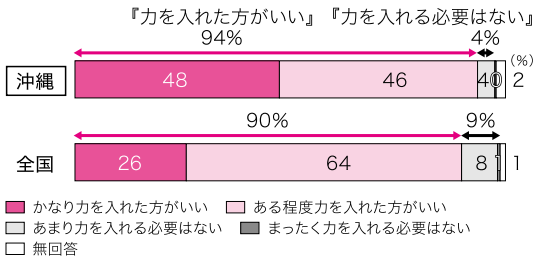
前後を占めているが、特に20代以下(18～29歳)の若年層では、沖縄、全国ともに8割を占め、若い人たちの関心も高いことがわかった(図157)。

このように、若い人たちも含め、幅広い年代で沖縄戦に高い関心を持っていることがわかったが、沖縄戦を継承していくことについては、どのように考えているのだろうか。

沖縄戦の歴史を継承していくことについて、どの程度、力を入れた方がいいと思うかを尋ねた。「かなり力を入れた方がいい」と「ある程度力を入れた方がいい」を合わせた『力を入れた方がいい』が94%と大半を占めた。全国でも、『力を入れた方がいい』と答えた人は90%にのぼったが、このうち、より強くそう思う「かなり力を入れた方がいい」をみると、全国が26%だったのに対し、沖縄は48%となっていて、沖縄の方が、沖縄戦の継承に力を入れ

た方がいいと強く思っている人が多かった(図158)。

図158 沖縄戦の継承に力を入れるべきか(2022年)



### (3) 沖縄戦の継承で力を入れるべきこと

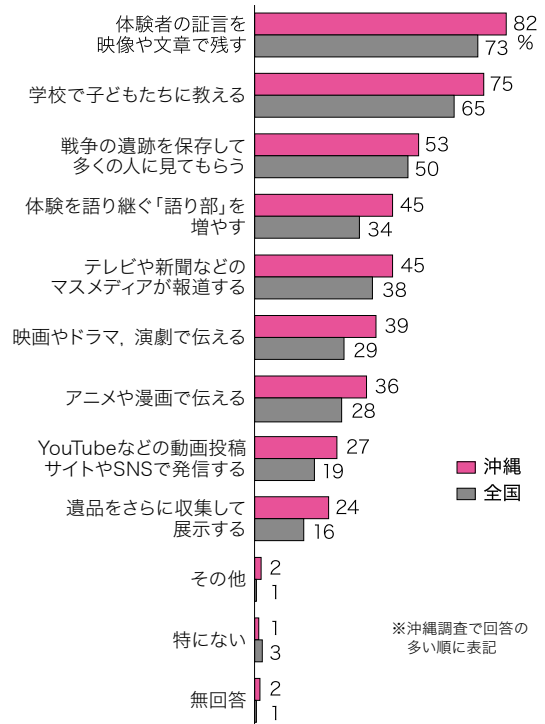
沖縄戦の歴史を継承していくことに力を入れるべきだと思っている人が、沖縄、全国ともに大半を占めたが、沖縄戦を後世に伝えていくために、特に力を入れた方がよいと思うことを尋ねた(複数回答:いくつでも可)(図159)。

最も多かったのは、「体験者の証言を映像や文章で残す」が82%、「学校で子どもたちに教える」が75%、「戦争の遺跡を保存して多くの人に見てもらおう」が53%などとなった。この上位3つについては、全国も同じような結果となった。沖縄、全国ともに、戦争体験者の証言や戦争の遺跡を残して多くの人に見てもらおうことや、学校で子どもたちに教えるべきだと考えている人が多かった。

また、戦後77年になり、戦争を経験していない人たちが社会の大勢を占めるようになる中で、「体験を語り継ぐ『語り部』を増やす」や「テレビや新聞などのマスメディアが報道する」、「映画やドラマ、演劇で伝える」や「アニメや漫画で伝える」も4割前後にのぼった。

今回の調査で、多くの人が、沖縄戦の歴史の継承に力を入れるのを望んでいることがわかった。沖縄戦について学ぶことは、戦争の

図159 沖縄戦の継承で力を入れるべきこと(2022年)【複数回答】



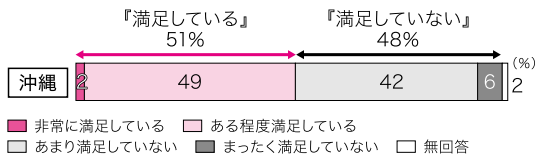
悲惨さや平和の尊さを知るだけでなく、アメリカ軍基地の負担を強いられている沖縄の人たちの気持ちを理解する上で欠かすことのできないものであり、戦争経験者が少なくなっていく中で、戦争の記憶をどう継承していくかは、今後、さらに重要な課題となっていこう。

## VII-5 沖縄の現状と今後

### (1) 沖縄の現状をどうみているか

最後に、沖縄の現状とこれからについてみていく。2022年の調査で、沖縄の現状に満足しているかどうかを尋ねた。『満足している(非常に+ある程度)』が51%、『満足していない(まったく+あまり)』が48%で、回答が分かれた(図160)。

図160 沖縄の現状に満足しているか (2022年)



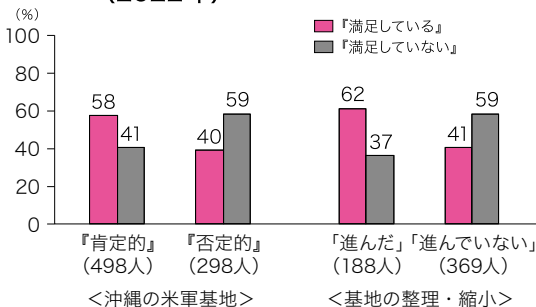
沖縄の現状に満足しているかどうかの回答に何が影響しているのかを詳しく分析するため、さまざまな質問との関連をみてみた。

このうち、「復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていることについて、どう思うか」という質問に対して、日本の安全にとって『必要ではない』と答えた人で、沖縄の現状に『満足していない』と答えた人が多くなった。反対に、アメリカ軍基地について『必要だ』と答えた人では、『満足している』人が多かった。

また、「沖縄にあるアメリカ軍基地の整理・縮小は、進んだと思うか」という質問に対して、『進んでいない』と答えた人で、『満足していない』が全体を大きく上回った。

このように、沖縄のアメリカ軍基地の現状に対して、否定的な考えを持つ人では、沖縄の現状についても『満足していない』人が多く、肯定的な考えを持つ人では、『満足している』と回答した人が多くなった (図161)。

図161 沖縄の現状に満足しているか (「沖縄の米軍基地をどう思うか」「沖縄の米軍基地の整理・縮小は進んだか」の回答別) (2022年)

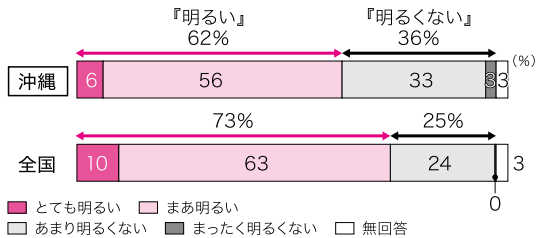


## (2) 沖縄の将来の見通し

一方、沖縄の将来については、どう考えているのだろうか。

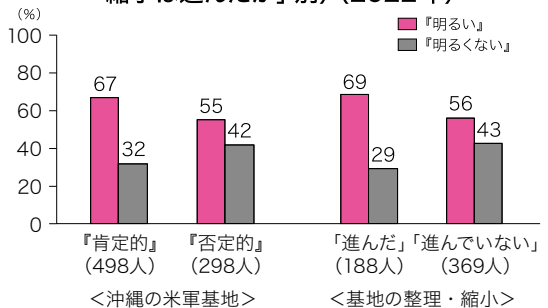
沖縄の将来に対して、どのような見通しを持っているかを尋ねたところ、全国では、『明るい (とても+まあ)』が7割を超えたが、沖縄では、『明るい』が6割にとどまり、全国を下回った (図162)。

図162 沖縄の将来の見通し (2022年)



この質問についても、アメリカ軍基地に対する意識の違いをみてみた。前述した沖縄の現状への満足度と同様に、沖縄のアメリカ軍基地に対して、肯定的な考えを持つ人では、沖縄の将来の見通しは『明るい』と答えた人が多く、否定的な考えを持つ人では、『明るい』と答えた人の割合が下がることになった (図163)。

図163 沖縄の将来の見通し (「沖縄の米軍基地をどう思うか」「沖縄の米軍基地の整理・縮小は進んだか」別) (2022年)



### (3) 沖縄の今後の課題

これからの沖縄にとって、重要な課題は何だと思ふかを尋ねた（複数回答:いくつでも可）(図164)。

「貧困や格差の解消」が77%で最も多く、次いで、「経済の自立・産業の振興」が68%、「子どもの学力向上」が64%、「アメリカ軍基地の整理・縮小」と「自然環境の保護」がそれぞれ61%、「医療・福祉の充実」が60%などとなった。

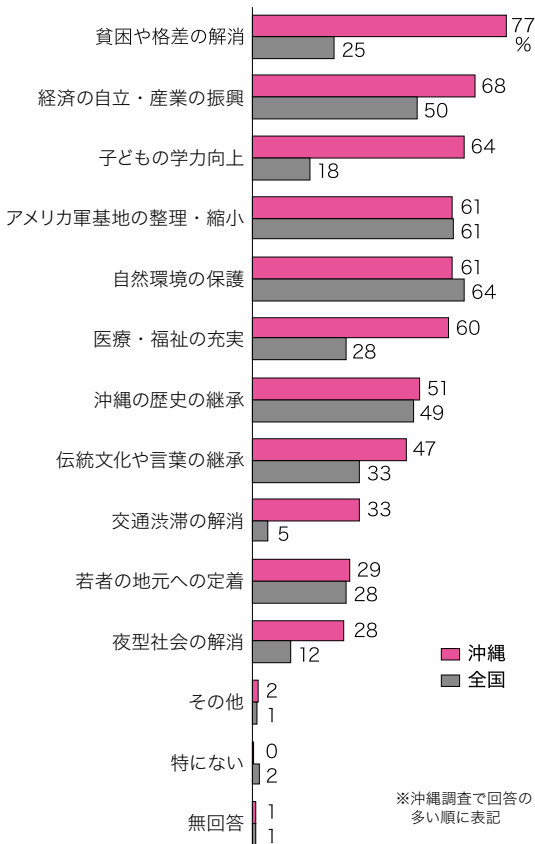
全国では、「自然環境の保護」が64%、「アメリカ軍基地の整理・縮小」が61%で並び、次いで、「経済の自立・産業の振興」が50%、「沖縄の歴史の継承」が49%などとなった。全国の人たちが課題として挙げた「自然環境の保

護」や「基地の整理・縮小」などは、沖縄の人たちも課題として挙げていたが、これに加えて、沖縄では、「貧困や格差の解消」「子どもの学力向上」「医療・福祉の充実」についても課題として挙げた人が多く、全国との違いがみられた。

このうち、沖縄で最も多かった「貧困や格差の解消」については、沖縄県が行った調査でも同様の結果が出ている。沖縄県は、平成27年度に実施した「沖縄子ども調査」の結果から、県内では、およそ30%の子どもが貧困であると推計されると発表した<sup>33)</sup>。これは、全国平均の16.3%の2倍近くになるもので、全国の中でも最も高い水準にあるとみられている。これを受けて、沖縄県は、平成30年度の「県民意識調査」で、県が重点的に取り組むべき施策の質問の選択肢に、「子どもの貧困対策の推進」を加えて調査を行った結果<sup>34)</sup>、42%で最も多くなった。

沖縄では、全国に比べて産業基盤が弱いことから、長らく全国との所得格差が指摘されてきた。1人あたりの県民所得や最低賃金が全国で最低水準にあることが原因の1つと言われている<sup>35)</sup>が、これに加えて、沖縄では、ひとり親が多いこと、そのひとり親の収入が不安定なことがある。一方で、これまで所得が低くても、地縁や血縁に基づく人間関係の中で支えられてきた面があったが、核家族化が進み、人間関係が希薄になるにつれ、助け合いの輪から外れる人が多くなってしまったこともその要因となっている。さらに本土と離れた離島であるがゆえの生活コストの高さなどもあって、貧困に陥る子どもたちが多いと指摘されている<sup>36)</sup>。低い所得で生活している人が多いことや、家族や地域の結びつきが弱まってしまった現在の日本においては、貧困の問題は、沖縄だけでは

図164 沖縄の重要な課題 (2022年)【複数回答】





く、全国でも指摘されており、貧困の問題にどう向き合っていくかは、全国にとっても決して他人ごとではない重要な課題だと言えよう。

#### (4) 沖縄の誇りと魅力

これからの沖縄を考えるために、沖縄の人たちには「沖縄の誇り」を、全国の人たちには「沖縄の魅力」を尋ねた。

「沖縄の誇り」については、「豊かな自然」が71%で最も多く、次いで、「沖縄の音楽や芸能」が66%、「家族や親戚を大切にしていること」が61%、「沖縄の食文化」が60%で、多くの人が回答として選んだ(図165)。

一方、全国の人には「沖縄の魅力」を尋ねた結果、「豊かな自然」が83%で最も多く、次いで「観光リゾート地」が65%、「沖縄の音楽や

芸能」が45%、「沖縄の食文化」が36%などとなった(図166)。

「豊かな自然」が沖縄の誇りであり、魅力でもあることは、多くの人が認めるところであるが、「観光リゾート地」は、全国では、多くの人が魅力に感じているが、沖縄では、全国の人たちほど誇りに思っていないことがわかった。これに対し、「沖縄の音楽や芸能」や「沖縄の食文化」は、全国の人たちが魅力に感じている以上に、沖縄では、多くの人が誇りに思っていること、さらに「家族や親戚を大切にしていること」や「助け合いの気持ちが強いこと」といった家族の絆や人間関係を大事にしていることについても、沖縄の人たちが誇りに思っていることがわかった。

沖縄の人々の思う誇りは、沖縄が持つ強みで

図165 沖縄の誇り(沖縄)(2022年)  
【複数回答】

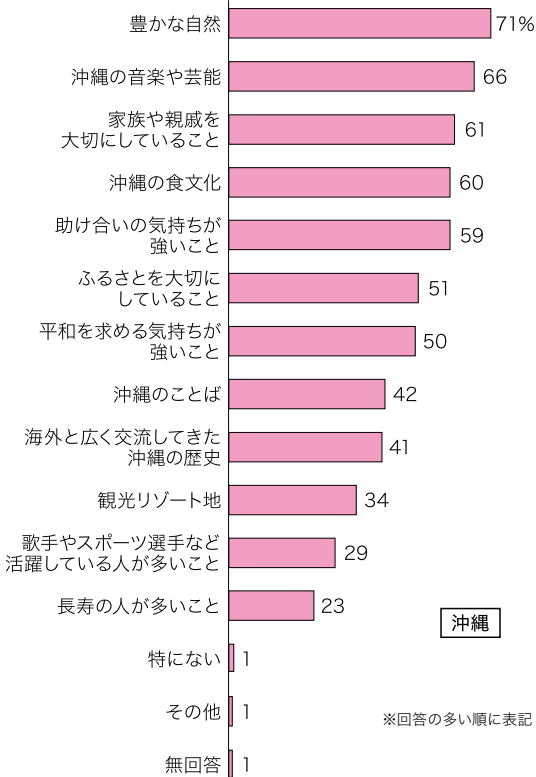
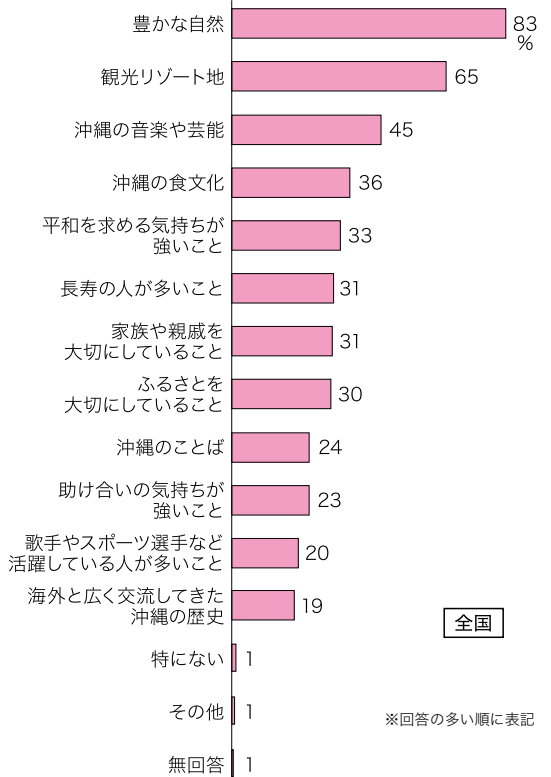


図166 沖縄の魅力(全国)(2022年)  
【複数回答】



あり、今後の沖縄のあり方、発展を考えていく上でも、こうした沖縄の特徴を生かしていくことが引き続き求められることになるだろう。

## おわりに

本土復帰からの50年をNHKが行った世論調査をもとに振り返ってきた。本土復帰前の1970年には、85%にのぼる人が歓迎した本土復帰だったが、実際に復帰したあとは、本土復帰を評価しない人が多くなった。それは復帰前から続いていた物価高によって苦しい生活が続いたこと、さらに、本土復帰によって撤去や縮小されることを期待していたアメリカ軍基地がほとんどそのまま残ることになったことなど、自分たちが思い描いた姿とは違う本土復帰になってしまったことへの人々の思いが表れたものだった。

その後、沖縄の経済発展を目指した振興策が継続的に行われたことなどもあって、1970年代後半から徐々に生活が改善していくことになるが、人々の意識にはっきりと表れるようになったのは1980年代に入ってからだった。さらに1980年代の観光ブームとそれに続くバブル経済を経て、1992年の調査で、暮らし向きや本土復帰に対する評価は大きく改善することとなった。

一方、沖縄で大きな存在を占めていたアメリカ軍基地に対しては、本土復帰前から基地がなくなってほしいと思っていた人々の願いは叶わず、復帰後、長年にわたって、基地に対して否定的な意見が多数を占めることとなった。地域での活動を積極的に展開した自衛隊とは異なり、アメリカ軍基地に対する意見が変わっていくには時間が必要だった。基地の存在が既成事実化していったことに加え、同時多発テロ

や、中国や北朝鮮の脅威など、日本を取り巻く安全保障環境の変化にともない、沖縄のアメリカ軍基地を「やむを得ない」と容認する人が増えるようになった。このように基地の存在を受け入れる人が多くなる一方で、沖縄に在日アメリカ軍基地の7割が集中していることを大半の人がおかしいと思い、本土並みに少なくなっしてほしいと思う人も多数を占めた。沖縄の人々の思いは、沖縄から基地がなくなってほしいことであるが、完全になくせないのであれば、せめて本土と同じように、身近なところに基地がない状態にまで減らしてほしい。そう願っている人が多いのである。

沖縄の人々の思いは、50年前の1972年の沖縄復帰記念式典で、屋良朝苗知事が語った言葉にも表れている。「沖縄県民のこれまでの要望と心情に照らして復帰の内容をみますと、必ずしも私どもの切なる願望が入れられたとはいえないことも事実であります。そこには、米軍基地の態様の問題をはじめ、内蔵するいろいろな問題があり、これらを持ち込んで復帰したわけであります。したがって、私どもにとって、これからもなお厳しさは続き、新しい困難に直面するかもしれません」。屋良知事は、当時の沖縄の人々の思いを代弁するとともに、その後の沖縄が歩む困難な道を予測したとも言えるものであった。

本土復帰から50年が経ち、経済的にも豊かになった沖縄。観光リゾート地として、全国や海外からも大勢の人が訪れるようになったが、そうしたイメージとは裏腹に、今後取り組むべき重要な課題として多くの人が挙げたのが「貧困や格差の解消」だった。全国に比べて所得が低いこともあるが、ひとり親を中心に、これまで支え合ってきた人間関係が希薄になっていく中で、生活を続けていくこと自体が厳しい

状況に陥る人たちが増え、親とともに、子どもの貧困対策が新たな課題として浮かび上がっている。

さらに、先の大戦で、多くの犠牲者を出した沖縄の人々が何より願っていたのは、基地のない平和な島に戻ることであったが、本土復帰から50年経った今も、アメリカ軍基地は残り続け、日本を取り巻く安全保障環境の変化によって、基地問題の出口は未だ見いだせず、50年前と変わらない課題が今も沖縄の人々に重くのしかかっている。

ふるさと沖縄を愛し、その沖縄を誇りに思う人々の姿は、NHKが継続的に行ってきた調査からも確認することができた。独自の文化を持ち、独自の価値観を築いてきた沖縄ではあるが、歴史に翻弄されてきたことも事実である。復帰から50年経ち、次の50年を考えると、沖縄に明るい未来が訪れることを願ってやまない。

本稿は、NHKが行った世論調査をもとに、沖縄の本土復帰からの50年間をふりかえってきたが、沖縄がどのような道を歩んできたのか、そして、沖縄の人々は、どのような思いを持ってきたのかを知る上で、参考となる情報を提供できたのではないかと思っている。たくさん魅力を持ち、多くの人があこがれる沖縄。その沖縄の過去を知り、現在を見つめることは、これからの沖縄を考える上でも欠かすことのできないものであると考えている。本稿を、沖縄、全国を問わず、多くの人に手にしていただき、ともに沖縄を考える機会に役立てていただければ幸いである。

(なかがわ かずあき)

注：

- 1) 本調査は、NHK放送文化研究所が中心となって実施してきたものであるが、過去の調査も含めて、沖縄放送局など各部署の協力を得て実施しているものであり、以下、調査の実施者はNHKと表記する。
- 2) 2022年「復帰50年の沖縄に関する意識調査」(『放送研究と調査』(2022年8月号)「沖縄の人たちは、本土復帰をどう評価し、今の沖縄をどうみているのか」中川和明、中山準之助)
- 3) 沖縄県基地対策課「沖縄の米軍基地」  
<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/chijiko/kichitai/2018okinawanobeigunkichi.html>
- 4) 選択肢を囲う『』は複数の選択肢を合算している場合、「」は単独の場合を示している。なお、『』の%は選択肢を単純に足し合わせたものではなく、各選択肢の実数を足し合わせて再計算したものである。
- 5) 本稿で結果(%)を比較して「上回った」「増えて」「減って」「多い」「少ない」などと表現しているのは、信頼度95%の検定の結果、有意差が認められたものである。数字を比べて差があるようにみえても有意差がない場合がある。
- 6) 1970年「国政参加選挙調査」(『文研月報』(1971年4月号)「沖縄の住民意識」松本英治)
- 7) ここでの「本土」は、日本という意味で使用。
- 8) 「占領下沖縄の社会と経済」(2005年10月「専修大学商学論集」中野育男)
- 9) 那覇市消費者物価指数(1970年歴年報)(沖縄県公文書館所蔵)
- 10) 沖縄県公文書館「日本復帰への道」  
[https://www.archives.pref.okinawa.jp/event\\_information/past\\_exhibitions/934](https://www.archives.pref.okinawa.jp/event_information/past_exhibitions/934)
- 11) 3)に同じ。
- 12) 1972年「沖縄住民意識調査」(『文研月報』(1972年8月号)「沖縄の本土復帰と住民意識」堤轍郎)
- 13) 那覇市消費者物価指数(1971年歴年報)(沖縄県公文書館所蔵)
- 14) 10)に同じ。
- 15) 1973年「沖縄住民意識調査」
- 16) ここでの「本土」は、沖縄県以外の都道府県という意味で使用
- 17) 1975年「沖縄住民意識調査」(『文研月報』(1975年10月号)「沖縄県民の生活と意識」謝名元慶福、泉洋二郎)  
「『慰安婦問題』『住民虐殺』に対する県の見解」(沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課)  
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/heiwadanjo/heiwa/dai32-4.html>
- 18) 1975年「沖縄住民意識調査」(『文研月報』(1975年10月号)「沖縄県民の生活と意識」謝名元慶福、泉洋二郎)
- 19) 「沖縄の施政権返還に伴う沖縄への自衛隊配備をめぐる動き」(『防衛研究所紀要』第20巻第1号(2017年12月)小山高司)
- 20) 1982年「本土復帰10年の沖縄」調査(『放送文化』(1982年6月号)「沖縄の心はどう変わったか?」謝名元慶福)
- 21) 沖縄県「県民経済計算」、内閣府「国民経済計算」
- 22) 沖縄県「労働力調査」、総務省「労働力調査」
- 23) 1987年「本土復帰15年の沖縄」調査(『文研月報』(1987年6月号)「本土復帰15年の沖縄」謝名元慶福)
- 24) 1992年「本土復帰20年の沖縄」調査(『文研月報』(1992年6月号)謝名元慶福)
- 25) 「沖縄県における赤土汚染の現状」(『沖縄県公害衛生研究所報』第26号(1992)大見謝辰男)
- 26) 琉球新報、沖縄タイムス朝刊(1995年10月22日)
- 27) 2002年「復帰30年の沖縄」調査(『放送研究と調査』(2002年7月号)「復帰30年 変わる意識・変わらぬ意識」河野啓)
- 28) 沖縄県観光政策課「観光要覧」(令和4年版)
- 29) 沖縄県「県民経済計算」、内閣府「国民経済計算」
- 30) 沖縄県「労働力調査」、総務省「労働力調査」
- 31) 2012年「復帰40年の沖縄県民調査」「全国意識調査」(『放送研究と調査』(2012年7月号)河野啓、小林利行)
- 32) 2)に同じ。
- 33) 平成28年3月25日「沖縄子ども調査」沖縄県企画部  
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kodomo/kodomomirai/kodomotyosa/kekagaiyo.html>
- 34) 平成31年3月「第10回県民意識調査報告書」沖縄県企画部  
<https://www.pref.okinawa.jp/site/kikaku/chosei/seido/h30chousa.html>
- 35) 令和4年3月18日「沖縄県家計調査結果の概況」沖縄県企画部統計課  
[https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/fiaes/fiaes\\_index.html](https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/fiaes/fiaes_index.html)

- 36) 「沖縄県子どもの貧困対策計画（第2期）」  
「沖縄県子どもの貧困対策に関する政策評価」  
「沖縄県子どもの貧困実態調査」  
(沖縄県子ども生活福祉部 子ども未来政策課)  
<https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/kodomo/kodomomirai/index.html>  
「沖縄の子供の貧困対策に向けた取組」等関連諸資料 (内閣府)  
<https://www8.cao.go.jp/okinawa/3/kodomo-hinkon/okinawakodomo.html>

**参考文献：**

- 『沖縄現代史—米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』(中公新書、櫻澤誠、2015年)  
『沖縄現代史』(岩波新書、新崎盛暉、2005年)  
『沖縄問題—リアリズムの視点から』(中公新書、高良倉吉、2017年)  
『復帰50年 沖縄子ども白書2022』(かがわ出版、編集委員:上間陽子、川武啓介、北上田源、島村聡、二宮千賀子、山野良一、横江崇、2022年)  
『「沖縄の非婚シングルマザー」像を問い直す —生活史インタビュー調査から—』  
(立命館大学大学院 平安名萌恵) 『フォーラム現代社会学 vol.19 2020』  
[http://altmetrics.ceek.jp/article/www.jstage.jst.go.jp/article/ksr/19/0/19\\_19/\\_article/-char/ja/](http://altmetrics.ceek.jp/article/www.jstage.jst.go.jp/article/ksr/19/0/19_19/_article/-char/ja/)

# 調査の質問と回答

## (単純集計結果)

※各調査の質問と回答は、それぞれの調査におけるすべての質問ではなく、本稿で紹介した質問を抜粋して掲載しています。  
※質問文と選択肢は原文のまま掲載しています。

### 「沖縄国政参加選挙調査」

#### 単純集計結果

##### 【調査の概要】

1. 調査期間  
1970年11月5日(木)～11月8日(日)
2. 調査方法  
個人面接法
3. 調査対象  
沖縄県の有権者
4. 調査相手  
沖縄県 1,200人(10人×120地点)
5. 有効数(率)  
768人(64.0%)

#### ー復帰後の暮らしへの不安ー

第2問 あなたは、本土復帰後の暮らしに、不安を感じますか。

1. 大いに不安だ…………… 17.2%
2. 少し不安だ…………… 41.3
3. あまり不安はない…………… 22.5
4. まったく不安はない…………… 10.2
5. わからない、無回答…………… 8.9

#### ー不安を感じる点は何かー

【第2問で「1」「2」の人に】

第3問 それでは、どういう点がいちばん不安ですか。

1. 職業…………… 20.0%
2. 収入…………… 23.2
3. 物価…………… 43.2
4. 公害…………… 5.1
5. 住宅…………… 1.5
6. 教育…………… 3.6
7. その他、無回答…………… 3.3

(該当者=449人)

#### ー復帰によって沖縄経済は苦しくなると思うかー

第4問 「沖縄の本土復帰が実現すると、アメリカ関係の収入が減って、沖縄経済は苦しくなる」という意見がありますが、この意見について、あなたはどう思いますか。

1. そのとおりだと思う…………… 54.6%
2. そうは思わない…………… 28.9
3. わからない、無回答…………… 16.5

#### ー本土復帰を歓迎するかー

第6問 あなたは、沖縄が72年に本土へ復帰することを、どうお考えになりますか。

1. 歓迎する…………… 53.6%
2. まあ歓迎する…………… 30.9
3. 歓迎しない…………… 7.0
4. わからない、無回答…………… 8.5

#### ー復帰後の米軍基地をどうしたらよいかー

第8問 あなたは、復帰後の沖縄のアメリカ軍基地をどうしたらよいと思いますか。

1. 即時全面撤去する…………… 19.1%
2. 段階的に縮小し、将来は全面撤去する…………… 31.8
3. 本土なみに縮小する…………… 23.6
4. 今までどおりでよい…………… 11.6
5. もっと強化すべきだ…………… 1.8
6. わからない、無回答…………… 12.1

## 「沖縄住民意識調査」 単純集計結果

### 【調査の概要】

1.	調査期間	1972年5月2日(火)～5月4日(木)
2.	調査方法	個人面接法
3.	調査対象	沖縄県の有権者
4.	調査相手	沖縄県1,000人(10人×100地点)
5.	有効数(率)	657人(65.7%)

### －暮らし向き－

第1問 あなたの暮らし向きは、1年前と比べて、楽になったでしょうか。それとも苦しくなったでしょうか。リスト1の中からおっしゃってください。

- |    |           |       |
|----|-----------|-------|
| 1. | 楽になった     | 15.4% |
| 2. | 少し楽になった   | 17.8  |
| 3. | 変わらない     | 35.5  |
| 4. | 少し苦しくなった  | 15.7  |
| 5. | 苦しくなった    | 14.0  |
| 6. | わからない、無回答 | 1.7   |

### －復帰に対する感情－

第2問 今月15日に、沖縄は本土に復帰しますが、復帰にあたって、あなたはどんなお気持ちですか。リスト2の中から、あなたのお気持ちに近いものをおっしゃってください。

- |    |           |       |
|----|-----------|-------|
| 1. | 非常にうれしい   | 14.5% |
| 2. | まあよかったと思う | 36.5  |
| 3. | あまり喜べない   | 31.7  |
| 4. | まったく不満である | 9.7   |
| 5. | わからない、無回答 | 7.6   |

### －円切り替えへの不満－

第5問 復帰と同時に、ドルは、決められたレートで円と交換されますが、あなたはこれについてどう思いますか。リスト5の中からおっしゃってください。

- |    |           |       |
|----|-----------|-------|
| 1. | 不満だ       | 48.4% |
| 2. | やむをえない    | 34.6  |
| 3. | 当然だ       | 13.7  |
| 4. | わからない、無回答 | 3.3   |

### －今後の暮らし向き－

第8問 あなたの暮らし向きは、今後どうなると思いますか。リスト8の中からおっしゃってください。

- |    |            |      |
|----|------------|------|
| 1. | 楽になるだろう    | 5.0% |
| 2. | 少し楽になるだろう  | 6.7  |
| 3. | 変わらないだろう   | 14.6 |
| 4. | 少し苦しくなるだろう | 39.0 |
| 5. | 苦しくなるだろう   | 20.7 |
| 6. | わからない、無回答  | 14.0 |

### －暮らし向き「苦しくなる」理由－

【第8問で「4」「5」の人に】

第9問 暮らし向きが苦しくなると思われるのはどうしてですか。

リスト9の中から、おもなものを1つだけおっしゃってください。

- |    |                        |       |
|----|------------------------|-------|
| 1. | 物価が高くなるから              | 68.1% |
| 2. | 給料が安くなるから              | 3.3   |
| 3. | 税金が高くなるから              | 4.6   |
| 4. | 地元の産業がふるわなくなるから        | 2.6   |
| 5. | アメリカ軍関係の収入が少なくなるから     | 6.6   |
| 6. | 沖縄が不景気になり、失業するおそれがあるから | 11.2  |
| 7. | その他                    | 1.3   |
| 8. | わからない、無回答              | 2.3   |

(該当者=392人)

### －米軍基地の必要性－

第10問 復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残りますが、あなたは、アメリカ軍基地があることをどのように思いますか。リスト10の中からおっしゃってください。

- |    |                    |      |
|----|--------------------|------|
| 1. | 日本の安全にとって必要である     | 7.2% |
| 2. | 日本の安全のためにはやむをえない   | 18.7 |
| 3. | 日本の安全に必要なではない      | 19.5 |
| 4. | 日本の安全にとってかえって危険である | 36.4 |
| 5. | わからない、無回答          | 18.3 |

### －米軍基地のあり方－

第11問 復帰後、沖縄のアメリカ軍基地をどのようにしたらよいと思いますか。リスト11の中からおっしゃってください。

- |    |                   |       |
|----|-------------------|-------|
| 1. | できるだけ早く全面撤去する     | 35.6% |
| 2. | 段階的に縮小し、将来は全面撤去する | 26.8  |
| 3. | 本土並みに縮小する         | 18.7  |
| 4. | 現状のままでよい          | 7.8   |
| 5. | むしろ強化する           | 0.8   |
| 6. | わからない、無回答         | 10.4  |

### －自衛隊配備の是非－

第13問 自衛隊が沖縄に配備されることについて、あなたは賛成ですか。それとも、反対ですか。リスト13の中からおっしゃってください。

- |    |             |       |
|----|-------------|-------|
| 1. | 賛成          | 12.8% |
| 2. | どちらかといえば、賛成 | 15.2  |
| 3. | どちらかといえば、反対 | 19.6  |
| 4. | 反対          | 40.5  |
| 5. | わからない、無回答   | 11.9  |

### －自衛隊配備「反対」の理由－

【第13問で「3」「4」の人に】

第15問 あなたが自衛隊の配備に反対するのはどうしてですか。リスト15の中から、あなたの考えに最も近いものをおっしゃってください。

- |    |                                  |       |
|----|----------------------------------|-------|
| 1. | 前の戦争のにがい経験があるから                  | 41.5% |
| 2. | 沖縄県民を力で押えつけるおそれがあるから             | 10.6  |
| 3. | 自衛隊の存在そのものに疑問を感じるから              | 25.3  |
| 4. | アメリカ軍の肩代わりをするだけで、<br>基地はなくならないから | 12.2  |
| 5. | アメリカ軍といっしょになって、<br>近隣の国に脅威を与えるから | 5.8   |
| 6. | その他                              | 2.5   |
| 7. | わからない、無回答                        | 2.0   |

(該当者=395人)

### —政府への要望—

第17問 あなたは、さしあたり、本土の政府にどんなことを望みますか。リスト17の中から、特に望むことを1つだけおっしゃってください。

1. 物価を安定させること …………… 40.3%
2. 失業の心配をなくすこと …………… 9.1
3. 社会保障を充実させること …………… 14.2
4. 生活環境を整備すること …………… 5.8
5. 道路・港を整備すること …………… 2.0
6. 地元の産業を振興すること …………… 6.5
7. 本土の企業を誘致すること …………… 0.9
8. 教育施設を充実させること …………… 7.0
9. 基地の整理・縮小・撤去に努力すること …………… 5.2
10. その他…………… 1.1
11. 特に望むことはない …………… 2.0
12. わからない、無回答 …………… 5.9

## 「沖縄住民意識調査」

### 単純集計結果

#### 【調査の概要】

1. 調査期間  
1973年4月14日(土)～4月16日(月)
2. 調査方法  
個人面接法
3. 調査対象  
沖縄県の有権者
4. 調査相手  
沖縄県1,000人(10人×100地点)
5. 有効数(率)  
677人(67.7%)

### —本土復帰の評価—

第1問 沖縄が本土に復帰して、間もなく1年になりますが、この1年をふりかえったとき、あなたのお気持ちに近いものをリスト1の中から選んでください。

1. 非常によかった …………… 7.1%
2. まあよかった …………… 30.5
3. あまりよくなかった …………… 37.1
4. 非常に不満である …………… 15.4
5. わからない、無回答 …………… 9.9

### —暮らし向き—

第2問 あなたの暮らし向きは、1年前と比べて、楽になったでしょうか。それとも苦しくなったでしょうか。リスト2の中からいってください。

1. 楽になった …………… 5.2%
2. 少し楽になった …………… 9.6
3. 変わらない …………… 30.6
4. 少し苦しくなった …………… 31.0
5. 苦しくなった …………… 19.4
6. わからない、無回答 …………… 4.3

### —米軍基地の必要性—

第3問 復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていますが、あなたは、これについてどのように思いますか。リスト3の中から選んでください。

1. 日本の安全にとって必要である …………… 4.6%
2. 日本の安全のためにはやむをえない …………… 18.9
3. 日本の安全に必要ではない …………… 27.9
4. 日本の安全にとってかえって危険である …………… 31.2
5. わからない、無回答 …………… 17.4

### —自衛隊配備の是非—

第4問 復帰後、自衛隊が沖縄に配備されましたが、あなたは賛成ですか。それとも反対ですか。リスト4の中から選んでください。

1. 賛成 …………… 10.2%
2. どちらかといえば、賛成 …………… 12.7
3. どちらかといえば、反対 …………… 19.9
4. 反対 …………… 40.2
5. わからない、無回答 …………… 17.0



—本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか—

第7問 現在、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思いますか。リスト7の中からいってください。

- 1. 十分理解している ……………3.4%
- 2. まあ理解している …………… 17.9
- 3. あまり理解していない …………… 48.6
- 4. まったく理解していない …………… 10.6
- 5. わからない、無回答 …………… 19.5

—今後の暮らし向き—

第22問 あなたの暮らし向きは、今後どうなると思いますか。リスト21の中からあなたのお感じに近いものをいってください。

- 1. 楽になるだろう …………… 10.8%
- 2. 少し楽になるだろう …………… 23.5
- 3. 変わらないだろう …………… 19.8
- 4. 少し苦しくなるだろう …………… 22.7
- 5. 苦しくなるだろう ……………9.9
- 6. わからない、無回答 …………… 13.3

「沖縄住民意識調査」

単純集計結果

【調査の概要】

- 1. 調査期間  
1975年4月19日(土)～4月20日(日)
- 2. 調査方法  
個人面接法
- 3. 調査対象  
沖縄県の有権者
- 4. 調査相手  
沖縄県 900人(10人×90地点)
- 5. 有効数(率)  
552人(61.3%)

—暮らし向き—

第1問 あなたの暮らし向きは、1年前と比べて、楽になったでしょうか。それとも苦しくなったでしょうか。リスト1の中からお答えください。

- 1. 楽になった ……………9.4%
- 2. 少し楽になった …………… 10.1
- 3. 変わらない …………… 34.8
- 4. 少し苦しくなった …………… 22.6
- 5. 苦しくなった …………… 21.9
- 6. わからない、無回答 …………… 1.1

—今後の暮らし向き—

第7問 あなたの暮らし向きは、今後どうなると思いますか。リスト5の中からあなたのお感じに近いものをいってください。

- 1. 楽になるだろう ……………3.8%
- 2. 少し楽になるだろう …………… 19.6
- 3. 変わらないだろう …………… 26.1
- 4. 少し苦しくなるだろう …………… 23.0
- 5. 苦しくなるだろう …………… 19.7
- 6. わからない、無回答 ……………7.8

—米軍基地の必要性—

第27問 復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていますが、あなたは、これについてどのように思いますか。リスト23の中からお答えください。

- 1. 日本の安全にとって必要である ……………6.0%
- 2. 日本の安全のためにやむをえない …………… 19.7
- 3. 日本の安全に必要でない …………… 25.2
- 4. 日本の安全にとってかえって危険である …………… 34.4
- 5. わからない、無回答 …………… 14.7

—沖縄への自衛隊の配備—

第28問 復帰後、自衛隊が沖縄に配備されていますが、あなたは、これについてどのように思いますか。リスト23の中からお答えください。

- 1. 日本の安全にとって必要である ..... 21.4%
- 2. 日本の安全のためにやむをえない ..... 26.3
- 3. 日本の安全に必要でない ..... 24.8
- 4. 日本の安全にとってかえって危険である ..... 10.9
- 5. わからない、無回答 ..... 16.7

—国・県に力を入れてほしいこと—

第30問 あなたは、国や県に対して今まずどんなことに力を入れてほしいと思いますか。リスト25の中から主なものを3つまでお答えください。

- 1. 農業対策 ..... 33.7%
- 2. 工業振興策 ..... 8.5
- 3. 観光対策 ..... 7.6
- 4. 教育対策 ..... 29.5
- 5. 医療制度・施設の充実 ..... 36.2
- 6. 土地買い占め・値上がりを防ぐ対策 ..... 18.7
- 7. 公害防止・自然保護 ..... 20.7
- 8. 道路・交通の整備 ..... 17.0
- 9. 物価対策 ..... 59.1
- 10. 失業対策 ..... 16.5
- 11. 治安の維持 ..... 8.0
- 12. 米軍基地の撤去 ..... 12.9
- 13. その他 ..... 0.7
- 14. わからない、無回答 ..... 5.4

—本土復帰の評価—

第33問 沖縄が本土に復帰して、間もなく3年になりますが、この3年をふりかえったとき、あなたのお気持ちに近いものをリスト28の中からお答えください。

- 1. 非常によかった ..... 7.1%
- 2. まあよかった ..... 36.2
- 3. あまりよくなかった ..... 37.3
- 4. 非常に不満である ..... 13.4
- 5. わからない、無回答 ..... 6.0

—本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか—

第34問 現在本土の人は、沖縄の人の気持ちを理解していると思いますか。リスト29の中からお答えください。

- 1. じゅうぶん理解している ..... 1.4%
- 2. まあ理解している ..... 22.6
- 3. あまり理解していない ..... 51.6
- 4. まったく理解していない ..... 9.1
- 5. わからない、無回答 ..... 15.2

「沖縄県知事選挙」調査  
単純集計結果

【調査の概要】

- 1. 調査期間  
1976年6月10日(木)～6月11日(金)
- 2. 調査方法  
個人面接法
- 3. 調査対象  
沖縄県の有権者
- 4. 調査相手  
沖縄県 900人(10人×90地点)
- 5. 有効数(率)  
607人(67.4%)

—海洋博 よかったと思うこと—

第14問 つぎに海洋博についてうかがいます。海洋博で、まずよかったと思うことをリストの中からいくつでもおっしゃってください。

- 1. 沖縄館は沖縄の歴史と文化を正しく紹介し、  
県民に誇りをもたせた ..... 32.9%
- 2. 沖縄を世界の人に知らせ、  
国際親善に役立った ..... 31.8
- 3. アクアポリスなど世界の進んだ  
海洋科学の成果をみる事ができた ..... 27.2
- 4. 本土の人と沖縄の人が相互に理解し合う  
よい機会になった ..... 19.3
- 5. 道路や港湾、空港などが整備され、  
生活環境がよくなった ..... 48.8
- 6. 海洋博関連工事や見学者で  
沖縄の経済がうるおった ..... 5.4
- 7. よかったと思うことはない ..... 15.8
- 8. その他 ..... 0.8
- 9. わからない、無回答 ..... 10.2

—海洋博 よくなかったと思うこと—

第15問 それでは海洋博でよくなかったと思うことをリストの中からいくつでもおっしゃってください。

- 1. 沖縄館は期待したほど沖縄の歴史と文化を  
紹介していなかった ..... 7.6%
- 2. 期待したほど国際親善に役立たなかった ..... 21.9
- 3. 海洋科学の成果に公害に対する  
じゅうぶんな対策がみられなかった ..... 8.9
- 4. 本土の人と沖縄の人の相互理解には  
あまり役立たなかった ..... 13.2
- 5. 海洋博関連工事で自然や景観が破壊され、  
生活環境が悪くなった ..... 27.7
- 6. 見学者が少なく、物価だけがあがって  
倒産がふえるなど沖縄の経済を混乱させた ..... 65.6
- 7. よくなかったと思うことはない ..... 7.2
- 8. その他 ..... 0.7
- 9. わからない、無回答 ..... 14.3

—海洋博の評価—

第16問 では全体としてみると、海洋博は沖縄にとってよかったですか。それともよくなかったと思いますか。リストの中からおっしゃってください。

- 1. よかったと思う ..... 20.6%
- 2. まあよかったと思う ..... 31.3
- 3. あまりよくなかったと思う ..... 28.2
- 4. よくなかったと思う ..... 12.7
- 5. わからない、無回答 ..... 7.2

「沖縄住民意識調査」

単純集計結果

【調査の概要】

- 1. 調査期間  
1977年3月12日(土)～3月13日(日)
- 2. 調査方法  
個人面接法
- 3. 調査対象  
沖縄県の有権者
- 4. 調査相手  
沖縄県 750人(10人×75地点)
- 5. 有効数(率)  
537人(71.6%)

—暮らし向き—

第1問 あなたの暮らし向きは、1年前と比べて、楽になったでしょうか。それとも苦しくなったでしょうか。リストの中からお答えください。

- 1. 楽になった ..... 7.1%
- 2. 少し楽になった ..... 10.2
- 3. 変わらない ..... 39.5
- 4. 少し苦しくなった ..... 23.5
- 5. 苦しくなった ..... 18.8
- 6. わからない、無回答 ..... 0.9

—今後の暮らし向き—

第6問 あなたの暮らし向きは、今後どうなると思いますか。リストの中からあなたのお感じに近いものをいってください。

- 1. 楽になるだろう ..... 4.3%
- 2. 少し楽になるだろう ..... 17.9
- 3. 変わらないだろう ..... 30.5
- 4. 少し苦しくなるだろう ..... 28.3
- 5. 苦しくなるだろう ..... 12.8
- 6. わからない、無回答 ..... 6.1

—本土復帰の評価—

第9問 沖縄が本土に復帰して、間もなく5年になります。この5年間をふりかえったとき、本土復帰についてあなたのお気持ちに近いものをリストの中からお答えください。

- 1. 非常に良かった ..... 6.7%
- 2. まあよかった ..... 33.5
- 3. あまりよくなかった ..... 40.4
- 4. 非常に不満である ..... 14.9
- 5. わからない、無回答 ..... 4.5

一復帰前と比べてよくなった点一

第10問 復帰前とくらべて、現在、よくなった点があれば、リストの中から、いくつでもおっしゃってください。

- 1. 県民の暮らしが楽になった .....4.3%
2. 犯罪など社会の混乱や不安が少なくなった .....4.8
3. 医療保険や社会保障など社会福祉が充実した..... 54.7
4. 学校、水道、道路など公共の施設が充実した..... 50.1
5. 観光や産業開発でうおった .....8.0
6. 本土との経済的な格差が縮まった ..... 10.6
7. 県民の権利や自由が守られるようになった ..... 21.8
8. 学校教育の内容や程度が向上した ..... 25.0
9. 古いしきたりが改善され、生活が合理的になった ..7.3
10. 本土との精神的な一体感が強まった ..... 21.8
11. その他.....0.4
12. よくなった点はない ..... 7.1
13. 復帰前には住んでいなかった .....2.4
14. わからない、無回答 .....4.7

一復帰前と比べて悪くなった点一

第11問 次に復帰前と比べて、現在、悪くなった点があれば、リストの中から、いくつでもおっしゃってください。

- 1. 県民の暮らしが苦しくなった ..... 46.0%
2. 犯罪など社会の混乱や不安が多くなった ..... 50.7
3. 医療保険や社会保障など社会福祉が低下した.....3.4
4. 学校、水道、道路など公共の施設の整備が
おろそかになった .....2.4
5. 観光や産業開発で自然が破壊された ..... 38.9
6. 本土との経済的な格差が拡大した ..... 12.1
7. 県民の権利や自由が守られなくなった .....3.0
8. 学校教育の内容や程度が低下した .....4.3
9. 沖縄の伝統的な文化やしきたりが失われた ..... 18.4
10. 本土との精神的なみぞが深まった .....6.7
11. その他.....0.7
12. 悪くなった点はない .....3.7
13. 復帰前には住んでいなかった .....2.4
14. わからない、無回答 .....5.6

一国・県に力を入れてほしいこと一

第15問 あなたは、国や県に対して、どんなことに力を入れてほしいと思いますか。リストの中から主なものを3つまでお答えください。

- 1. 農業対策 ..... 39.9%
2. 工業振興策 ..... 15.3
3. 観光対策 ..... 14.9
4. 教育対策 ..... 26.1
5. 医療制度・施設の充実 ..... 25.9
6. 公害防止・自然保護 ..... 19.0
7. 道路・交通の整備、交通方法変更の対策 ..... 18.1
8. 物価対策 ..... 50.7
9. 失業対策 ..... 37.8
10. 治安の維持 .....4.5
11. 米軍基地の撤去 ..... 16.4
12. 基地の跡地利用対策 .....9.9
13. その他.....0.2
14. わからない、無回答 .....3.7

一本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか一

第20問 現在、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思いますか。リストの中からお答えください。

- 1. じゅうぶん理解している .....1.9%
2. まあ理解している ..... 26.8
3. あまり理解していない ..... 53.3
4. まったく理解していない .....8.9
5. わからない、無回答 .....9.1

一米軍基地の必要性一

第24問 復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていますが、あなたは、これについてどのように思いますか。リストの中からお答えください。

- 1. 日本の安全にとって必要である .....9.5%
2. 日本の安全のためにやむをえない ..... 24.4
3. 日本の安全に必要でない ..... 22.0
4. 日本の安全にとってかえって危険である ..... 31.3
5. わからない、無回答 ..... 12.8

一沖縄への自衛隊の配備一

第25問 復帰後、自衛隊が沖縄に配備されていますが、あなたはこれについてどのように思いますか。同じリストの中からお答えください。

- 1. 日本の安全にとって必要である ..... 16.4%
2. 日本の安全のためにやむをえない ..... 33.1
3. 日本の安全に必要でない ..... 22.3
4. 日本の安全にとってかえって危険である ..... 14.5
5. わからない、無回答 ..... 13.6

一米軍基地と暮らし一

第26問 では、沖縄にアメリカ軍の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。リストの中からおっしゃってください。

- 1. 大きく役立っている .....4.3%
2. どちらかといえば、役立っている ..... 18.6
3. どちらかといえば、役立っていない ..... 20.3
4. 全然役立っていない ..... 41.9
5. わからない、無回答 ..... 14.9

一自衛隊と暮らし一

第27問 沖縄に自衛隊の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。同じリストの中からお答えください。

- 1. 大きく役立っている .....2.6%
2. どちらかといえば、役立っている ..... 14.2
3. どちらかといえば、役立っていない ..... 19.7
4. 全然役立っていない ..... 47.9
5. わからない、無回答 ..... 15.6

—沖縄戦とはどんなものだったか—

第33問 沖縄戦は、沖縄にとってどんな戦闘だったのでしょうか。リストのA～Cの組み合わせについて、それぞれどちらが、あなたのお考えに近いでしょうか。

- A)
1. 祖国防衛のためには、やむをえない戦闘だった … 13.0%
  2. 県民に多大な犠牲をだした無謀な戦闘だった …… 79.0
  3. わからない、無回答 ……………8.0
- B)
1. 本土の人と沖縄の人がともにたたかい  
一体感をもった …………… 19.9%
  2. 本土の人と沖縄の人との心のみぞが深まった …… 56.4
  3. わからない、無回答 …………… 23.6
- C)
1. 忘れてはならないこととして、  
たえずふりかえるようにしたい …………… 63.7%
  2. 今の生活と関係ないので、  
なるべく忘れるようにしたい …………… 25.9
  3. わからない、無回答 …………… 10.4

—沖縄戦を語り継ぎたいか—

第34問 あなたは、沖縄戦について、これからの若い世代に語りつぎたいと思いますか。リストの中からお答えください。

1. すずんで話したい …………… 26.4%
2. たずねられたら話す …………… 37.8
3. 思い出したくないので話さない ……………8.9
4. 沖縄戦のことは知らない …………… 19.0
5. わからない、無回答 ……………7.8

「本土復帰10年の沖縄」調査

単純集計結果

【調査の概要】

1. 調査期間  
1982年2月20日(土)～2月21日(日)
2. 調査方法  
個人面接法
3. 調査対象  
沖縄県の20歳以上
4. 調査相手  
沖縄県 900人(12人×75地点)
5. 有効数(率)  
650人(72.2%)

—暮らし向き—

第3問 あなたの暮らし向きは、1年前とくらべて、楽になったでしょうか。それとも苦しくなったでしょうか。リストの中からお答えください。

1. 楽になった ……………7.4%
2. 少し楽になった …………… 12.5
3. 変わらない …………… 42.8
4. 少し苦しくなった …………… 18.9
5. 苦しくなった …………… 17.7
6. わからない、無回答 ……………0.8

—今後の暮らし向き—

第5問 あなたの暮らし向きは、今後どうなると思いますか。リストの中からあなたのお感じに近いものをいってください。

1. 楽になるだろう ……………4.0%
2. 少し楽になるだろう …………… 17.7
3. 変わらないだろう …………… 32.5
4. 少し苦しくなるだろう …………… 24.6
5. 苦しくなるだろう …………… 15.8
6. わからない、無回答 ……………5.4

—本土復帰の評価—

第7問 沖縄が本土に復帰して、間もなく満10年になります。この10年をふりかえたとき、本土復帰についてあなたのお気持ちに近いものをリストの中からお答えください。

1. 非常によかった …………… 13.7%
2. まあよかった …………… 49.4
3. あまりよくなかった …………… 25.4
4. 非常に不満である ……………6.8
5. わからない、無回答 ……………4.8

一復帰前と比べてよくなった点一

第8問 復帰前とくらべて、現在、よくなった点があれば、リストの中から、いくつでもおっしゃってください。

- 1. 県民の暮らしが楽になった ..... 10.3%
2. 犯罪など社会の混乱や不安が少なくなった ..... 10.8
3. 医療保険や社会保障など社会福祉が充実した ..... 55.2
4. 学校・水道・道路など公共の施設が充実した ..... 60.9
5. 観光や産業開発でうおった ..... 28.9
6. 本土との経済的な格差が縮まった ..... 14.0
7. 県民の権利や自由が守られるようになった ..... 25.1
8. 学校教育の内容や程度が向上した ..... 32.8
9. 古いしきたりが改善され、生活が合理的になった ..... 16.3
10. 本土との精神的な一体感が強まった ..... 24.0
11. その他 ..... 0.6
12. よくなった点はない ..... 0.9
13. 復帰前には住んでいなかった ..... 1.5
14. わからない、無回答 ..... 4.6

一復帰前と比べて悪くなった点一

第9問 次に復帰前とくらべて、現在、悪くなった点があれば、リストの中からいくつでもおっしゃってください。

- 1. 県民の暮らしが苦しくなった ..... 27.5%
2. 犯罪など社会の混乱や不安が多くなった ..... 42.3
3. 医療保険や社会保障など社会福祉が低下した ..... 3.4
4. 学校・水道・道路など公共の施設の整備がおろそかになった ..... 1.4
5. 観光や産業開発で自然が破壊された ..... 43.7
6. 本土との経済的な格差が拡大した ..... 8.6
7. 県民の権利や自由が守られなくなった ..... 5.5
8. 学校教育の内容や程度が低下した ..... 3.4
9. 沖縄の伝統的な文化やしきたりが失われた ..... 16.2
10. 本土との精神的なみぞが深まった ..... 4.6
11. その他 ..... 0.6
12. 悪くなった点はない ..... 6.8
13. 復帰前には住んでいなかった ..... 1.5
14. わからない、無回答 ..... 8.9

一国の復帰対策一

第10問 国の復帰対策についてどう思いますか。リストの中からおっしゃってください。

- 1. 非常によくやっている ..... 5.2%
2. まあよくやっている ..... 48.2
3. あまりよくやっていない ..... 29.2
4. よくやっていない ..... 5.4
5. わからない、無回答 ..... 12.0

一復帰10年の感想一

第12問 復帰10年をふりかえって、次のような感想があります。リストの中からいくつでもあげてください。

- 1. 生活に落ち着きがなくなった ..... 17.2%
2. 海が汚れ、緑が失われるなど自然がそこなわれた ..... 54.3
3. 日本人としての自覚が強まった ..... 25.2
4. 生活が豊かになった ..... 11.4
5. 教育水準が高くなった ..... 36.6
6. 「復帰前の沖縄の方が良かった」と感じる ..... 31.5
7. 人間関係にあなたかみが失われてきた ..... 28.2
8. 貧富の差が縮まった ..... 14.9
9. その他 ..... 0.5
10. わからない、無回答 ..... 6.8

一国・県に力を入れてほしいこと一

第13問 あなたは、国や県に対して、どんなことに力を入れてほしいと思いますか。リストの中から主なものを3つまでお答えください。

- 1. 農業対策 ..... 34.5%
2. 工業振興策 ..... 15.2
3. 観光対策 ..... 11.1
4. 教育対策 ..... 22.0
5. 医療制度・施設の充実 ..... 30.0
6. 公害防止・自然保護 ..... 20.6
7. 道路・交通の整備 ..... 17.1
8. 物価対策 ..... 43.2
9. 失業対策 ..... 40.3
10. 治安の維持 ..... 4.2
11. 米軍基地の撤去 ..... 24.5
12. 基地の跡地利用対策 ..... 12.3
13. その他 ..... 0.2
14. わからない、無回答 ..... 3.4

一本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか一

第18問 現在、本土の人は、沖縄の人の気持ちを理解していると思いますか。リストの中からお答えください。

- 1. じゅうぶん理解している ..... 3.4%
2. まあ理解している ..... 38.8
3. あまり理解していない ..... 46.8
4. まったく理解していない ..... 3.4
5. わからない、無回答 ..... 7.7

一米軍基地の必要性一

第26問 復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていますが、あなたは、これについてどのように思いますか。リストの中からお答えください。

- 1. 日本の安全にとって必要である ..... 9.4%
2. 日本の安全のためにやむをえない ..... 28.2
3. 日本の安全に必要でない ..... 16.6
4. 日本の安全にとってかえって危険である ..... 36.0
5. わからない、無回答 ..... 9.8

一沖縄への自衛隊の配備一

第27問 復帰後、自衛隊が沖縄に配備されていますが、あなたはこれについてどのように思いますか。同じリストの中からお答えください。

- 1. 日本の安全にとって必要である ..... 22.5%
2. 日本の安全のためにやむをえない ..... 34.6
3. 日本の安全に必要でない ..... 16.8
4. 日本の安全にとってかえって危険である ..... 14.9
5. わからない、無回答 ..... 11.2

一米軍基地と暮らし一

第28問 では、沖縄にアメリカ軍の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。リストの中からおっしゃってください。

- 1. 大きく役立っている ..... 4.0%
2. どちらかといえば、役立っている ..... 17.7
3. どちらかといえば、役立っていない ..... 20.2
4. 全然役立っていない ..... 52.0
5. わからない、無回答 ..... 6.2

－自衛隊と暮らし－

第29問 沖縄に自衛隊の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。同じリストの中からお答えください。

- 1. 大きく役立っている .....3.7%
- 2. どちらかといえば、役立っている ..... 17.4
- 3. どちらかといえば、役立っていない ..... 18.8
- 4. 全然役立っていない ..... 52.2
- 5. わからない、無回答 .....8.0

－米軍基地のあり方－

第30問 沖縄のアメリカ軍基地について、あなたのお気持ちに近いものをリストの中からおっしゃってください。

- 1. 全面撤去すべきだ ..... 32.6%
- 2. 本土並みに少なくすべきだ ..... 44.2
- 3. 現状のままでよい ..... 14.9
- 4. もっとふやすべきだ .....1.8
- 5. わからない、無回答 .....6.5

－沖縄戦とはどんなものだったか－

第33問 沖縄戦は、沖縄にとってどんな戦闘だったのでしょうか。次のA、Bそれぞれについて、あなたのお気持ちに近いものをリストの中からおっしゃってください。

A) まずAについてはどうでしょうか。

- 1. 祖国防衛のためには、やむをえない戦闘だった .. 10.5%
- 2. 県民に多大な犠牲を出した無謀な戦闘だった .... 83.4
- 3. わからない、無回答 .....6.2

B) 次にBについてはどうでしょうか。

- 1. 忘れてはならないこととして、  
たえずふりかえるようにしたい ..... 78.6%
- 2. 今の生活と関係ないので、  
なるべく忘れるようにしたい ..... 16.6
- 3. わからない、無回答 .....4.8

－沖縄戦を語り継ぎたいか－

第34問 あなたは、沖縄戦について、これからの若い世代に語りつぎたいと思いますか。リストの中からお答えください。

- 1. すずんで話したい ..... 33.1%
- 2. たずねられたら話す ..... 28.8
- 3. 思い出したくないので話さない .....5.8
- 4. 沖縄戦のことは知らない ..... 29.2
- 5. わからない、無回答 .....3.1

「本土復帰15年の沖縄」調査  
単純集計結果

【調査の概要】

- 1. 調査期間  
1987年1月31日(土)～2月2日(月)
- 2. 調査方法  
個人面接法
- 3. 調査対象  
沖縄県の20歳以上
- 4. 調査相手  
沖縄県 900人(12人×75地点)
- 5. 有効数(率)  
618人(68.7%)

－暮らし向き－

第2問 あなたの暮らし向きは、1年前とくらべて楽になったでしょうか。それとも苦しくなったでしょうか。リストの中から答えください。

- 1. 楽になった .....9.1%
- 2. 少し楽になった .....9.5
- 3. 変わらない ..... 48.5
- 4. 少し苦しくなった ..... 18.9
- 5. 苦しくなった ..... 12.9
- 6. わからない、無回答 .....1.0

－今後の暮らし向き－

第3問 あなたの暮らし向きは、今後どうなると思いますか。リストの中からあなたのお感じに近いものをいってください。

- 1. 楽になるだろう .....7.0%
- 2. 少し楽になるだろう ..... 19.7
- 3. 変わらないだろう ..... 30.9
- 4. 少し苦しくなるだろう ..... 24.8
- 5. 苦しくなるだろう ..... 12.8
- 6. わからない、無回答 .....4.9

－本土復帰の評価－

第4問 沖縄が本土に復帰して、間もなく満15年になります。この15年間でふりかえったとき、本土復帰についてあなたのお気持ちに近いものをリストの中からお答えください。

- 1. 非常によかった ..... 19.9%
- 2. まあよかった ..... 55.8
- 3. あまりよくなかった ..... 13.6
- 4. 非常に不満である .....4.4
- 5. わからない、無回答 .....6.3

### ―復帰15年の感想―

第8問 復帰15年をふりかえって、次のような感想があります。あなたのお感じになることをリストの中からいくつでもあげてください。

1. 生活に落ち着きがなくなった …… 13.8%
2. 海が汚れ緑が失われるなど自然がそこなわれた …… 58.4
3. 日本人としての自覚が強まった …… 29.0
4. 生活が豊かになった …… 22.5
5. 教育水準が高くなった …… 43.4
6. 「復帰前の沖縄の方が良かった」と感じる …… 17.5
7. 人間関係にあなたかみが失われてきた …… 30.3
8. 貧富の差が縮まった …… 17.5
9. その他 …… 0.2
10. わからない、無回答 …… 6.5

### ―国・県に力を入れてほしいこと―

第9問 あなたは、国や県に対して、どんなことに力を入れてほしいと思いますか。リストの中から主なものを3つまでお答えください。

1. 農業対策 …… 23.9%
2. 工業振興策 …… 14.2
3. 観光対策 …… 15.4
4. 教育対策 …… 22.3
5. 医療制度・施設の充実 …… 32.8
6. 公害防止・自然保護 …… 31.1
7. 道路・交通の整備 …… 19.6
8. 物価対策 …… 30.3
9. 失業対策 …… 45.0
10. 治安の維持 …… 3.4
11. 米軍基地の撤去 …… 23.8
12. 基地の跡地利用対策 …… 10.8
13. その他 …… 0.5
14. わからない、無回答 …… 15.5

### ―経済発展の方向―

第13問 今後、沖縄が経済的に発展していくには、どのような方向をとるのが一番良いと思いますか。リストの中からお答えください。

1. 農業や畜産を盛んにする …… 20.4%
2. 企業を誘致し、工業を盛んにする …… 30.9
3. 観光に力を入れる …… 24.9
4. 農産物・水産物の加工に力を入れる …… 17.5
5. その他 …… 0.0
6. わからない、無回答 …… 6.3

### ―本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか―

第14問 現在、本土の人は、沖縄の人の気持ちを理解していると思いますか。リストの中からお答えください。

1. じゅうぶん理解している …… 4.5%
2. まあ理解している …… 40.9
3. あまり理解していない …… 43.5
4. まったく理解していない …… 4.0
5. わからない、無回答 …… 7.0

### ―沖縄県で失業者が多い原因―

第16問 沖縄県で失業者が多い主な原因はどこにあると思いますか。リストの中からひとつあげてください。

1. 県内に働き口が少ないから …… 49.7%
2. 国や県の雇用対策がじゅうぶんでないから …… 12.0
3. 県外で働きたがらない人が多いから …… 10.5
4. 就職に有利な技術・技能を持っている人が少ないから …… 7.1
5. 待遇や仕事の内容など希望に合った働き口が見つからないから …… 12.9
6. 仕事を探さなくてもいちおうの生活ができるから …… 4.5
7. その他 …… 0.5
8. わからない、無回答 …… 2.8

### ―米軍基地の必要性―

第24問 復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていますが、あなたは、これについてどのように思いますか。リストの中からお答えください。

1. 日本の安全にとって必要である …… 8.9%
2. 日本の安全のためにやむをえない …… 29.3
3. 日本の安全に必要でない …… 21.8
4. 日本の安全にとってかえって危険である …… 30.3
5. わからない、無回答 …… 9.7

### ―沖縄への自衛隊の配備―

第25問 復帰後、自衛隊が沖縄に配備されていますが、あなたはこれについてどのように思いますか。同じリストの中からお答えください。

1. 日本の安全にとって必要である …… 21.8%
2. 日本の安全のためにやむをえない …… 42.4
3. 日本の安全に必要でない …… 15.9
4. 日本の安全にとってかえって危険である …… 10.2
5. わからない、無回答 …… 9.7

### ―米軍基地と暮らし―

第26問 沖縄にアメリカ軍の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。リストの中からお答えください。

1. 大きく役立っている …… 7.9%
2. どちらかといえば、役立っている …… 17.2
3. どちらかといえば、役立っていない …… 25.7
4. 全然役立っていない …… 43.4
5. わからない、無回答 …… 5.8

### ―自衛隊と暮らし―

第27問 沖縄に自衛隊の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。同じリストの中からお答えください。

1. 大きく役立っている …… 5.8%
2. どちらかといえば、役立っている …… 19.1
3. どちらかといえば、役立っていない …… 25.4
4. 全然役立っていない …… 41.6
5. わからない、無回答 …… 8.1



－米軍基地のあり方－

第28問 沖縄のアメリカ軍基地について、あなたのお気持ちに近いものをリストの中からおっしゃってください。

- 1. 全面撤去すべきだ …………… 28.3%
- 2. 本土並みに少なくすべきだ …………… 48.7
- 3. 現状のままでよい …………… 17.0
- 4. もっとふやすべきだ …………… 0.5
- 5. わからない、無回答 …………… 5.5

－沖縄戦とはどんなものだったか－

第31問 沖縄戦は、沖縄にとってどんな戦闘だったのでしょうか。次のA、Bそれぞれについて、あなたのお気持ちに近いものをリストの中からおっしゃってください。

- A)
- 1. 祖国防衛のためには、やむをえない戦闘だった … 11.0%
  - 2. 県民に多大な犠牲をだした無謀な戦闘だった …… 82.4
  - 3. わからない、無回答 …………… 6.6
- B)
- 1. 忘れてはならないこととして、  
たえずふりかえるようにしたい …………… 76.1%
  - 2. 今の生活と関係ないので、  
なるべく忘れるようにしたい …………… 16.3
  - 3. わからない、無回答 …………… 7.6

－沖縄戦を語り継ぎたいか－

第32問 あなたは、沖縄戦について、これからの若い世代に語りつぎたいと思いますか。リストの中から答えください。

- 1. すずんで話したい …………… 33.8%
- 2. たずねられたら話す …………… 28.2
- 3. 思い出したくないので話さない …………… 4.7
- 4. 沖縄戦のことは知らない …………… 28.0
- 5. わからない、無回答 …………… 5.3

「本土復帰20年の沖縄」調査  
単純集計結果

【調査の概要】

- 1. 調査期間  
1992年3月7日(土)～3月8日(日)
- 2. 調査方法  
個人面接法
- 3. 調査対象  
沖縄県の20歳以上
- 4. 調査相手  
沖縄県 900人(12人×75地点)
- 5. 有効数(率)  
706人(78.4%)

－暮らし向き－

第4問 あなたの暮らし向きは、1年前とくらべて、楽になったでしょうか。それとも苦しくなったでしょうか。リストの中から答えください。

- 1. 楽になった …………… 9.9%
- 2. 少し楽になった …………… 17.7
- 3. 変わらない …………… 53.3
- 4. 少し苦しくなった …………… 11.5
- 5. 苦しくなった …………… 5.8
- 6. わからない、無回答 …………… 1.8

－今後の暮らし向き－

第5問 あなたの暮らし向きは、今後どうなると思いますか。リストの中からあなたのお感じに近いものをおっしゃってください。

- 1. 楽になるだろう …………… 10.8%
- 2. 少し楽になるだろう …………… 19.4
- 3. 変わらないだろう …………… 40.7
- 4. 少し苦しくなるだろう …………… 14.3
- 5. 苦しくなるだろう …………… 6.2
- 6. わからない、無回答 …………… 8.6

－本土復帰の評価－

第6問 沖縄が本土に復帰して、間もなく満20年になります。この20年をふりかえったとき、本土復帰についてあなたのお気持ちに近いものをリストの中から答えください。

- 1. 非常によかった …………… 21.1%
- 2. まあよかった …………… 60.2
- 3. あまりよくなかった …………… 9.6
- 4. 非常に不満である …………… 1.0
- 5. わからない、無回答 …………… 8.1

### ―復帰20年の感想―

第8問 復帰20年をふりかえって、次のような感想があります。リストの中からあなたのお感じになることをいくつかあげてください。

1. 生活に落ち着きがなくなった …………… 12.5%
2. 海が汚れ緑が失われるなど自然がそこなわれた … 71.7
3. 日本人としての自覚が強まった …………… 18.0
4. 生活が豊かになった …………… 35.4
5. 教育水準が高くなった …………… 46.3
6. 「復帰前の沖縄の方が良かった」と感じる …………… 15.4
7. 人間関係にあなたがかみが変わってきた …………… 31.6
8. 貧富の差が縮まった …………… 14.0
9. その他…………… 1.1
10. わからない、無回答 …………… 5.2

### ―国・県に力を入れてほしいこと―

第9問 あなたは、国や県に対して、どんなことに力を入れてほしいと思いますか。リストの中から主なものを3つまでお答えください。

1. 農業対策 …………… 24.9%
2. 工業振興策 …………… 10.6
3. 観光対策 …………… 16.4
4. 教育対策 …………… 26.5
5. 医療制度・施設の充実 …………… 39.1
6. 公害防止・自然保護 …………… 44.9
7. 道路・交通の整備 …………… 23.9
8. 物価対策 …………… 23.1
9. 失業対策 …………… 23.7
10. 治安の維持 …………… 6.2
11. 米軍基地の撤去 …………… 27.3
12. 基地の跡地利用対策 …………… 15.4
13. その他…………… 0.4
14. わからない、無回答 …………… 2.8

### ―沖縄の開発は調和がとれているか―

第11問 ところで、今沖縄で進められている開発は、自然保護との調和がとれていると思いますか。それともとれていないと思いますか。リストの中からお答えください。

1. 調和がとれている …………… 4.7%
2. 調和がとれていない …………… 62.6
3. どちらともいえない …………… 26.5
4. わからない、無回答 …………… 6.2

### ―経済発展の方向―

第12問 今後、沖縄が経済的に発展していくには、どのような方向をとるのが一番良いと思いますか。リストの中からお答えください。

1. 農業や畜産を盛んにする …………… 15.6%
2. 企業を誘致し、工業を盛んにする …………… 23.4
3. 観光に力を入れる …………… 25.5
4. 農産物・水産物の加工に力を入れる …………… 22.9
5. その他…………… 1.1
6. わからない、無回答 …………… 11.5

### ―米軍基地の必要性―

第20問 復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていますが、あなたは、これについてどのように思いますか。リストの中からお答えください。

1. 日本の安全にとって必要である …………… 5.8%
2. 日本の安全のためにやむをえない …………… 28.9
3. 日本の安全に必要でない…………… 26.1
4. 日本の安全にとってかえって危険である…………… 24.4
5. わからない、無回答…………… 14.9

### ―沖縄への自衛隊の配備―

第21問 復帰後、自衛隊が沖縄に配備されていますが、あなたはこれについてどのように思いますか。同じリストの中からお答えください。

1. 日本の安全にとって必要である …………… 20.0%
2. 日本の安全のためにやむをえない …………… 36.4
3. 日本の安全に必要でない…………… 18.0
4. 日本の安全にとってかえって危険である…………… 8.9
5. わからない、無回答…………… 16.7

### ―米軍基地と暮らし―

第22問 では、沖縄にアメリカ軍の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。リストの中からおっしゃってください。

1. 大きく役立っている …………… 3.4%
2. どちらかといえば、役立っている…………… 15.6
3. どちらかといえば、役立っていない…………… 25.8
4. 全然役立っていない…………… 45.0
5. わからない、無回答…………… 10.2

### ―自衛隊と暮らし―

第23問 沖縄に自衛隊の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。同じリストの中からおっしゃってください。

1. 大きく役立っている …………… 4.0%
2. どちらかといえば、役立っている…………… 16.6
3. どちらかといえば、役立っていない…………… 24.6
4. 全然役立っていない…………… 41.6
5. わからない、無回答…………… 13.2

### ―米軍基地のあり方―

第24問 沖縄のアメリカ軍基地について、あなたのお気持ちに近いものをおっしゃってください。

1. 全面撤去すべきだ…………… 33.6%
2. 本土並みに少なくすべきだ…………… 47.3
3. 現状のままでよい…………… 10.9
4. もっと増やすべきだ…………… 0.1
5. わからない、無回答…………… 8.1

－沖縄戦とはどんなものだったか－

第30問 今度は沖縄戦についてうかがいます。沖縄戦は、沖縄にとってどんな戦闘だったのでしょうか。次のA、Bそれぞれについて、あなたのお気持ちに近いものをリストの中からおっしゃってください。

- A) まず、Aについては、どうでしょうか。
1. 祖国防衛のためには、やむをえない戦闘だった ……6.2%
  2. 県民に多大な犠牲をだした無謀な戦闘だった …… 87.5
  3. わからない、無回答 ……6.2
- B) 次に、Bについてはどうでしょうか。
1. 忘れてはならないこととして、たえずふりかえるようにしたい …… 82.6%
  2. 今の生活と関係ないので、なるべく忘れるようにしたい ……8.8
  3. わからない、無回答 ……8.6

－沖縄戦を語り継ぎたいか－

第31問 あなたは、沖縄戦について、これからの若い世代に語りつぎたいと思いますか。リストの中からお答えください。

1. すすんで話したい …… 33.9%
2. たずねられたら話す …… 30.7
3. 思い出したくないので話さない ……2.8
4. 沖縄戦のことは知らない …… 26.2
5. わからない、無回答 ……6.4

－本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか－

第36問 話は変わりますが、現在、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思いますか。リストの中からお答えください。

1. じゅうぶん理解している ……3.0%
2. まあ理解している …… 34.4
3. あまり理解していない …… 45.9
4. まったく理解していない ……5.5
5. わからない、無回答 …… 11.2

「復帰30年の沖縄」調査  
単純集計結果

【調査の概要】

1. 調査期間  
2002年3月2日(土)～3月10日(日)
2. 調査方法  
個人面接法
3. 調査対象  
沖縄県の20歳以上
4. 調査相手  
沖縄県 900人(12人×75地点)
5. 有効数(率)  
587人(65.2%)

－暮らし向き－

第2問 あなたの暮らし向きは、1年前とくらべて、楽になったでしょうか。それとも苦しくなったでしょうか。リストの中からお答えください。

1. 楽になった ……5.6%
2. 少し楽になった ……8.0
3. 変わらない …… 48.7
4. 少し苦しくなった …… 19.8
5. 苦しくなった …… 17.4
6. わからない、無回答 ……0.5

－今後の暮らし向き－

第3問 あなたの暮らし向きは、今後どうなると思いますか。リストの中からあなたのお感じに近いものをおっしゃってください。

1. 楽になるだろう ……4.6%
2. 少し楽になるだろう …… 17.2
3. 変わらないだろう …… 36.1
4. 少し苦しくなるだろう …… 22.7
5. 苦しくなるだろう …… 13.1
6. わからない、無回答 ……6.3

－本土復帰の評価－

第4問 沖縄が本土に復帰して、間もなく満30年になります。この30年をふりかえったとき、本土復帰についてあなたのお気持ちに近いものをリストの中からお答えください。

1. 非常によかった …… 21.0%
2. まあよかった …… 55.2
3. あまりよくなかった …… 11.1
4. 非常に不満である ……2.2
5. わからない、無回答 …… 10.6

### ―復帰30年の感想―

第5問 復帰30年を振り返って、次のような感想があります。リストの中からあなたのお感じになることをいくつかあげてください。

1. 生活に落ち着きがなくなった …… 11.4%
2. 海が汚れ、緑が失われるなど  
自然がそこなわれた …… 58.1
3. 日本人としての自覚が強まった …… 17.7
4. 生活が豊かになった …… 22.7
5. 教育水準が高くなった …… 36.3
6. 「復帰前の沖縄のほうよかった」と  
感じることがある …… 11.8
7. 人間関係に温かみが失われてきた …… 32.5
8. 貧富の差が縮まった …… 13.8
9. その他 …… 1.4
10. わからない、無回答 …… 8.5

### ―国・県に力を入れてほしいこと―

第6問 あなたは、国や県に対して、どんなことに力を入れてほしいと思いますか。リストの中から主なものを3つまでお答えください。

1. 農業対策 …… 12.6%
2. 工業振興策 …… 10.1
3. 観光対策 …… 24.4
4. 教育対策 …… 23.2
5. 医療制度・施設の充実 …… 44.5
6. 公害防止・自然保護 …… 30.2
7. 道路・交通の整備 …… 12.8
8. 物価対策 …… 18.9
9. 失業対策 …… 49.6
10. 治安の維持 …… 8.3
11. アメリカ軍基地の撤去 …… 21.5
12. 基地の跡地利用対策 …… 14.8
13. その他 …… 0.7
14. わからない、無回答 …… 2.7

### ―経済発展の方向―

第9問 今後、沖縄が経済的に発展していくには、どのような方向をとるのが一番良いと思いますか。リストの中からお答えください。

1. 農業や畜産を盛んにする …… 12.6%
2. 企業を誘致し、工業を盛んにする …… 28.3
3. 観光に力を入れる …… 34.9
4. 農産物・水産物の加工に力を入れる …… 15.2
5. その他 …… 1.4
6. わからない、無回答 …… 7.7

### ―米軍基地の必要性―

第13問 復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていますが、あなたは、これについてどのように思いますか。リストの中からお答えください。

1. 日本の安全にとって必要である …… 7.3%
2. 日本の安全のためにやむをえない …… 39.9
3. 日本の安全に必要でない …… 19.1
4. 日本の安全にとってかえって危険である …… 24.5
5. わからない、無回答 …… 9.2

### ―沖縄への自衛隊の配備―

第14問 復帰後、自衛隊が沖縄に配備されていますが、あなたはこれについてどのように思いますか。同じリストの中からお答えください。

1. 日本の安全にとって必要である …… 19.1%
2. 日本の安全のためにやむをえない …… 47.5
3. 日本の安全に必要でない …… 15.7
4. 日本の安全にとってかえって危険である …… 6.5
5. わからない、無回答 …… 11.2

### ―米軍基地と暮らし―

第15問 では、沖縄にアメリカ軍の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。リストの中からおっしゃってください。

1. 大きく役立っている …… 6.5%
2. どちらかといえば、役立っている …… 21.8
3. どちらかといえば、役立っていない …… 25.4
4. 全然役立っていない …… 39.9
5. わからない、無回答 …… 6.5

### ―自衛隊と暮らし―

第16問 沖縄に自衛隊の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。同じリストの中からおっしゃってください。

1. 大きく役立っている …… 3.9%
2. どちらかといえば、役立っている …… 19.3
3. どちらかといえば、役立っていない …… 29.1
4. 全然役立っていない …… 37.8
5. わからない、無回答 …… 9.9

### ―米軍基地のあり方―

第17問 沖縄のアメリカ軍基地について、あなたのお気持ちに近いものをリストの中からおっしゃってください。

1. 全面撤去すべきだ …… 20.6%
2. 本土並みに少なくすべきだ …… 55.0
3. 現状のままでよい …… 18.6
4. もっと増やすべきだ …… 0.3
5. わからない、無回答 …… 5.5

### ―米軍基地の整理・縮小―

第18問 沖縄のアメリカ軍基地の整理・縮小は進んだと思いますか。進んでいないと思いますか。

1. 進んだ …… 23.5%
2. 進んでいない …… 49.9
3. どちらともいえない …… 15.3
4. わからない、無回答 …… 11.2

－米軍基地の整理・縮小「進んでいない」理由－

【第18問で「2.進んでいない」と答えた方へ】

第19問 「進んでいない」のはどうしてだと思いますか。あなたのお考えに近いものをリストの中から1つあげてください。

1. 国がアメリカとの交渉を積極的に進めないため … 33.4%
2. アメリカ軍が沖縄の基地を重視しているため … 30.4
3. 他に基地を移転することが難しいため … 19.8
4. 日米安全保障条約があるため … 10.2
5. 県民が望んでいないため … 3.4
6. その他 … 0.7
7. わからない、無回答 … 2.0

(該当者=293人)

－沖縄戦は忘れてはならないか－

第23問 今度は沖縄戦についてうかがいます。沖縄戦について、あなたのお考えはリストのどちらに近いでしょうか。

1. 忘れてはならないこととして、たえずふりかえるようにしたい … 81.1%
2. 今の生活と関係ないので、なるべく忘れるようにしたい … 9.9
3. わからない、無回答 … 9.0

－沖縄戦の体験－

第25問 あなたは、沖縄戦の体験を持っていますか。

1. もっている … 27.1%
2. もっていない … 72.4
3. わからない、無回答 … 0.5

－沖縄戦を語り継ぎたいか－

【第25問で「1.もっている」と答えた方へ】

第26問-1 あなたは沖縄戦について、これからの若い世代に語りつぎたいと思いますか。リストの中からおっしゃってください。

1. 進んで話したい … 35.8%
2. たずねられたら話す … 45.9
3. 思い出したくないので話さない … 8.2
4. 沖縄戦に関心がない … 1.3
5. わからない、無回答 … 8.8

(該当者=159人)

－本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか－

第27問 話は変わりますが、現在、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思いますか。リストの中からお答えください。

1. 十分理解している … 3.4%
2. まあ理解している … 31.9
3. あまり理解していない … 49.2
4. まったく理解していない … 8.0
5. わからない、無回答 … 7.5

－同時多発テロの暮らしへの影響－

第39問 昨年9月にアメリカで同時多発テロ事件が起きましたが、この事件はあなたの暮らしや仕事に影響していると思いますか。影響しているか、影響していないかでお答えください。

1. 影響している … 40.2%
2. 影響していない … 53.0
3. わからない、無回答 … 6.8

－同時多発テロの暮らしへの影響の内容－

【第39問で「1.影響している」と答えた人に】

第40問 それは、どのような影響ですか。リストの中から、いくつでもお答えください。

1. 航空機を利用しなくなった … 23.3%
2. 海外旅行をやめた … 20.3
3. 働き口が少なくなった … 29.2
4. 収入が減った … 31.8
5. 仕事の上で取引先の経営が悪化した … 33.9
6. 所有している株式の価格が低下した … 6.4
7. その他 … 12.3
8. わからない、無回答 … 3.8

(該当者=236人)

－同時多発テロの安全保障への影響－

第41問 あなたは、今回のテロ事件によって、日本の安全についての考え方が変わりましたか。それとも変わっていませんか。リストの中から、あなたのお考えに近いものをいくつでもお答えください。

1. 日本もテロの被害を受ける恐れがあると感じるようになった … 62.7%
2. 日本も戦争に巻き込まれる恐れがあると感じるようになった … 52.0
3. 国を守るためには軍事力が必要だと思うようになった … 16.7
4. 日本も軍事的な面で国際貢献をする必要があると思うようになった … 16.7
5. 危機管理や国際的な情報収集の体制の整備が必要だと思うようになった … 37.3
6. 軍縮や武器輸出の禁止など、平和外交が必要だと思うようになった … 23.3
7. 憲法9条を守ろうと思うようになった … 16.4
8. 考え方に特に変わりはない … 5.5
9. その他 … 0.5
10. わからない、無回答 … 5.5

# 「復帰40年の沖縄」調査 単純集計結果

## 【調査の概要】

1. 調査期間	2012年2月18日(土)～3月4日(日) (全国は2月26日(日)まで)
2. 調査方法	個人面接法
3. 調査対象	沖縄県と全国の20歳以上
4. 調査相手	沖縄県 1,800人(12人×150地点) 全国 1,800人(12人×150地点)
5. 有効数(率)	沖縄県 1,123人(62.4%) 全国 1,117人(62.1%)

※回答の数字は基本的に沖縄県内の調査結果を掲載。  
沖縄と全国の両方の結果を紹介した時のみ「沖縄 全国」と記載しています。全国調査は、「安全保障意識」調査として実施。

## －暮らし向き－

第2問 あなたの暮らし向きは、1年前とくらべて、楽になったでしょうか。それとも苦しくなったでしょうか。リストの中から1つお答えください。

1. 楽になった	4.9%
2. 少し楽になった	8.4
3. 変わらない	53.8
4. 少し苦しくなった	23.0
5. 苦しくなった	9.6
6. わからない、無回答	0.4

## －今後の暮らし向き－

第3問 あなたの暮らし向きは、今後どうなると思いますか。リストの中からあなたのお感じに近いものを1つお答えください。

1. 楽になるだろう	5.2%
2. 少し楽になるだろう	14.2
3. 変わらないだろう	38.6
4. 少し苦しくなるだろう	28.0
5. 苦しくなるだろう	11.6
6. わからない、無回答	2.3

## －本土復帰の評価－

第4問 沖縄が本土に復帰して、間もなく40年になります。この40年間でふりかえったとき、本土復帰についてあなたのお気持ちに近いものをリストの中から1つお答えください。

1. 非常によかった	22.9%
2. まあよかった	55.3
3. あまりよくなかった	11.4
4. 非常に不満である	3.3
5. わからない、無回答	7.1

## －復帰40年の感想－

第5問 復帰40年を振り返って、リストのような感想があります。この中からあなたのお感じになることをいくつかあげてください。

1. 生活に落ち着きがなくなった	12.6%
2. 海が汚れ、緑が失われるなど 自然が損なわれた	53.8
3. 日本人としての自覚が強まった	19.2
4. 生活が豊かになった	25.6
5. 教育水準が高くなった	32.3
6. 「復帰前の沖縄のほうがよかった」と 感じることもある	11.0
7. 人間関係に温かみが失われてきた	33.0
8. 貧富の差が縮まった	14.6
9. その他	0.5
10. わからない、無回答	8.7

## －国・県に力を入れてほしいこと－

第6問 あなたは、国や県に対して、どんなことに力を入れてほしいと思いますか。リストの中から主なものを3つまでお答えください。

1. 農業対策	19.9%
2. 工業振興策	7.0
3. 観光対策	21.5
4. 教育対策	36.3
5. 医療制度・施設の充実	54.9
6. 公害防止・自然保護	18.1
7. 道路・交通の整備	11.7
8. 物価対策	16.9
9. 失業対策	52.0
10. 治安の維持	9.0
11. アメリカ軍基地の撤去	24.4
12. 基地の跡地利用対策	11.9
13. その他	0.4
14. わからない、無回答	1.0

## －沖縄の開発は調和がとれているか－

第8問 ところで、今沖縄で進められている開発は、自然保護との調和がとれていると思いますか。それとも、とれていないと思いますか。リストの中から1つお答えください。

1. 調和がとれている	5.3%
2. 調和がとれていない	51.3
3. どちらともいえない	39.6
4. わからない、無回答	3.7

## －経済発展の方向－

第9問 今後、沖縄が経済的に発展していくには、どのような方向をとるのが一番よいと思いますか。リストの中から1つお答えください。

1. 農業や畜産を盛んにする	12.8%
2. 企業を誘致し、工業を盛んにする	26.3
3. 観光に力を入れる	38.1
4. 農産物・水産物の加工に力を入れる	19.5
5. その他	0.4
6. わからない、無回答	2.8

－米軍基地の必要性－

- 第13問 復帰後も、沖縄にアメリカ軍基地が残っていますが、あなたは、これについてどのように思いますか。リストの中から1つお答えください。
1. 日本の安全にとって必要である …………… 11.1 %
  2. 日本の安全のためにやむをえない …………… 44.9
  3. 日本の安全に必要でない…………… 21.2
  4. 日本の安全にとってかえって危険である…………… 17.1
  5. わからない、無回答……………5.7

－沖縄への自衛隊の配備－

- 第14問 復帰後、自衛隊が沖縄に配備されていますが、あなたはこれについてどのように思いますか。同じリストの中から1つお答えください。
1. 日本の安全にとって必要である …………… 30.5 %
  2. 日本の安全のためにやむをえない …………… 52.3
  3. 日本の安全に必要でない……………8.8
  4. 日本の安全にとってかえって危険である……………4.6
  5. わからない、無回答……………3.8

－米軍基地と暮らし－

- 第16問 沖縄にアメリカ軍の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。リストの中から1つお答えください。
1. 大きく役立っている ……………6.4 %
  2. どちらかといえば、役立っている…………… 22.4
  3. どちらかといえば、役立っていない…………… 34.1
  4. 全然役立っていない…………… 34.6
  5. わからない、無回答……………2.5

－自衛隊と暮らし－

- 第17問 では、沖縄に自衛隊の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。同じリストの中から1つお答えください。
1. 大きく役立っている ……………6.2 %
  2. どちらかといえば、役立っている…………… 25.3
  3. どちらかといえば、役立っていない…………… 33.2
  4. 全然役立っていない…………… 31.8
  5. わからない、無回答……………3.5

－米軍基地のあり方－

- 第18問 沖縄のアメリカ軍基地について、あなたのお気持ちに近いものをリストの中から1つお答えください。
1. 全面撤去すべきだ …………… 21.7 %
  2. 本土並みに少なくすべきだ …………… 56.1
  3. 現状のままでよい …………… 18.9
  4. もっと増やすべきだ ……………0.6
  5. わからない、無回答……………2.7

－米軍基地の整理・縮小－

- 第19問 沖縄のアメリカ軍基地の整理・縮小は進んだと思いますか。進んでいないと思いますか。
1. 進んだ…………… 22.3 %
  2. 進んでいない…………… 61.3
  3. どちらともいえない…………… 11.6
  4. わからない、無回答……………4.9

－米軍基地の整理・縮小「進んでいない」理由－

- 【第19問で「2」の人に】
- 第19問SQ 「進んでいない」のはどうしてだと思いますか。あなたのお考えに近いものをリストの中から1つお答えください。
1. 国がアメリカとの交渉を積極的に進めないため … 30.7 %
  2. アメリカ軍が沖縄の基地を重視しているため …… 18.8
  3. 他に基地を移転することが難しいため …………… 32.4
  4. 日米安全保障条約があるため…………… 10.0
  5. 県民が望んでいないため……………6.4
  6. その他……………0.3
  7. わからない、無回答……………1.5
- (該当者=688人)

－普天間基地の名護市移設の賛否－

- 第20問 アメリカ軍普天間基地の返還にあたって、代わりの施設を名護市に移設することについて、どう思いますか。リストの中から1つお答えください。
- (全国調査は第18問)
- |                    | 沖縄   | 全国   |
|--------------------|------|------|
| 1. 賛成……………         | 6.3  | 5.8% |
| 2. どちらかといえば賛成…………… | 14.2 | 30.3 |
| 3. どちらかといえば反対…………… | 31.9 | 34.0 |
| 4. 反対……………         | 40.2 | 10.9 |
| 5. わからない、無回答……………  | 7.3  | 19.0 |

－普天間基地どこに移設すべきか－

- 【第20問で「3」「4」の人に】
- 第20問SQ2 それでは、あなたは、普天間基地の移設について今後どうすべきだと思いますか。リストの中から1つお答えください。
1. 沖縄県内の他の場所に移設すべきだ……………3.5 %
  2. 国内の沖縄県以外の場所に移設すべきだ…………… 24.4
  3. 海外に移設すべきだ…………… 41.5
  4. 代わりの施設は作らずに撤去すべきだ…………… 24.6
  5. 普天間にそのまま残しておくべきだ……………4.9
  6. その他……………0.2
  7. わからない、無回答……………0.9
- (該当者=810人)

－「最低でも県外」発言の評価－

第21問 民主党政権は、普天間基地の移設について、当初「県外を目指す」としていましたが、結局県内移設でアメリカと合意しました。このことについて2つに分けてうかがいます。  
(全国調査は第19問)

A) まず、「県内移設」でアメリカと合意したことについてどう思いますか。リストの中から1つお答えください。

	沖縄	全国
1. 高く評価する	2.5	3.2%
2. ある程度評価する	12.8	27.7
3. あまり評価しない	33.3	39.9
4. まったく評価しない	46.7	22.5
5. わからない、無回答	4.6	6.7

B) では、当初「県外を目指す」という姿勢を示したことについてどう思いますか。リストの中から1つお答えください。

	沖縄	全国
1. 高く評価する	22.5	8.4%
2. ある程度評価する	36.3	31.9
3. あまり評価しない	19.2	30.3
4. まったく評価しない	16.9	22.4
5. わからない、無回答	5.0	7.0

－在日米軍基地の沖縄への集中－

第22問 在日アメリカ軍の専用施設の74%が沖縄に集中しています。このことについて、あなたはどう思いますか。リストの中から1つお答えください。  
(全国調査は第20問)

	沖縄	全国
1. おかしいと思う	57.2	24.9%
2. どちらかといえばおかしいと思う	28.6	42.7
3. どちらかといえばおかしいと思わない	7.7	16.8
4. おかしいと思わない	3.8	8.4
5. わからない、無回答	2.8	7.2

－日米安保条約 日本の平和に役立っているか－

第23問 あなたは、日本がアメリカと結んでいる日米安全保障条約は、日本の平和と安全にどの程度役立っていると思いますか。リストの中から1つお答えください。  
(全国調査は第3問)

	沖縄	全国
1. 非常に役立っている	8.2	18.1%
2. ある程度役立っている	45.1	57.3
3. あまり役立っていない	29.9	16.4
4. まったく役立っていない	7.5	1.9
5. わからない、無回答	9.3	6.4

－今後の日米同盟のあり方－

第24問 あなたは、日米安全保障条約に基づくアメリカとの同盟関係を、今後どうしていくべきだと思いますか。リストの中から1つお答えください。

1. 同盟関係をより強化していくべきだ	12.1%
2. 現状のまま維持していくべきだ	34.0
3. 協力の度合いを今より減らしていくべきだ	35.4
4. 日米安保の解消を目指していくべきだ	8.4
5. わからない、無回答	10.1

－沖縄戦は忘れてはならないか－

第26問 次に、沖縄戦についてうかがいます。沖縄戦について、あなたのお考えはリストのどちらに近いでしょうか。

1. 忘れてはならないこととして、 たえず振り返るようにしたい	91.0%
2. 今の生活と関係ないので、 なるべく忘れるようにしたい	5.5
3. わからない、無回答	3.5

－沖縄戦の体験－

第27問 あなたは、沖縄戦の体験を持っていますか。

1. 持っている	13.2%
2. 持っていない	86.5
3. わからない、無回答	0.4

－沖縄戦を語り継ぎたいか－

【第27問で「1」の人に】

第27問SQ あなたは沖縄戦について、これからの若い世代に語りつぎたいと思いますか。リストの中から1つお答えください。

1. 進んで話したい	45.3%
2. たずねられたら話す	44.6
3. 思い出したくないので話さない	7.4
4. 沖縄戦に関心がない	1.4
5. わからない、無回答	1.4

(該当者=148人)

－本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか－

第28問 ところで、現在、本土の人は沖縄の人の気持ちを理解していると思いますか。リストの中から1つお答えください。

1. 十分理解している	2.4%
2. まあ理解している	23.6
3. あまり理解していない	57.2
4. まったく理解していない	13.4
5. わからない、無回答	3.5

－戦争や侵略に巻き込まれる危険－

第38問 あなたは、現在の世界の情勢から考えて、日本が戦争や紛争に巻き込まれたり、他国から侵略を受けたりする危険性がどの程度あると思いますか。リストの中から1つお答えください。

1. 非常に危険がある	17.2%
2. ある程度危険がある	64.1
3. あまり危険はない	13.5
4. まったく危険はない	1.3
5. わからない、無回答	3.8



－安全保障面での脅威－

第39問 リストのAからDについて、あなたは、安全保障の面でどの程度脅威を感じますか。AからDのそれぞれについて、リストの中から1つお答えください。

A) ロシアの極東における軍の活動活発化の傾向

- 1. 大いに脅威を感じる …………… 12.7%
- 2. ある程度脅威を感じる …………… 40.0
- 3. あまり脅威を感じない …………… 33.3
- 4. まったく脅威を感じない …………… 5.6
- 5. わからない、無回答 …………… 8.4

B) 北朝鮮による核開発や弾道ミサイル実験などの挑発的な行動

- 1. 大いに脅威を感じる …………… 55.1%
- 2. ある程度脅威を感じる …………… 33.1
- 3. あまり脅威を感じない …………… 7.0
- 4. まったく脅威を感じない …………… 1.5
- 5. わからない、無回答 …………… 3.2

C) 中国の軍事的な増強や海洋における活動の拡大・活発化

- 1. 大いに脅威を感じる …………… 46.7%
- 2. ある程度脅威を感じる …………… 38.1
- 3. あまり脅威を感じない …………… 9.0
- 4. まったく脅威を感じない …………… 1.8
- 5. わからない、無回答 …………… 4.4

D) 韓国との間で竹島の領有権をめぐる問題があること

- 1. 大いに脅威を感じる …………… 17.5%
- 2. ある程度脅威を感じる …………… 44.5
- 3. あまり脅威を感じない …………… 27.7
- 4. まったく脅威を感じない …………… 5.0
- 5. わからない、無回答 …………… 5.3

「復帰50年の沖縄に関する意識調査」

単純集計結果

【調査の概要】

- 1. 調査期間  
2022年2月2日(水)～3月25日(金)
- 2. 調査方法  
郵送法
- 3. 調査対象  
沖縄県と全国の18歳以上
- 4. 調査相手  
沖縄県 1,800人(12人×150地点)  
全国 1,800人(12人×150地点)
- 5. 有効数(率)  
沖縄県 812人(45.1%)  
全国 1,115人(61.9%)

－本土復帰の評価－

第3問 沖縄が本土に復帰して、まもなく50年になります。この50年をふりかえったとき、あなたは、本土復帰について、どのように思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。(全国調査は第3問)

	沖縄	全国
1. とてもよかった ……………	38.7	54.7%
2. ある程度よかった ……………	45.4	38.4
3. あまりよくなかった ……………	11.9	5.5
4. まったくよくなかった ……………	1.6	0.8
5. 無回答 ……………	2.3	0.6

－復帰評価の理由－

【第3問で「1」「2」を選んだ方にお聞きします】

第4問 そう思う理由は何ですか。あなたのお考えに最も近いものを、次の中から、1つだけ選んでください。

(該当者質問)(全国調査は第4問)

	沖縄	全国
1. 経済的に発展したから ……………	22.3	7.7%
2. 沖縄は日本であることが望ましいから ……………	49.8	67.1
3. アメリカ軍基地の返還が進んだから ……………	4.4	2.2
4. 県外や外国との交流が盛んになったから ……………	13.2	7.6
5. 沖縄の意向が尊重されるようになったから ……………	8.2	14.2
6. その他(具体的に) ……………	1.9	1.2
7. 無回答 ……………	0.3	0.1

(該当者=683人 1,038人)

－復帰不評価の理由－

【第3問で「3」「4」を選んだ方にお聞きます】

第5問 そう思う理由は何ですか。あなたのお考えに最も近いものを、次の中から、1つだけ選んでください。

(該当者質問) (全国調査は第5問)

	沖縄	全国
1. アメリカ軍基地が残り続けているから	40.0	52.9%
2. 観光開発などが進み、自然が失われつつあるから	6.4	4.3
3. 沖縄の伝統的な文化が失われつつあるから	1.8	7.1
4. アメリカの文化に触れる機会が減ったから	2.7	1.4
5. 沖縄の意向が尊重されていないから	46.3	24.3
6. その他(具体的に)	3.6	7.1
7. 無回答	1.8	2.9

(該当者=110人 70人)

－米軍基地の必要性－

第7問 復帰後も、沖縄には、アメリカ軍の基地が残っています。このことについて、あなたは、どう思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。

(全国調査は第7問)

	沖縄	全国
1. 日本の安全にとって、必要だ	10.6	11.5%
2. 日本の安全にとって、やむを得ない	50.7	68.0
3. 日本の安全にとって、必要ではない	19.3	13.7
4. 日本の安全にとって、かえって危険だ	17.4	5.4
5. 無回答	2.0	1.4

－沖縄への自衛隊配備－

第11問 復帰後、沖縄には、自衛隊が配備されています。このことについて、あなたは、どう思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。

(全国調査は第11問)

	沖縄	全国
1. 日本の安全にとって、必要だ	37.1	45.2%
2. 日本の安全にとって、やむを得ない	47.4	49.5
3. 日本の安全にとって、必要ではない	7.0	2.9
4. 日本の安全にとって、かえって危険だ	6.3	0.9
5. 無回答	2.2	1.5

－南西諸島への自衛隊配備－

第12問 政府は、中国の海洋進出に備えて、新たに宮古島や石垣島などの南西諸島に、自衛隊の配備を進めています。このことについて、あなたは、どう思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。

(全国調査は第12問)

	沖縄	全国
1. 日本の安全にとって、必要だ	30.5	40.4%
2. 日本の安全にとって、やむを得ない	44.8	49.2
3. 日本の安全にとって、必要ではない	10.6	6.2
4. 日本の安全にとって、かえって危険だ	12.2	2.2
5. 無回答	1.8	2.0

－沖縄の米軍基地の今後－

第13問 あなたは、沖縄にあるアメリカ軍基地について、どのように考えていますか。次の中から、1つだけ選んでください。(全国調査は第13問)

	沖縄	全国
1. 全面撤去すべきだ	16.3	7.2%
2. 本土並みに少なくすべきだ	63.2	59.0
3. 現状のままでよい	17.9	31.8
4. もっと増やすべきだ	1.0	0.6
5. 無回答	1.7	1.3

－基地の整理・縮小で県民の意向は(沖縄)－

第16問 あなたは、沖縄にあるアメリカ軍基地の整理・縮小について、沖縄県民の意向が、どの程度、反映されていると思いますか。あなたのお考えに最も近いものを、次の中から、1つだけ選んでください。

	沖縄
1. かなり反映されている	1.7%
2. ある程度反映されている	23.5
3. あまり反映されていない	48.0
4. まったく反映されていない	24.9
5. 無回答	1.8

－基地の整理・縮小どうしたら進むか－

第18問 あなたは、沖縄にあるアメリカ軍基地の整理・縮小は、どうしたら進むと思いますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを、1つだけ選んでください。

(全国調査は第17問)

	沖縄	全国
1. アメリカに基地の整理・縮小を強く働きかける	22.5	25.5%
2. 沖縄にあるアメリカ軍基地を本土に分散させる	39.9	13.7
3. アメリカ軍に依存しなくても済むように自衛力を高める	12.9	25.7
4. 近隣諸国との緊張緩和に向けた外交努力を強化する	19.5	31.2
5. その他(具体的に)	2.5	2.1
6. 無回答	2.7	1.9

－在日米軍基地の沖縄への集中－

第19問 在日アメリカ軍の専用施設のうち、およそ70%が沖縄にあります。このことについて、あなたは、どう思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。

(全国調査は第18問)

	沖縄	全国
1. おかしいと思う	56.2	23.8%
2. どちらかといえば、おかしいと思う	28.3	55.1
3. どちらかといえば、おかしいとは思わない	8.4	13.2
4. おかしいとは思わない	4.8	6.5
5. 無回答	2.3	1.5

－事件・事故に巻き込まれる不安（沖縄）－

	沖縄	全国
第21問 あなたは、沖縄にアメリカ軍の基地があることによって、事件や事故に巻き込まれる不安を、どの程度、感じていますか。次の中から、1つだけ選んでください。		
	沖繩	
1. 非常に感じている	38.2%	
2. ある程度感じている	44.2	
3. あまり感じていない	13.8	
4. まったく感じていない	2.2	
5. 無回答	1.6	
		沖繩 全国
1. 沖縄県内の他の場所に移設すべきだ	4.1	5.5%
2. 国内の沖縄県以外の場所に移設すべきだ	30.5	18.9
3. 海外に移設すべきだ	22.6	21.2
4. 代わりの施設を作らずに撤去すべきだ	36.8	30.0
5. 普天間にそのまま残しておくべきだ	3.7	18.9
6. その他（具体的に）	1.2	4.4
7. 無回答	1.2	1.3
		(該当者=514人 477人)

－日米地位協定見直す必要があるか－

第22問 あなたは、日本に駐留するアメリカ軍関係者の権利などを定めた「日米地位協定」について、見直す必要があると思いますか。それとも、見直す必要はないと思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。  
(全国調査は第19問)

	沖繩	全国
1. 見直す必要がある	81.7	68.6%
2. 見直す必要はない	2.3	3.3
3. どちらともいえない	13.7	26.4
4. 無回答	2.3	1.7

－普天間基地の辺野古移設－

第23問 政府は、沖縄のアメリカ軍普天間基地について、名護市辺野古への移設を進めています。このことについて、あなたは、どう思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。  
(全国調査は第20問)

	沖繩	全国
1. 賛成	10.5	10.2%
2. どちらかといえば、賛成	23.6	43.9
3. どちらかといえば、反対	29.3	31.8
4. 反対	34.0	10.9
5. 無回答	2.6	3.1

－移設賛成の理由－

【第23問で「1」「2」を選んだ方にお聞きします】

第24問 そう思う理由は何ですか。次の中から、1つだけ選んでください。

(該当者質問) (全国調査は第21問)

	沖繩	全国
1. 住宅が隣接する普天間基地の危険性を早く取り去ることが重要だから	79.4	71.8%
2. 移設を受け入れることが沖縄の経済振興につながるから	9.7	8.8
3. 名護市以外への移設は難しいから	6.1	12.3
4. 名護市に移設することが国の防衛上必要だから	3.2	5.8
5. その他（具体的に）	1.4	1.2
6. 無回答	0.0	0.2
		(該当者=277人 603人)

－移設反対の理由－

【第23問で「3」「4」を選んだ方にお聞きします】

第25問 あなたは、アメリカ軍普天間基地の移設について、どうすべきだと思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。

(該当者質問) (全国調査は第22問)

－戦争や紛争に巻き込まれる危険－

第26問 あなたは、現在の世界の情勢から考えて、日本が戦争や紛争に巻き込まれたり、他国から侵略を受けたりする危険性が、どの程度あると思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。  
(全国調査は第23問)

	沖繩	全国
1. 非常に危険がある	28.4	22.2%
2. ある程度危険がある	53.6	62.3
3. あまり危険はない	13.9	13.9
4. まったく危険はない	2.0	0.8
5. 無回答	2.1	0.8

－近隣諸国への脅威－

第27問 あなたは、次に挙げる近隣諸国について、安全保障の面で、どの程度、脅威を感じますか。a～dのそれぞれの国について、あてはまるものを、1つずつ選んでください。  
(全国調査は第24問)

	沖繩	全国
a. 中国		
1. 大いに感じる	56.3	49.7%
2. ある程度感じる	30.4	39.4
3. あまり感じない	9.2	9.0
4. まったく感じない	1.0	1.2
5. 無回答	3.1	0.8
b. 韓国		
1. 大いに感じる	11.7	10.6%
2. ある程度感じる	30.7	43.7
3. あまり感じない	46.6	39.2
4. まったく感じない	7.8	5.6
5. 無回答	3.3	1.0
c. 北朝鮮		
1. 大いに感じる	56.8	62.8%
2. ある程度感じる	27.1	26.5
3. あまり感じない	10.8	7.8
4. まったく感じない	2.2	2.2
5. 無回答	3.1	0.7
d. ロシア		
1. 大いに感じる	29.7	33.3%
2. ある程度感じる	38.9	41.3
3. あまり感じない	24.5	22.2
4. まったく感じない	3.3	2.4
5. 無回答	3.6	0.8

－米軍基地と沖縄の経済－

第28問 あなたは、沖縄の経済は、アメリカ軍基地がなければ、成り立たないと思いますか。それとも、そうは思いませんか。次の中から、1つだけ選んでください。  
(全国調査は第25問)

	沖縄	全国
1. そう思う	10.5	11.7%
2. どちらかといえば、そう思う	31.5	46.0
3. どちらかといえば、そうは思わない	29.8	31.6
4. そうは思わない	25.7	9.1
5. 無回答	2.5	1.7

－基地と沖縄経済の発展－

第29問 あなたは、アメリカ軍基地の存在は、今後の沖縄経済の発展にとって、プラスだと思いますか。それとも、マイナスだと思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。  
(全国調査は第26問)

	沖縄	全国
1. プラスだ	7.8	6.5%
2. どちらかといえば、プラスだ	40.9	59.0
3. どちらかといえば、マイナスだ	30.9	28.2
4. マイナスだ	17.2	3.9
5. 無回答	3.2	2.4

－米軍基地と暮らし(沖縄)－

第32問 沖縄にアメリカ軍の基地があることは、あなたの暮らしや仕事に役立っていると思いますか。それとも、役立っていないと思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。

	沖縄
1. 役立っている	6.2%
2. どちらかといえば、役立っている	20.1
3. どちらかといえば、役立っていない	33.4
4. 役立っていない	38.2
5. 無回答	2.2

－米軍基地と沖縄の暮らし(全国)－

(全国調査) 第29問 あなたは、沖縄にアメリカ軍の基地があることは、沖縄の人々の暮らしや仕事に役立っていると思いますか。それとも、役立っていないと思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。

	全国
1. 役立っている	8.4%
2. どちらかといえば、役立っている	66.9
3. どちらかといえば、役立っていない	18.9
4. 役立っていない	3.9
5. 無回答	1.8

－役立っていない理由(沖縄)－

【第32問で「3」「4」を選んだ方にお聞きします】

第33問 そう思う理由は何ですか。次の中から、あてはまるものを、いくつでも選んでください。  
(該当者質問)

	沖縄
1. アメリカ軍関連の仕事がすでに減っているから	7.1%
2. 国からの振興予算の恩恵がないから	14.8
3. 県民の対立を深めているから	37.2
4. 自分の暮らしや仕事には関係がないから	55.6
5. 基地の存在が沖縄のイメージを悪くしているから	18.9
6. 騒音問題に悩まされているから	48.9
7. 水の汚染など環境問題が起きているから	52.0
8. アメリカ軍関係者による事件などの弊害のほうが大きいため	59.0
9. アメリカ軍機の墜落や部品落下の不安が常にあるから	51.5
10. その他(具体的に)	3.1
11. 無回答	0.2

(該当者=581人)

－国の振興策の評価－

第34問 国は、復帰してから50年間にわたって、沖縄の振興策を実施してきました。あなたは、国の振興策が、沖縄の発展に、どの程度、役に立ったと思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。

(全国調査は第30問)

	沖縄	全国
1. 非常に役に立った	16.3	7.8%
2. ある程度役に立った	63.1	70.6
3. あまり役に立たなかった	15.5	18.5
4. まったく役に立たなかった	2.3	1.2
5. 無回答	2.8	2.0

－本土の人は沖縄の人の気持ちを理解しているか－

第38問 あなたは、現在、本土の人は、沖縄の人の気持ちを、どの程度、理解していると思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。

(全国調査は第31問)

	沖縄	全国
1. 十分に理解している	2.1	1.6%
2. ある程度理解している	41.5	31.4
3. あまり理解していない	41.0	58.8
4. まったく理解していない	12.8	7.3
5. 無回答	2.6	0.9

－理解していないと思う理由(沖縄)－

【第38問で「3」「4」を選んだ方にお聞きします】

第39問 あなたが、「理解していない」と思うのは、どのような時でしょうか。下の枠の中に、ご自由にお書きください。

(自由記述)(該当者質問)(沖縄調査のみ)

(省略)

一 国の施策と沖縄の意向一

第40問 あなたは、沖縄県に対する国の施策は、全体として、どの程度、沖縄県の意向を踏まえていると思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。  
(全国調査は第32問)

	沖縄	全国
1. 十分に踏まえている	1.6	2.4%
2. ある程度踏まえている	36.3	38.7
3. あまり踏まえていない	48.5	53.5
4. まったく踏まえていない	11.1	3.7
5. 無回答	2.5	1.7

一 沖縄戦の歴史知りたいか一

第45問 あなたは、沖縄戦の歴史を、どの程度、知りたいと思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。  
(全国調査は第35問)

	沖縄	全国
1. とても知りたいと思う	42.9	20.3%
2. ある程度知りたいと思う	46.2	59.0
3. あまり知りたいとは思わない	8.4	18.7
4. まったく知りたいとは思わない	0.7	1.1
5. 無回答	1.8	0.9

一 沖縄戦の歴史は継承されているか一

第46問 あなたは、戦争を経験していない世代に、沖縄戦の歴史が、どの程度、継承されていると思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。  
(全国調査は第36問)

	沖縄	全国
1. 十分に継承されている	2.0	1.6%
2. ある程度継承されている	42.1	24.6
3. あまり継承されていない	50.4	64.8
4. まったく継承されていない	3.9	8.3
5. 無回答	1.6	0.6

一 沖縄戦継承に力を入れるべきか一

第47問 あなたは、沖縄戦の歴史を継承していくことについて、どの程度、力を入れた方がいいと思いますか。次の中から、1つだけ選んでください。  
(全国調査は第37問)

	沖縄	全国
1. かなり力を入れた方がいい	47.5	26.0%
2. ある程度力を入れた方がいい	46.1	63.9
3. あまり力を入れる必要はない	3.9	8.3
4. まったく力を入れる必要はない	0.4	0.6
5. 無回答	2.1	1.2

一 沖縄戦継承で力を入れるべきこと一

第48問 沖縄戦を後世に伝えていくうえで、あなたが、特に力を入れた方がいいと思うことは何ですか。次の中から、いくつでも選んでください。  
(全国調査は第38問)

	沖縄	全国
1. 体験者の証言を映像や文章で残す	81.8	72.6%
2. 遺品をさらに収集して展示する	23.9	16.0
3. 戦争の遺跡を保存して 多くの人に見てもらう	53.2	49.8
4. 体験を語り継ぐ「語り部」を増やす	45.0	33.9
5. 学校で子どもたちに教える	74.6	64.9
6. テレビや新聞などのマスメディアが 報道する	45.0	38.2
7. 映画やドラマ、演劇で伝える	39.3	29.1
8. アニメや漫画で伝える	36.3	28.3
9. YouTubeなどの動画投稿サイトや SNSで発信する	26.7	19.3
10. その他(具体的に)	2.2	0.7
11. 特になし	1.4	2.5
12. 無回答	1.8	0.6

一 沖縄の現状への満足度(沖縄)一

第49問 あなたは、沖縄の現状に満足していますか。次の中から、1つだけ選んでください。

	沖縄
1. 非常に満足している	2.1%
2. ある程度満足している	48.6
3. あまり満足していない	42.2
4. まったく満足していない	5.5
5. 無回答	1.5

一 沖縄の誇り(沖縄)一

一 沖縄の魅力(全国)一

第53問 あなたは、沖縄のどんなところに、誇りを持っていますか。次の中から、あてはまるものを、いくつでも選んでください。

(全国調査) 第40問 あなたは、沖縄のどんなところが魅力だと思いますか。次の中から、あてはまるものを、いくつでも選んでください。

	沖縄	全国
1. 豊かな自然	70.7	83.1%
2. 観光リゾート地	34.4	65.3
3. 沖縄の音楽や芸能	65.9	45.3
4. 沖縄のことば	42.2	23.6
5. 沖縄の食文化	59.5	35.9
6. 海外と広く交流してきた沖縄の歴史	41.3	18.9
7. 家族や親戚を大切にしていること	60.8	30.6
8. ふるさとを大切にしていること	51.2	30.3
9. 助け合いの気持ちが強いこと	59.4	23.4
10. 平和を求める気持ちが強いこと	50.2	32.9
11. 長寿の人が多く	22.8	30.9
12. 歌手やスポーツ選手など 活躍している人が多いこと	28.6	20.2
13. その他(具体的に)	1.0	0.5
14. 特になし	1.4	1.3
15. 無回答	1.1	0.8

—沖繩の将来の見通し—

第54問 あなたは、沖繩の将来に対して、どのような見通しを持っていますか。次の中から、あなたのお考えに最も近いものを、1つだけ選んでください。

(全国調査は第41問)

	沖繩	全国
1. とても明るい	6.2	9.7%
2. まあ明るい	55.5	63.0
3. あまり明るくない	33.1	24.2
4. まったく明るくない	2.6	0.4
5. 無回答	2.6	2.6

—沖繩の今後の課題—

第55問 あなたは、これからの沖繩にとって、特に重要な課題は、何だと思いますか。次の中から、あてはまるものを、いくつでも選んでください。

(全国調査は第42問)

	沖繩	全国
1. 貧困や格差の解消	77.1	24.9%
2. アメリカ軍基地の整理・縮小	60.8	61.1
3. 経済の自立・産業の振興	67.7	49.9
4. 交通渋滞の解消	32.5	4.5
5. 若者の地元への定着	29.4	28.3
6. 夜型社会の解消	27.8	11.7
7. 自然環境の保護	60.8	64.4
8. 沖繩の歴史の継承	50.9	49.1
9. 伝統文化や言葉の継承	46.8	32.5
10. 医療・福祉の充実	59.5	28.3
11. 子どもの学力向上	64.2	17.5
12. その他(具体的に)	1.6	1.4
13. 特になし	0.2	2.2
14. 無回答	1.2	0.9